



01V96i

DIGITAL MIXING CONSOLE

取扱説明書

このたびはヤマハデジタルミキシングコンソール01V96iをお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。
01V96iの優れた機能を十分に発揮させるとともに、末永くご愛用いただくために、この取扱説明書をご使用の前に必ずお読みください。

目次

安全上のご注意 3

はじめに 7

付属品について	7
同梱ディスクについて	7
付属 DAW ソフトウェアについて	7
ユーティリティーソフトウェアについて	7
ファームウェアのアップデートについて	8
取扱説明書について	8
表記について	8

各部の名称と機能 9

トップパネル	9
リアパネル	16
オプションカードの取り付け	18

01V96i の基本操作 19

ディスプレイの見方	19
画面 / ページを選択する	20
画面内のユーザーインターフェース	20
レイヤーを選択する	21
チャンネルを選択する	22
フェーダーモードを選択する	22
レベルメーターの見方	23

接続とセットアップ 25

接続	25
ワードクロックの接続と設定	27
入出力端子のパッチングについて	29

目的別操作 31

インプットパッチ / アウトプットパッチを 設定する	31
入力レベルを設定する	32
2つのチャンネルをペア化する	33
ルーティングを設定する	33
入力信号にイコライザーをかける	35
EQ ライブラリーを使う	36
入力信号にコンプレッサーをかける	37

内蔵エフェクトを使う	38
USB 端子を使って DAW ソフトウェアに 録音する	39
DAW からのモニターレベルを調節する	41
シーンメモリーを使う	42
チャンネルの名前を変更する	43
チャンネルを組み合わせてレイヤーを作る (ユーザーアサインブルレイヤー)	44
オシレーターを使う	45
ユーザー定義キーを使う	46
オペレーションロックを使う	47
工場出荷時の状態に戻す	48

困ったときは 49

エラーメッセージ 51

リファレンスマニュアルの目次 54

仕様 55

一般仕様	55
ライブラリー	60
アナログ入力仕様	61
アナログ出力仕様	61
デジタル入力仕様	62
デジタル出力仕様	62
I/O SLOT 仕様	63
MIDI/USB/WORD CLOCK I/O 仕様	64
寸法図	64

別売品について 65

ラックマウントキット RK1	65
----------------------	----

索引 66

保証書 巻末

01V96i ブロックダイアグラム 巻末

01V96i レベルダイアグラム 巻末

保証とアフターサービス 巻末

安全上のご注意




ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。


■ 記号表示について


この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	～しないでくださいという「禁止」を示します。
	「必ず実行」してくださいという強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

 警告	この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
---	---

 注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。
---	--

この製品の内部には、お客様が修理 / 交換できる部品はありません。点検や修理は、必ずお買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。

警告

電源 / 電源コード



禁止

電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。

電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。



必ず実行

電源はこの機器に表示している電源電圧で使用する。

誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



必ず実行

電源コードは、必ず指定のものを使用する。また、付属の電源コードをほかの製品に使用しない。

故障、発熱、火災などの原因になります。

ただし、日本国外で使用する場合は、付属の電源コードを使用できないことがあります。お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。



必ず実行

電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。

感電やショートのおそれがあります。



必ず実行

電源プラグは保護接地されている適切なコンセントに接続する。

確実に接地接続しないと、感電の原因になります。

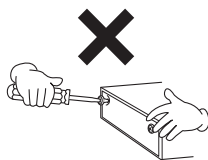
分解禁止



禁止

この機器の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、けが、または故障の原因になります。異常を感じた場合など、点検や修理は、必ずお買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。



水に注意



禁止

この機器の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。

内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。感電のおそれがあります。

火に注意



禁止

この機器の上にもろそくなど火気のあるものを置かない。

もろそくなどが倒れたりして、火災の原因になります。

異常に気づいたら



必ず実行

下記のような異常が発生した場合、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- ・ 電源コード/プラグがいたんだ場合
- ・ 製品から異常なおいや煙が出た場合
- ・ 製品の内部に異物が入った場合
- ・ 使用中に音が出なくなった場合

そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



必ず実行

この機器を落とすなどして破損した場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

⚠ 注意

電源 / 電源コード



必ず実行

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



必ず実行

長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。感電や火災、故障の原因になることがあります。

設置



禁止

不安定な場所に置かない。この機器が転倒して故障したり、お客様やほかの方々がけがをしたりする原因になります。



禁止

この機器の通風孔（放熱用スリット）をふさがない。内部の温度上昇を防ぐため、この機器の背面/側面には通風孔があります。特に、この機器をひっくり返したり、横倒しや前後逆さまにしたりしない。機器内部に熱がこもり、故障や火災の原因になることがあります。



禁止

風通しの悪い狭いところに押し込めたりしない。EIA 標準のラックにこの機器をマウントする場合は、ラックの背面を開放して、ラックを壁から 10cm 以上離す。また、パワーアンプなどの発熱しやすい機器といっしょにラックにマウントする場合は、機器と機器の間を空けたり通風パネルなどを取り付けたり、この機器に熱がこもらないようにする。



禁止

塩害や腐食性ガスが発生する場所に設置しない。故障の原因になります。



必ず実行

この機器を移動するときは、必ず接続ケーブルをすべて外した上で行なう。ケーブルをいためたり、お客様やほかの方々が転倒したりするおそれがあります。



必ず実行

この機器を電源コンセントの近くに設置する。電源プラグに容易に手の届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

接続



必ず実行

ほかの機器と接続する場合は、すべての電源を切った上で行なう。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器の音量（ボリューム）を最小にする。感電、聴力障害または機器の損傷になることがあります。

手入れ



必ず実行

この機器の手入れをするときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。感電の原因になることがあります。

取り扱い



禁止

この機器の通風孔 / パネルのすき間に手や指を入れない。お客様がけがをするおそれがあります。



禁止

この機器の通風孔 / パネルのすき間から金属や紙片などの異物を入れない。感電、ショート、火災や故障の原因になることがあります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



禁止

この機器の上のにのったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。この機器が破損したり、お客様やほかの方々がけがをしたりする原因になります。



禁止

大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。聴覚障害の原因になります。

注記（ご使用上の注意）

製品の故障、損傷や誤動作、データの損失を防ぐため、以下の内容をお守りください。

■ 製品の取り扱い / お手入れに関する注意

- テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しないでください。楽器本体またはテレビやラジオなどに雑音が生じる原因になります。
- 直射日光のあたる場所（日中の車内など）やストーブの近くなど極端に温度が高くなる場所、逆に温度が極端に低いところ、また、ほこりや振動の多いところで使用しないでください。本体のパネルが変形したり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になったりする原因になります。
- 本体上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かないでください。本体のパネルが変色 / 変質する原因になります。

■ データの保存に関する注意

- この機器はバックアップバッテリーが内蔵されていますので、電源プラグがコンセントから外されても、内部のデータは保持されます。ただし、バックアップバッテリーが消耗すると内部のプリセット以外のデータは消えてしまいます。バックアップバッテリーが消耗してくると、電源を入れたときにディスプレイに“WARNING Low Battery!”が表示されます。その場合は、すぐにデータをMIDIバルクアウトを利用して外部メディアに保存し、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターにバックアップバッテリーの交換をご依頼ください。

お知らせ

- * この製品は、JIS C 61000-3-2 に適合しています。
- * この取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。
- * MIDI は社団法人音楽電子事業協会 (AMEI) の登録商標です。
- * その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

- データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。
- 不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

使用後は、必ず電源スイッチを切りましょう。

はじめに

このたびは、ヤマハデジタルミキシングコンソール 01V96i をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。

01V96i はコンパクトなサイズながら、24 ビット /96kHz のクオリティで 40 チャンネルの同時ミキシングが可能なデジタルコンソールです。マルチトラック録音から、2 チャンネルへのミックスダウン、サラウンドプロダクションまで、さまざまなニーズに対応します。

付属品について

- ・ 電源コード
- ・ 取扱説明書(本書)
- ・ リファレンスマニュアル CD-ROM×1 枚
- ・ DVD-ROM×1 枚 (付属 DAW ソフトウェア)

同梱ディスクについて

ご注意:

- ・ 付属のソフトウェアの著作権は、Steinberg Media Technologies GmbH が所有します。
- ・ 付属のソフトウェアおよび取扱説明書の一部または全部を無断で複製、改変することはできません。
- ・ 付属のソフトウェアおよび取扱説明書を運用した結果およびその影響については、一切責任を負いかねますのでご了承ください。
- ・ 付属のディスクは、オーディオ用ではありません。一般のオーディオ用のプレーヤーでは使用しないでください。

付属 DAW ソフトウェアについて

ヤマハ株式会社では、付属 DAW ソフトウェアについてのサポートは行っておりません。付属ソフトウェアについては、Steinberg 社のウェブサイトをご覧ください。Steinberg 社のウェブサイトでは、製品に関するサポート情報や最新アップデートのダウンロード、FAQなどを公開しています。

<http://japan.steinberg.net/>

ユーティリティーソフトウェアについて

01V96i には、コンピューターに接続して使うユーティリティーソフトウェアが用意されています。

■ Yamaha Steinberg USB Driver

01V96i をコンピューターと接続するためのドライバソフトウェアです。お使いのコンピューターにインストールすると、オーディオ /MIDI の通信ができるようになります。

■ 01V96i Editor

01V96i 本体の設定をコンピューター上で行なうソフトウェアです。また、本体設定のバックアップや、本体がない場所での仕込みもソフトウェア上で行なえます。

01V96i Editor は、プラットフォームソフトウェア「Studio Manager Version 2」上で動作します。

■ Studio Manager Version 2

複数のエディターを統合的に管理するソフトウェアです。01V96i Editor も、このソフトウェア上で動作します。複数の機器の設定を同時に呼び出したり、保存したりできます。

これらのソフトウェアはヤマハプロオーディオのウェブサイトからダウンロードできます。

<http://proaudio.yamaha.co.jp/>

インストールや詳しい設定などについての情報は、上記ウェブサイトやダウンロードしたプログラムに付属のインストールガイドをご参照ください。

ファームウェアのアップデートについて

この製品は、操作性向上や機能の追加、不具合の修正のために、本体のファームウェアをアップデートできる仕様になっています。ファームウェアのアップデートは、コンピューターと接続して行ないますので、コンピューターにあらかじめドライバソフトウェア「Yamaha Steinberg USB Driver」をインストールしておく必要があります。

ファームウェアのアップデートは、アップデートソフトウェアで行ないます。アップデートソフトウェアは、下記ウェブサイトからダウンロードできます。

<http://proaudio.yamaha.co.jp/>

アップデートの手順や本体の設定については、ウェブサイトを用意されているファームウェアアップデートガイドをご参照ください。

取扱説明書について

■ 取扱説明書(本書)

主にパネル上の各部の名称と機能、基本的な操作について説明しています。

■ リファレンスマニュアル(PDF形式 / 同梱CD-ROMに収録)

主に機能の詳細やエフェクトパラメーター、MIDIについて説明しています。

PDF マニュアルの活用方法

リファレンスマニュアルは、PDF形式の電子ファイルになっています。このファイルは、コンピューターでご覧いただけます。コンピューターでご覧いただくソフトウェアとして「Adobe® Reader®」を使うと、用語をすばやく検索したり、必要な部分だけを印刷したり、リンクをクリックして該当する項目を開いたりすることができます。特に用語検索とリンク機能は、電子ファイルならではの便利な機能です。是非ご活用ください。

最新の Adobe Reader は下記のウェブサイトよりダウンロードできます。

<http://www.adobe.com/jp/>

表記について

本書ではキー等の名称で、パネルに実際に印刷されているものは[]でくくって表記しています。

パネルにあるスイッチで、カチカチと押して使うタッチタイプのスイッチを**キー**、押し込んで使うスイッチを**スイッチ**と表記し、ディスプレイ画面内に表示されるスイッチを、パネル上のキーやスイッチと区別して**ボタン**と表記しています。

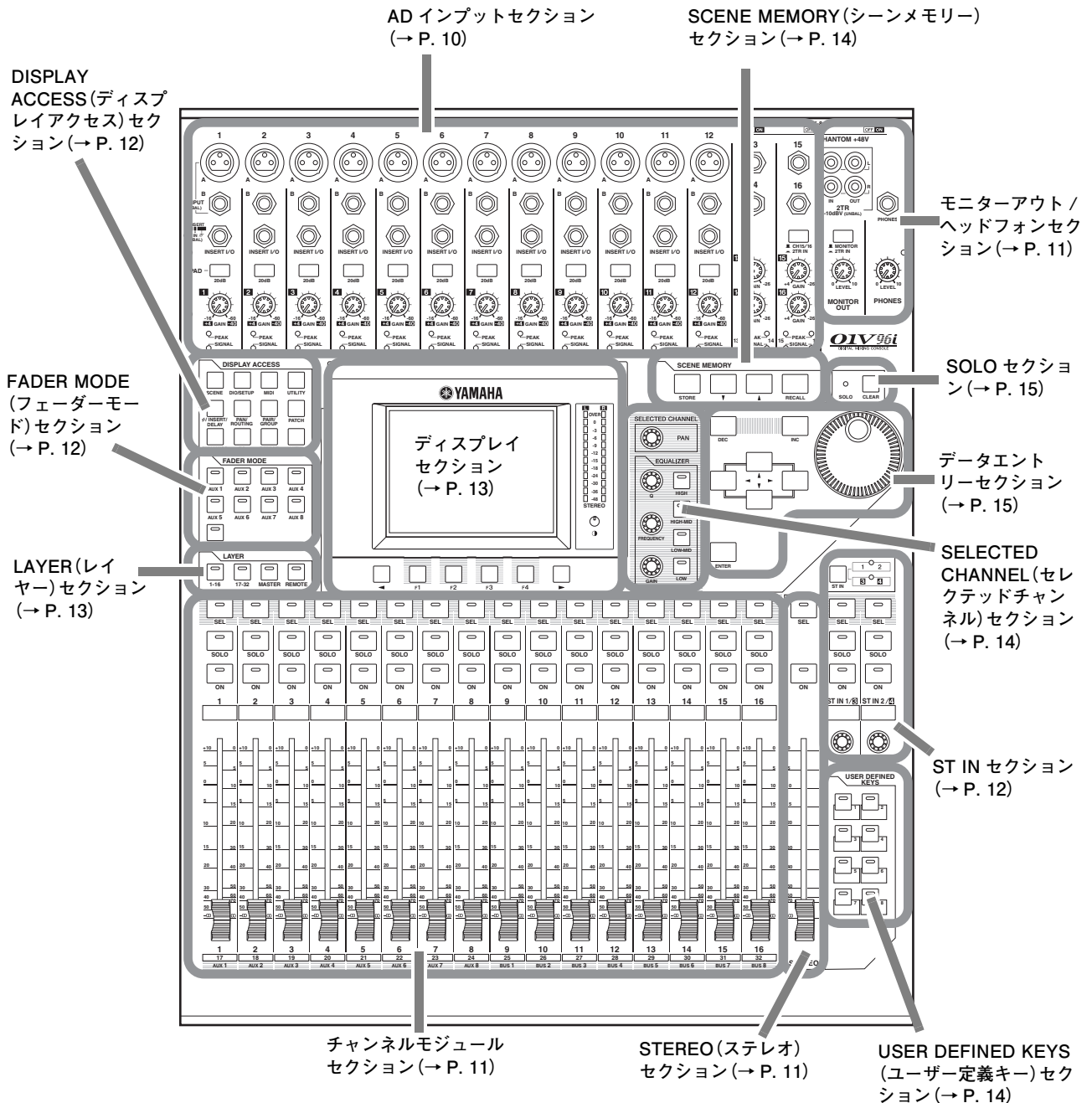
例: [ON]キー、[PAD]スイッチ、ONボタン

パネル上のボリュームは**コントロール**と表記し、ディスプレイ画面内に表示されるボリュームを**ノブ/フェーダー**と表記しています。

ディスプレイ画面の中でタブの選択により切替わる部分を**ページ**と表記しています。

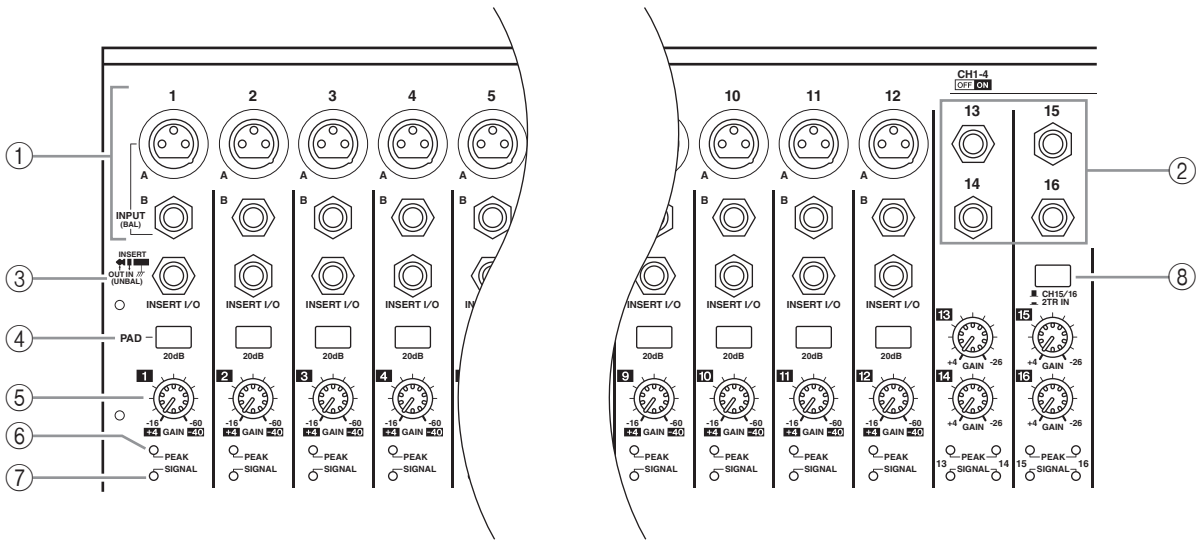
各部の名称と機能

トップパネル



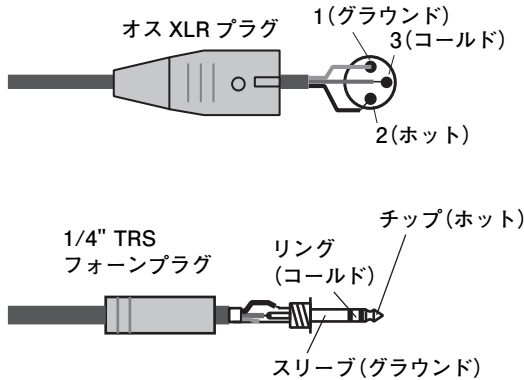
ノート: この機器には、カバー取り付け用のネジ穴が AD インプットセクションの両端にあります(サイズ M3、横間隔 417mm、縦間隔 36mm)。誤操作を防ぐためにお客様自身で作られたカバーをフロントパネルに取り付けられます。ただし、ヤマハからこのカバーは販売されておりません。カバーを取り付ける場合は、取り付けネジまたは支柱ネジがフロントパネルに 10mm 以上深く入り込まないように取り付けください。また、カバーが操作子にあたらないようにするために、トップパネルとカバーの間隔を約 15 ~ 20mm とってください。

AD インットセクション



① INPUT 端子 A/B

INPUT 端子 A は、ラインレベル機器やマイクロフォンの信号を入力するバランス XLR-3-31 タイプの入力端子です。リアパネルのファンタム + 48V スイッチをオンにすると、ファンタム電源を供給します。INPUT 端子 B はラインレベル機器やマイクロフォンの信号を入力するバランス TRS フォンタイプの入力端子です。各端子とも定格入力レベルは $-60\text{dB} \sim +4\text{dB}$ です。INPUT 端子 B にはファンタム電源を供給しません。両方の端子にケーブルが接続された場合は、INPUT 端子 B の信号が優先されます。

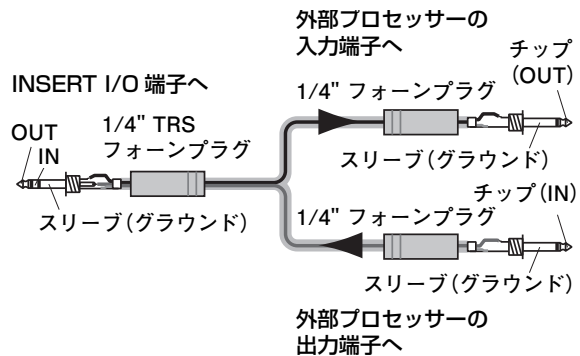


② INPUT 端子 13 ~ 16

ラインレベルの信号を入力できるバランス TRS フォンタイプの入力端子です。定格入力 $-26\text{dB} \sim +4\text{dB}$ です。なお、INPUT 端子 15/16 は、AD15/16 ソース選択スイッチがオフのときにだけ利用できます。

③ INSERT I/O 端子

チャンネルインサート用のアンバランス TRS フォンタイプの入出力端子です。この端子に Y 字ケーブルを差し込めば、AD インットにエフェクターなどの外部機器を挿入できます。



④ [PAD] スイッチ

AD インットごとに、20dB パッド(アッテネーター)のオン/オフを切り替えます。

⑤ [GAIN] コントロール

AD インットごとに入力感度を調節します。[PAD] スイッチのオン/オフに応じて、 $-16\text{dB} \sim -60\text{dB}$ ([PAD] スイッチ=オフ)、または $+4\text{dB} \sim -40\text{dB}$ ([PAD] スイッチ=オン) の信号レベルに対応します。

⑥ [PEAK] インジケータ

INPUT 端子から入力された信号が、クリッピングポイントよりも 3dB 低いレベルに到達すると、このインジケータが点灯します。ピーク時にこのインジケータがかすかに点灯するように、[PAD] スイッチ/[GAIN] コントロールを調節してください。

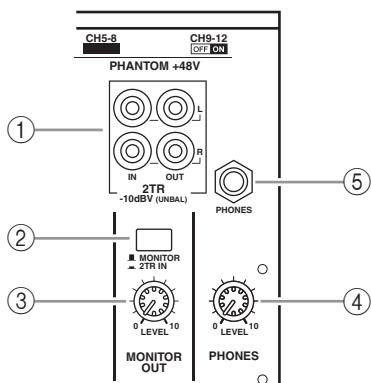
⑦ [SIGNAL] インジケータ

INPUT 端子から入力された信号のレベルが -34dB を越えると、このインジケータが点灯します。

⑧ AD15/16 ソース選択スイッチ

AD インット 15/16 で利用する信号を選択します。キーが押し込まれているときは 2TR IN 端子 (→ P.17) の入力信号、押し上げられているときは INPUT 端子 15/16 の入力信号が利用できます。

モニターアウト / ヘッドフォンセクション



① 2TR IN/OUT 端子

ラインレベルの信号を入出力できるアンバランスの RCA ピン端子です。外部レコーダーなどを接続するときにご利用します。

AD15/16 ソース選択スイッチ(AD インプットセクション ⑧)が押し込まれているときは、この端子からの入力信号が AD インプット 15/16 に送られます。また、モニターソース選択スイッチ(②)が押し込まれているときは、この端子からの入力信号を直接 MONITOR OUT 端子からモニターできます。

なお、2TR OUT 端子からは、常に STEREO OUT 端子と同じ信号が出力されます。

② モニターソース選択スイッチ

リアパネルの MONITOR OUT 端子から出力する信号を選択します。このスイッチが押し込まれているときは 2TR IN 端子からの入力信号、押し上げられているときはステレオアウトの出力信号やソロの信号がモニターできます。

③ [MONITOR LEVEL] コントロール

MONITOR OUT 端子から出力される信号のモニターレベルを調節します。

④ [PHONES LEVEL] コントロール

PHONES 端子から出力される信号のモニターレベルを調節します。

⑤ PHONES 端子

ステレオヘッドフォンを接続するステレオフォン端子です。この端子からは、MONITOR OUT 端子と同じ信号が出力されます。

チャンネルモジュールセクション

① [SEL] キー

操作の対象となるチャンネルを選択します。選択されたチャンネルは [SEL] キーのインジケータが点灯します。対応するチャンネルは、現在 LAYER セクション(→ P.13)で選ばれているレイヤーに応じて変化します。その他、チャンネル同士のペアの設定と解除、フェーダー、ミュート、EQ、コンプレッサーの各グループへの登録と解除などにも利用します。

② [SOLO] キー

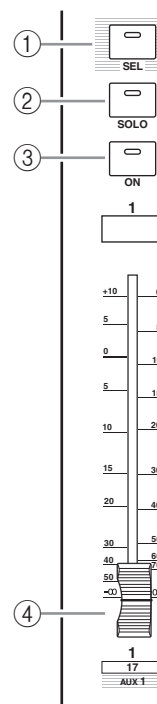
選択したチャンネルをソロ状態に切り替えます。ソロに設定されたチャンネルは、[SOLO] キーのインジケータが点灯します。

③ [ON] キー

チャンネルごとのオン / オフを切り替えます。現在オンに設定されているチャンネルは、[ON] キーのインジケータが点灯します。

④ チャンネルフェーダー

FADER MODE セクション(→ P.12)で選ばれているキーに応じて、選択したチャンネルの入力レベル、またはバスアウトや AUX アウトの出力レベルを調節します。



STEREO(ステレオ)セクション

① [SEL] キー

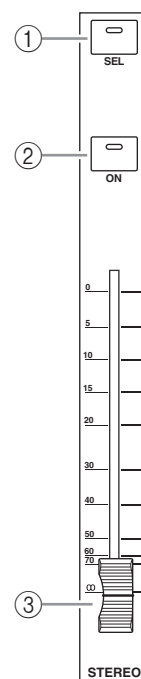
操作対象としてステレオアウトを選択します。

② [ON] キー

ステレオアウトのオン / オフを切り替えます。

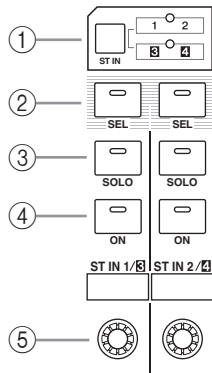
③ [STEREO] フェーダー

ステレオアウトの最終的な出力レベルを調節する 100mm モーターフェーダーです。



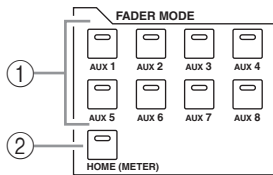
ST IN セクション

- ① **[ST IN]キー**
ST IN セクションのキーやコントロールを使って操作する ST IN チャンネルの組み合わせ(ST IN チャンネル 1/2 または 3/4)を選びます。現在操作可能なチャンネルは、キーの右側にあるインジケータで確認できます。



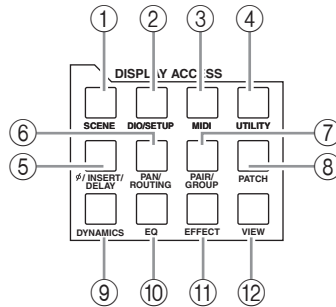
- ② **[SEL]キー**
操作対象となる ST IN チャンネルを選択します。
- ③ **[SOLO]キー**
選択した ST IN チャンネルをソロ状態に切り替えます。
- ④ **[ON]キー**
ST IN チャンネルのオン / オフを切り替えます。
- ⑤ **レベルコントロール**
ST IN チャンネルのレベルを調節します。

FADER MODE(フェーダーモード)セクション



- ① **[AUX 1]~[AUX 8]キー**
操作の対象となる AUX センドを選択するときに利用します。キーを押して AUX センドを選ぶと、フェーダーモード(→ P.22)が切り替わり、ディスプレイに AUX 画面が表示されます(選択したキーのインジケータは点灯します)。この状態で、フェーダーを使ってインプットチャンネルから該当する AUX へのセンドレベルが調節できます。
- ② **[HOME]キー**
インプットチャンネルの入力レベルやアウトプットチャンネル(バスアウト、AUX アウト、ステレオアウト)の出力レベルを表示する METER 画面を呼び出します(→ P.23)。

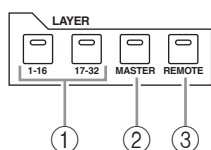
DISPLAY ACCESS(ディスプレイアクセス)セクション



- ① **[SCENE]キー**
シーンのストアやリコールなどを行なう SCENE 画面を呼び出します。
- ② **[DIO/SETUP]キー**
デジタル入出力の設定、リモートコントロールの設定など、01V96i の各種設定を行なう DIO/SETUP 画面を呼び出します。
- ③ **[MIDI]キー**
MIDI 関連の設定を行なう MIDI 画面を呼び出します。
- ④ **[UTILITY]キー**
内蔵のオシレーターを利用したり、オプションカードの各種情報の表示したりする UTILITY 画面を呼び出します。
- ⑤ **[φ/INSERT/DELAY]キー**
信号の位相切り替え、挿入する信号の設定、ディレイに関する設定などを行なう φ/INS/DLY 画面を呼び出します。
- ⑥ **[PAN/ROUTING]キー**
選択したチャンネルの送り先となるバスの選択やパンの設定、バス 1 ~ 8 からステレオバスに送られる信号レベルの調節、ステレオ / サラウンドのパンを調節などを行なう PAN/ROUTE 画面を呼び出します。
- ⑦ **[PAIR/GROUP]キー**
チャンネルのペアを設定 / 解除したり、複数チャンネルのフェーダーや [ON] キーの操作をグループ化する PAIR/GRUP 画面を呼び出します。
- ⑧ **[PATCH]キー**
入力信号やバスの出力信号を任意のインプットチャンネルにパッチしたり、出力端子ごとに出力する信号経路をパッチする PATCH 画面を呼び出します。
- ⑨ **[DYNAMICS]キー**
各チャンネルのゲートやコンプレッサーを操作する DYNAMICS 画面を呼び出します。

- ⑩ **[EQ]キー**
 選択したチャンネルのイコライザー(EQ)やアッテネーターを設定する EQ 画面を呼び出します。
- ⑪ **[EFFECT]キー**
 内蔵エフェクトのエディットや別売のプラグインカードの設定を行なう EFFECT 画面を呼び出します。
- ⑫ **[VIEW]キー**
 特定チャンネルのミックスパラメーターを一括表示 / 設定する VIEW 画面を呼び出します。

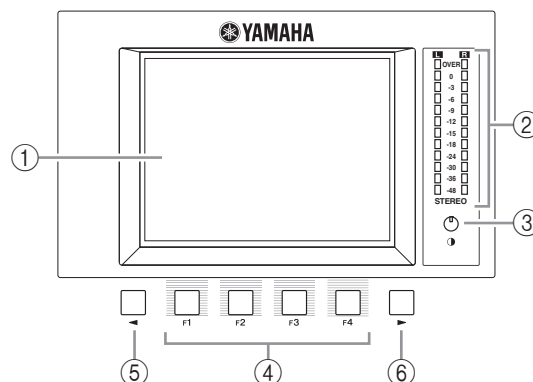
LAYER(レイヤー)セクション



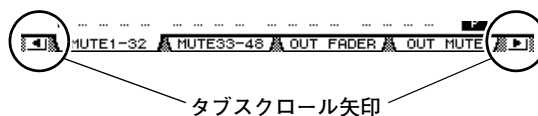
- ① **[1-16]/[17-32]キー**
 チャンネルセクションで操作するレイヤーとして、インプットチャンネルレイヤーを選びます。[1-16]キーがオンのときはインプットチャンネル 1 ~ 16、[17-32]キーがオンのときはインプットチャンネル 17 ~ 32 を操作できます(レイヤーについての詳しい説明は→ P.21)。
- ② **[MASTER]キー**
 チャンネルセクションで操作するレイヤーとしてマスターレイヤーを選びます。このレイヤーが選ばれているときは、バスアウト / AUX アウトを操作できます(マスターレイヤーの詳しい説明は→ P.21)。
- ③ **[REMOTE]キー**
 チャンネルセクションで操作するレイヤーとして、リモートレイヤーを選びます。このレイヤーが選ばれているときは、外部 MIDI 機器やコンピュータベースの DAW システムをコントロールできます。

ヒント: ST IN セクションはレイヤーの影響を受けません。

ディスプレイセクション

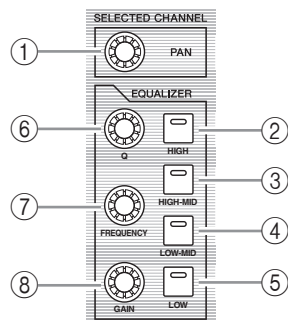


- ① **ディスプレイ**
 320×240 ドットのバックライト式ディスプレイです。
- ② **ステレオメーター**
 12 セグメントのレベルメーターです。通常はステレオバスの最終的な信号レベルを表示します。
- ③ **コントラスト調節ノブ**
 ディスプレイのコントラストを調節します。
- ④ **[F1]~[F4]キー**
 ある画面が複数のページに分かれているときに、目的のページを呼び出すためのキーです。これらのキーで画面下に表示されるタブを選ぶと、対応するページが呼び出されます(ページの選択方法の詳しい説明は→ P.20)。
- ⑤ **タブスクロール[◀]キー**
- ⑥ **タブスクロール[▶]キー**
 タブを 1 ページに表示しきれない画面で、左右に隠れているタブを呼び出すためのキーです。これらのキーは、画面下に左右のタブスクロール矢印が表示されているときだけ有効です。



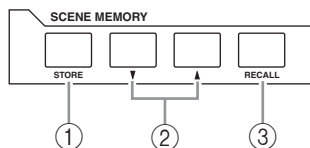
各部の名称と機能

SELECTED CHANNEL(セレクトチャンネル)セクション



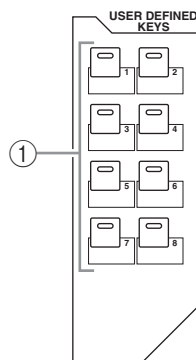
- ① **PAN コントロール**
[SEL]キーで選択されているチャンネルのパンを調節します。
- ② **[HIGH]キー**
- ③ **[HIGH-MID]キー**
- ④ **[LOW-MID]キー**
- ⑤ **[LOW]キー**
[SEL]キーで選択されているチャンネルで操作するEQのバンド(HIGH、HIGH-MID、LOW-MID、LOW)を選びます。現在選択されているバンドは、該当するキーのインジケーターが点灯します。
- ⑥ **[Q]コントロール**
EQで選ばれているバンドのQを調節します。
- ⑦ **[FREQUENCY]コントロール**
EQで選ばれているバンドの周波数を調節します。
- ⑧ **[GAIN]コントロール**
EQで選ばれているバンドのゲインを調節します。

SCENE MEMORY(シーンメモリー)セクション



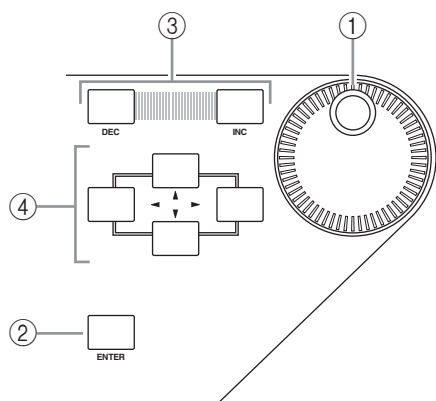
- ① **[STORE]キー**
現在のミックス内容をストアします。シーンメモリーの詳しい説明は P.42 をご参照ください。
- ② **シーン[▲]/[▼]キー**
ストア/リコールの対象となるシーンを選びます。シーン[▲]キーを押すたびに1つ上のシーン番号、シーン[▼]キーを押すたびに1つ下のシーン番号が選ばれます。どちらか一方のキーを押し続けると、シーン番号が連続して変化します。
- ③ **[RECALL]キー**
シーン[▲]/[▼]キーで選択したシーンをリコールします。

USER DEFINED KEYS(ユーザー定義キー)セクション



- ① **[1]~[8]キー**
167種類の機能の中から、お客様ご自身が任意の機能を割り当てることができるユーザー定義キーです。キーを押すと、あらかじめ割り当てられた機能が実行されます。

データエントリーセクション



① パラメーターホイール

ディスプレイに表示される設定値を調節します。ホイールを右に回すと値が大きくなり、左に回すと値が小さくなります。また、画面にリストが表示されているときにはリストのスクロール、文字入力を行なうときには文字の選択が行なえます(→ P.21)。

② [ENTER]キー

ディスプレイに表示されるボタンのオン / オフを切り替えたり、変更した設定値を確認するためのキーです。

③ [DEC]/[INC]キー

設定値を 1 ずつ上下させるキーです。[INC]キーを押すと値が大きくなり、[DEC]キーを押すと値が小さくなります。どちらか一方のキーを押し続けると、連続して値が変化します。

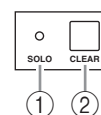
④ カーソル([◀]/[▶]/[▲]/[▼])キー

ディスプレイに表示されるカーソル(操作対象を選択する太枠)を移動させます。カーソルキーを押し続けると、カーソルが片方向に連続して移動します。

SOLO セクション

① [SOLO]インジケータ

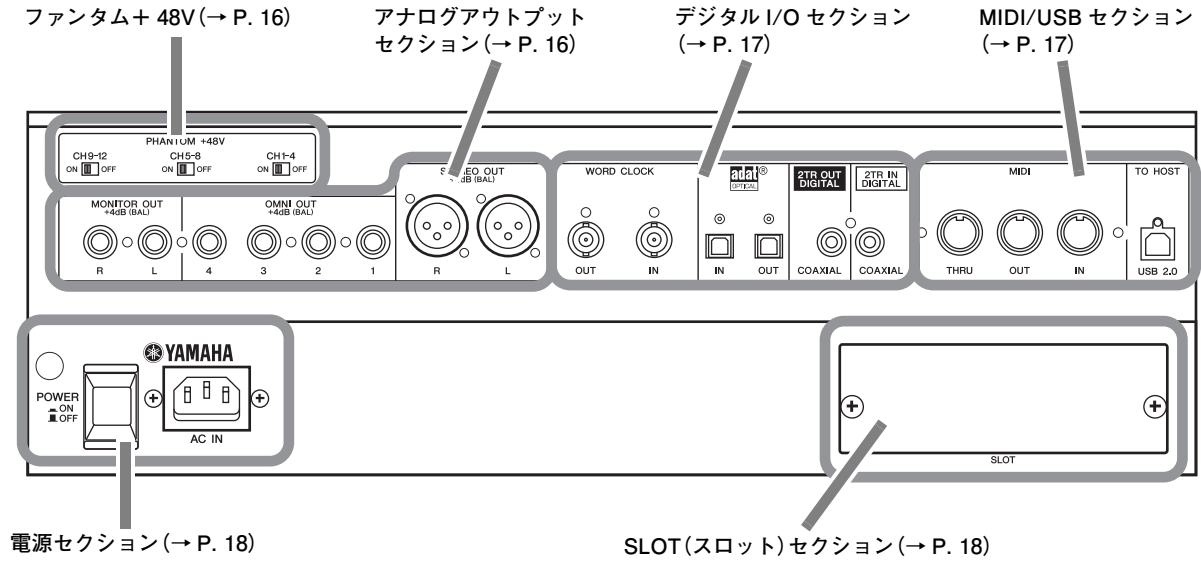
単一または複数のチャンネルがソロになっているときに、このインジケータが点滅します。



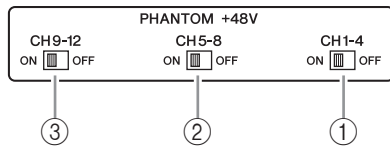
② [CLEAR]キー

ソロに設定されているチャンネルを一括して解除します。

リアパネル



ファンタム+ 48V



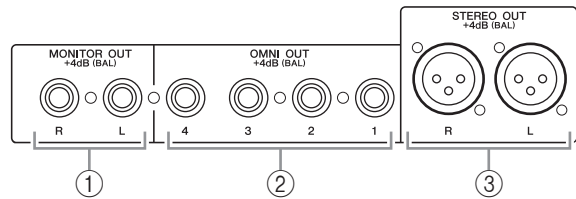
- ① CH1-4 ON/OFF スイッチ
- ② CH5-8 ON/OFF スイッチ
- ③ CH9-12 ON/OFF スイッチ

4 系統の INPUT 端子ごとに、+ 48V ファンタム電源のオン / オフを切り替えます。オンにすると、INPUT 端子 A にファンタム電源を供給します。

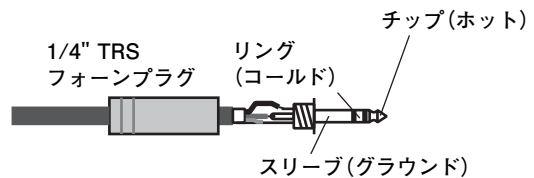
ノート:

- ・ファンタム電源が不要なときは、必ずスイッチをオフにしておいてください。
- ・ファンタム電源をオンにする場合は、コンデンサーマイクなどのファンタム電源を必要とする機器以外が接続されていないことを確認してください。機器の故障の原因になります。
- ・ファンタム電源をオンにしたまま機器を抜き差ししないでください。機器および本体の故障の原因になります。
- ・スピーカー保護のために、パワーアンプ(パワードスピーカー)の電源をオフの状態、ファンタム電源をオン / オフしてください。また出力レベルのフェーダーは、すべて最小にしておくことをおすすめします。大音量が出て、聴力障害、または機器の損傷になることがあります。

アナログアウトプットセクション

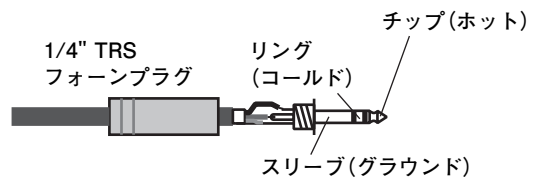


- ① MONITOR OUT 端子 L/R



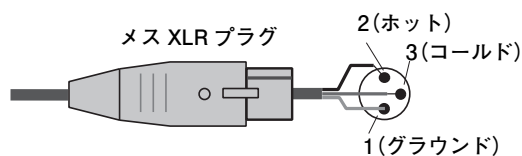
モニターまたは 2TR IN 端子信号を出力するバランス TRS フォンタイプの出力端子です(定格出力レベルは+ 4dB)。出力される信号は、モニターソース選択スイッチで選択します。

- ② OMNI OUT 端子 1 ~ 4



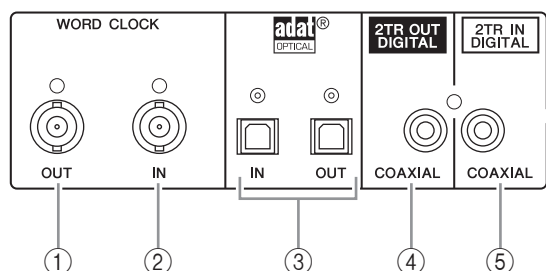
任意のバスアウトや任意のチャンネルのダイレクト信号を出力するバランス TRS フォンタイプの出力端子です(定格出力レベルは+ 4dB)。

③ STEREO OUT 端子 L/R



ステレオアウトの信号を出力するバランス XLR-3-32 タイプの出力端子です (定格出力レベルは +4dB)。

デジタル I/O セクション



① WORD CLOCK OUT 端子

01V96i から外部機器へとワードクロック信号を出力する BNC 端子です。

② WORD CLOCK IN 端子

外部機器から 01V96i へとワードクロック信号を入力する BNC 端子です。

③ ADAT IN/OUT 端子

ADAT フォーマットのデジタルオーディオ信号を入出力するオプティカル端子です。

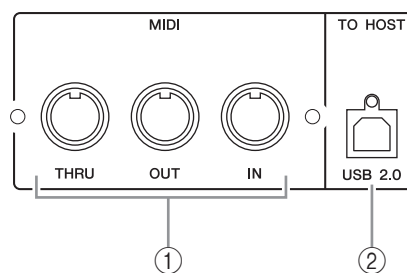
④ 2TR OUT DIGITAL 端子

民生フォーマット (IEC 60958) のデジタルオーディオを出力する RCA ピン端子 (コアキシャル) です。DAT レコーダー、MD レコーダーのデジタルステレオイン (民生フォーマット) などと接続します。

⑤ 2TR IN DIGITAL 端子

民生フォーマット (IEC 60958) のデジタルオーディオを入力する RCA ピン端子 (コアキシャル) です。DAT レコーダー、MD レコーダー、CD プレーヤーのデジタルステレオアウト (民生フォーマット) と接続します。

MIDI/USB セクション



① MIDI IN/THRU/OUT 端子

外部 MIDI 機器を接続するための端子です。

② TO HOST USB 端子

USB 2.0 ポートを搭載したコンピューターを接続する USB 端子です。

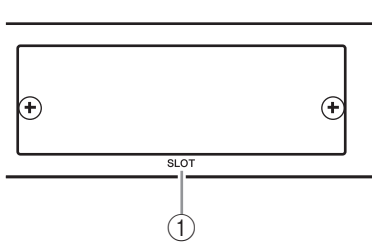
TO HOST USB 端子ご使用時の注意

TO HOST USB 端子でコンピューターと接続するときは、以下のことを行なってください。

以下のことを行なわないと、コンピューターや本体が停止 (ハングアップ) して、データが壊れたり、失われたりするおそれがあります。コンピューターや本体が停止したときは、電源を入れ直し、コンピューターを再起動してください。

- TO HOST USB 端子でコンピューターと接続する前に、コンピューターの省電力 (サスペンド / スリープ / スタンバイ / 休止) モードを解除してください。
- 本体の電源を入れる前に、TO HOST USB 端子とコンピューターを接続してください。
- 本体の電源オン / オフや USB ケーブルの抜き差しをする前に、以下のことを行なってください。
 - すべてのアプリケーションを終了してください。
 - 本体からデータが送信されていないか確認してください。(本体のボタンを押したり、フェーダーを動かしても、本体からデータが送信されません。)
- 本体の電源オフ / オンや USB ケーブルの抜き差しは、6 秒以上間隔を空けて行ってください。

SLOT(スロット)セクション



① SLOT

オプションの mini-YGDAI (Yamaha General Digital Audio Interface) I/O カードを装着するスロットです。AD/DA カードや各種デジタルフォーマット(AES/EBU, ADAT, Tascam)に対応するデジタル I/O カードが装着できます。I/O カードから入力された信号は、任意のインプットチャンネル/インサートインにパッチできます(→ P.29)。

また、I/O カードのアウトプットには、任意のバスの出力信号や、インプットチャンネルのダイレクト信号をパッチできます(→ P.30)。

ノート:

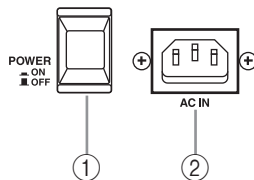
- ・ 現在使用できる mini-YGDAI I/O カードについては、63 ページをご覧ください。
- ・ I/O カードの最新情報は、ヤマハプロフェッショナルオーディオのウェブサイトをご覧ください。

<http://proaudio.yamaha.co.jp/>

電源セクション

① POWER ON/OFF スイッチ

01V96i の電源をオン/オフします。



ノート: スピーカーから大きなノイズが生じないように、次の順序でオーディオ機器の電源を入れてください(電源を切るときは、順序を逆にしてください)。

音源 → MTR/ マスターレコーダー → 01V96i
→ モニターアンプ

② AC IN ソケット

付属の電源コードで 01V96i を AC コンセントに接続します。電源コードを本体に接続してから、AC コンセントに接続してください。

⚠ 注意

電源スイッチがオフの状態でも微電流が流れています。長時間使用しないときは、必ず電源コードを AC コンセントから抜いてください。

オプションカードの取り付け

カードを取り付ける前に取り付けるカードがこの機器対応しているかヤマハのホームページで必ずご確認ください。

Yamaha ウェブサイト:

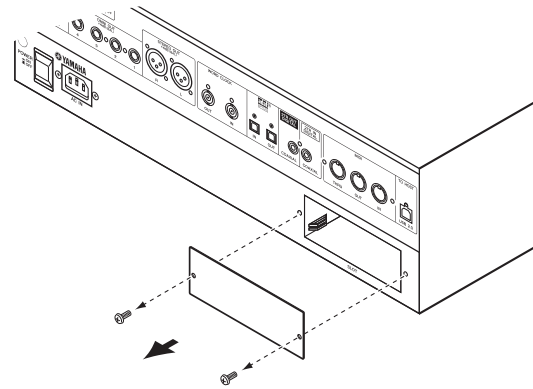
<http://proaudio.yamaha.co.jp/>

オプションの mini-YGDAI カードは次のように取り付けます。

1. 01V96i の電源がオフになっていることを確認します。

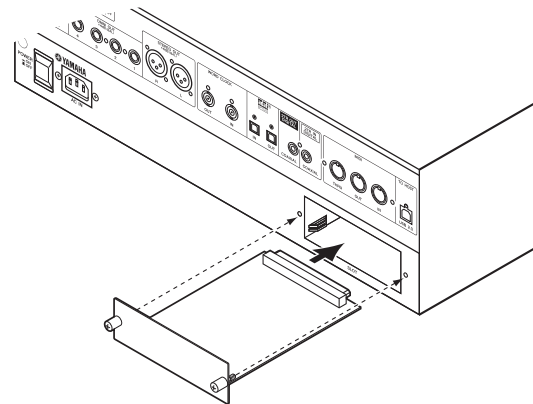
2. スロットの固定ネジをゆるめ、スロットカバーを取り外します。

取り外したスロットカバーは、安全な場所に保管してください。



3. スロット内のガイドレールにカードの両端を合わせ、カードをスロットに挿入します。

このとき、カードの端子部分がスロット内部の端子に正しくはまるようカードをいっぱいまで押し込んでください。



4. カードに取り付けられているネジでカードを固定します。

カードが固定されていないとアースが正しく取れない場合があります。ご注意ください。

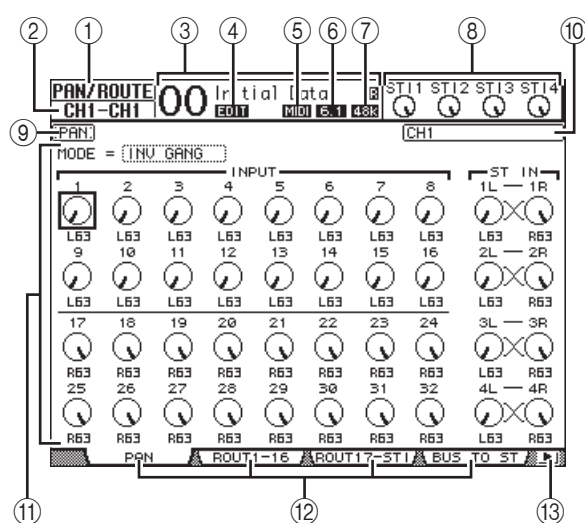
01V96i の基本操作

この章では、ディスプレイの見方、トップパネルの操作子や画面の操作方法など、01V96i の基本操作について説明します。

ディスプレイの見方

トップパネル上のディスプレイには、01V96i を操作するために必要な各種パラメーターが表示されます。

ディスプレイに表示される内容は、次のとおりです。




① 現在の画面

現在選ばれている画面の名称です。

② 選択チャンネル

現在 [SEL] キーで選ばれているインプットチャンネル / アウトプットチャンネルの名称です。最初の 4 文字はチャンネル ID (例: CH1 ~ CH32、BUS1 ~ BUS8、AUX1 ~ AUX8、ST-L、ST-R)、次の 4 文字はチャンネルの省略表記 (ショートネーム) です。省略表記の名前は、自由に変更できます (→ P.43)。

③ 現在のシーン

現在シーンメモリーで選ばれているシーンナンバーとタイトルを表示します。選択したシーンにプロテクトがかけられているときは、 のアイコンが表示されます。

④ EDIT インジケーター

最後にシーンをストア / リコールしたときの状態と現在のミックス設定が一致しないときに、このインジケーターが表示されます。

⑤ MIDI インジケーター

01V96i が MIDI IN 端子、USB 端子、スロットに装着されたデジタル I/O カードから MIDI データを受信しているときに、このインジケーターが表示されます。

⑥ サラウンドモードインジケーター

現在選ばれているサラウンドモード (ST = STEREO、3-1、5.1、6.1) を表示します。

⑦ サンプリングレートインジケーター

01V96i が動作しているサンプリング周波数を 44k (44.1kHz)、48k (48kHz)、88k (88.2kHz)、96k (96kHz) の中から表示します。

⑧ ST IN チャンネル

ST IN チャンネル 1 ~ 4 のレベルコントロールの値を表示します。

⑨ ページタイトル

現在の画面内で選ばれているページのタイトルを表示します。

⑩ チャンネル名

画面によっては、この位置に現在 [SEL] キーで選択しているチャンネル、またはカーソルキーで選択しているチャンネルのフルネームが表示されます。

⑪ ページ領域

各ページの設定内容が表示されます。

⑫ ページタブ

画面内に含まれる複数のページから、任意の 1 ページを選択するためのタブです。

⑬ タブスクロール矢印

タブを 1 ページに表示しきれないときに、左右にタブが隠れていることを示します。

画面 / ページを選択する

目的の画面やページを呼び出すには、次のように操作します。

1. パネル上のキーを使って目的の画面を呼び出します。

01V96i の各画面は、機能ごとにまとめられています。画面を呼び出すには、DISPLAY ACCESS セクションの各キーを押します。

2. タブが表示されているページを選択するには、タブの下にある [F1]～[F4] キーを押します。

選択した画面に複数のページが含まれる場合、画面下のページタブに対応する [F1]～[F4] キーを押すと、該当するページが呼び出されます。

3. 表示されているタブ以外のページを呼び出すには、タブスクロール[◀]/[▶]キーを押して希望するページのタブを表示させ、対応する [F1]～[F4] キーを押します。

ページ数が多く、タブを 1 ページに表示しきれない画面では、左または右側にタブスクロール矢印が表示されます。左右に隠れているタブを呼び出すには、タブスクロール[◀]/[▶]キーを使用します。

このほか、同じ画面内のページを切り替えるには、次の方法があります。

- **画面内の次のページを選択するには**
手順 1 で選んだキーを繰り返し押します。現在タブが表示されていないページにも移動できます。
 - **画面内の前のページを選択するには**
手順 1 で選んだキーを押し、そのまま押し続けます。表示されるページが 1 ページずつ手前に戻りますので、目的のページが表示されたところでキーを放してください。現在タブが表示されていないページにも移動できます。
 - **グループ内の最初のページを選択するには**
手順 1 で選んだキーを素早く 2 回押します。
- ### 4. カーソルキーを使って画面内のボタン、パラメーターボックスやノブ / フェーダーにカーソル(太枠部分)を合わせて、設定値を変更します。

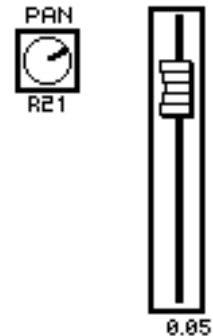
ヒント: 画面内で最後に選択したページやパラメーターは記憶されています。次に同じ画面を呼び出すと、同じページ / 同じパラメーターが選択されます。

画面内のユーザーインターフェース

ここでは、01V96i のディスプレイに表示される各種ユーザーインターフェースの操作方法について説明します。

ノブ / フェーダー

インプットチャンネルのレベルやエフェクトパラメーターなど、連続可変式のパラメーターの設定値を変更します。カーソルキーを使ってノブ / フェーダーにカーソル(太枠部分)を合わせ、パラメーターホイール(または [INC] / [DEC] キー)を使って、値を設定します。



ボタン

主に、ある機能のオン / オフを切り替えるときに使用します。

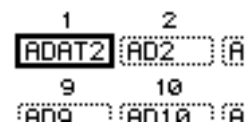
ボタンにカーソルを合わせて [ENTER] キーを押すと、オン(反転表示)とオフ(通常表示)が切り替わります。その他、2 種類の設定値のうち一方を選ぶときや、特定の機能を実行するときにも利用します。



パラメーターボックス

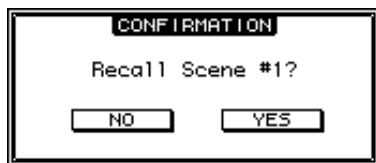
複数の選択肢の中から 1 つを選ぶときに使用します。カーソルキーを使ってボックスにカーソルを合わせ、パラメーターホイール(または [INC] / [DEC] キー)を使って、設定値を選びます。

なお、パラメーターボックスによっては、変更内容を確定するために、[ENTER] キーを押さなければならないものもあります。このようなパラメーターボックスでは、設定値を変更したときに点滅表示となり、[ENTER] キーを押して確定させたときに通常表示に戻ります。点滅している間にカーソルを移動させると、その値は変更されません。



確認のメッセージ

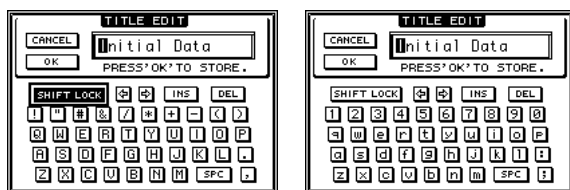
機能によっては、実行する前に次のような確認のポップアップウィンドウが表示される場合があります。



YES ボタンにカーソルを合わせて [ENTER] キーを押すと機能が実行され、NO ボタンにカーソルを合わせて [ENTER] キーを押すとキャンセルされます。なお、しばらく何も操作していないと、自動的にウィンドウが閉じ、処理は実行されません。

TITLE EDIT ウィンドウ

シーンメモリーやライブラリーのタイトルを入力するウィンドウです。タイトルを付ける項目に応じて、4文字、12文字、16文字が入力できます。次の図は使用できる文字を示したもので、左の画面は大文字と各種記号、右の画面は小文字と数字です。



カーソルキーで文字を選択し、[ENTER] キーを押して文字を確定します。このとき、カーソルは自動的に右隣へ移動します。パラメーターホイールを使って、タイトル内のカーソルを移動します。

SHIFT LOCK ボタンは大文字 / 小文字の切り替え、SPC ボタンはスペースの入力に使用します。

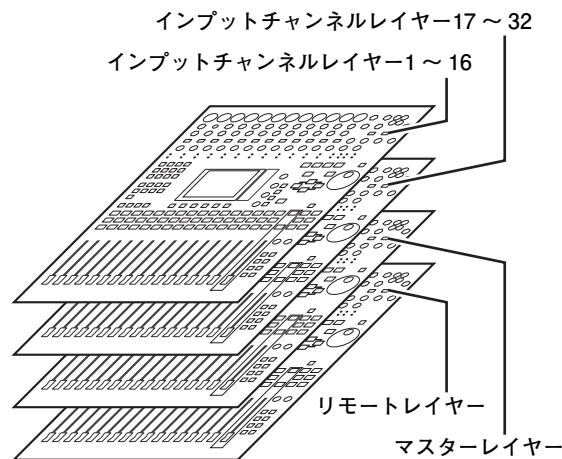
また、INS ボタンにカーソルを合わせて [ENTER] キーを押すと、カーソル位置にスペースが挿入され、それより右にある文字が右方向に移動します。

DEL ボタンにカーソルを合わせて [ENTER] キーを押すと、カーソル位置の文字が削除され、それより右にある文字が左方向に移動します(コンピューターキーボードの DELETE キーと同じ機能です)。

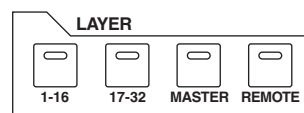
入力が終わったら OK ボタンにカーソルを合わせて [ENTER] キーを押してタイトルを確定させます。また、CANCEL ボタンにカーソルを合わせて [ENTER] キーを押すと、入力を取り消されます。

レイヤーを選択する

01V96i のインプット / アウトプットチャンネル (バスアウト 1 ~ 8、AUX アウト 1 ~ 8) は、次のようにレイヤー構造になっており、4 つのレイヤーが利用できます。



現在選択されているレイヤーに応じて、チャンネルモジュールの [SEL] キー、[SOLO] キー、[ON] キー、チャンネルフェーダーの機能が変わります。チャンネルモジュールのコントロール類で操作するレイヤーを選ぶには、LAYER セクションのキーを使います。



それぞれのキーに対応するレイヤーと、チャンネルモジュールで操作可能なパラメーターは、次のとおりです。

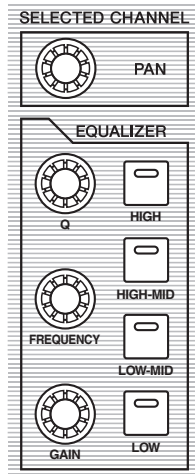
LAYER セクション	レイヤー	チャンネルモジュール	
		1 ~ 8	9 ~ 16
[1-16] キー	インプットチャンネルレイヤー1 ~ 16	インプットチャンネル 1 ~ 16	
[17-32] キー	インプットチャンネルレイヤー17 ~ 32	インプットチャンネル 17 ~ 32	
[REMOTE] キー	リモートレイヤー	現在選択されているターゲットに応じて動作が異なります。	
[MASTER] キー	マスターレイヤー	AUX センドマスター 1 ~ 8	バスアウトマスター 1 ~ 8

ヒント:

- ・チャンネルフェーダーの機能は、現在選ばれているフェーダーモード(→ P.22)により異なります。
- ・STEREO セクションの [SEL] キー、[ON] キー、[STEREO] フェーダーは、上記の設定とは関係なく、常にステレオアウトを操作します。
- ・ST IN セクションの [SEL] キー、[SOLO] キー、[ON] キー、レベルコントロールは、上記の設定とは関係なく、現在 [ST IN] キーで選ばれている ST IN チャンネルを操作します。

チャンネルを選択する

01V96i では、[SEL]キーを使って任意のチャンネルを選び、SELECTED CHANNEL セクションのコントロール類を使って PAN や EQ のパラメーターをエディットできます。また、複数チャンネルのパラメーターを含む画面内で、特定のチャンネルを選ぶ場合にも [SEL] キーを使います。



1. LAYER セクションのキーを使って、希望するチャンネルを含むレイヤーを選択します(→ P.21)。

ST IN チャンネルを操作したい場合は、ST IN セクションの[ST IN]キーで希望する ST IN チャンネルを選びます。

2. [SEL]キーを押して、任意のチャンネルを選択します。

[SEL]キーを押すとそのチャンネルが選択され、[SEL]キーのインジケーターが点灯します。

ディスプレイ左上に選択したチャンネルの ID と省略表記(ショートネーム)が表示されます。選択したチャンネルのパラメーターが現在表示されているページにあれば、その位置にカーソルが移動します。そのチャンネルを含むページが隠れていた場合は、自動的にページが切り替わります。

ヒント: ペアに設定されている 2 チャンネルでは、選択されているチャンネルの [SEL] キーが点灯し、もう一方のチャンネルの [SEL] キーが点滅します。

3. ステレオアウトを選ぶには、STEREO セクションの [SEL] キーを押します。

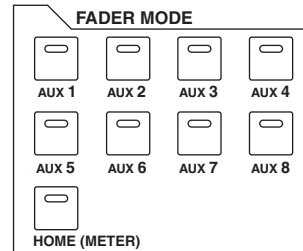
STEREO セクションの [SEL] キーを押すたびに、ステレオアウトと左右のチャンネルが交互に選択されます。

ステレオアウトのパラメーターが現在表示されているページにあれば、その位置にカーソルが移動します。また、ステレオアウトを含むページが隠れていた場合は、自動的にページが切り替わります。

フェーダーモードを選択する

チャンネルフェーダー 1 ~ 16 で操作する機能は、現在選択されているレイヤーとフェーダーモードに応じて異なります。

1. 操作したいチャンネルを含むレイヤーを選択します(→ P.21)。
2. FADER MODE セクションのキーを使って、フェーダーモードを選択します。



それぞれのキーが点灯しているときの動作は、次のとおりです。

- **[HOME]キーのインジケーターが点灯**
チャンネルフェーダーを使って、インプットチャンネル / ST IN チャンネルの入力レベル、またはアウトプットチャンネル(AUX アウト 1 ~ 8、バスアウト 1 ~ 8)のマスターレベルを操作します。
- **[AUX 1]~[AUX 8]キーのインジケーターが点灯**
チャンネルフェーダーを使って、インプットチャンネルから該当する AUX に送られる信号のセンドレベルを操作します。

次の表は、レイヤーとフェーダーモードの選択に応じて、チャンネルフェーダーの機能がどのように変化するかを表わしたものです。

LAYER セクション	FADER MODE セクション	チャンネルモジュール	
		1 ~ 8	9 ~ 16
[1-16] キー	[HOME]キー	インプットチャンネル 1 ~ 16 の入力レベル	
	[AUX 1]~[AUX 8] キー	インプットチャンネル 1 ~ 16 の AUX センドレベル	
[17-32] キー	[HOME]キー	インプットチャンネル 17 ~ 32 の入力レベル	
	[AUX 1]~[AUX 8] キー	インプットチャンネル 17 ~ 32 の AUX センドレベル	
[REMOTE] キー	[HOME]キー	現在選択されているターゲットに応じて動作が異なります。	
	[AUX 1]~[AUX 8] キー		
[MASTER] キー	[HOME]キー	AUX センドマスター 1 ~ 8 の出力レベル	バスアウトマスター 1 ~ 8 の出力レベル
	[AUX 1]~[AUX 8] キー	選択不可能	

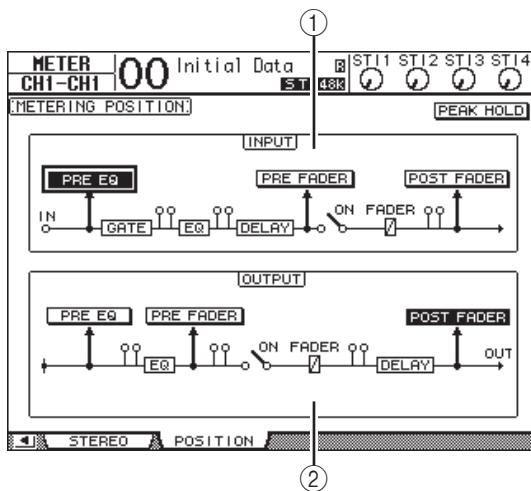
ノート: マスターレイヤーが選ばれているときは、[AUX 1]～[AUX 8]キーを選ぶことはできません。[AUX 1]～[AUX 8]キーが点灯しているときにマスターレイヤーに切り替えると、自動的に[AUX 1]～[AUX 8]キーが消灯し、[HOME]キーが点灯します。

レベルメーターの見方

ここでは、METER 画面を使ってインプットチャンネル / アウトプットチャンネルのレベルを確認する方法を説明します。

1. FADER MODE セクションの [HOME] キーを繰り返し押し、METER 画面の POSITION ページを表示させます。

このページでは、インプットチャンネル / アウトプットチャンネルそれぞれに対し、レベルを検出する位置を指定します。



① INPUT フィールド

インプットチャンネル、ST IN チャンネルで信号レベルを検出する位置を選択します。

② OUTPUT フィールド

アウトプットチャンネル(AUX アウト 1～8、バスアウト 1～8、ステレオアウト)で信号レベルを検出する位置を選択します。

2. INPUT フィールドまたは OUTPUT フィールドの任意のボタンにカーソルを合わせ、[ENTER]キーを押します。

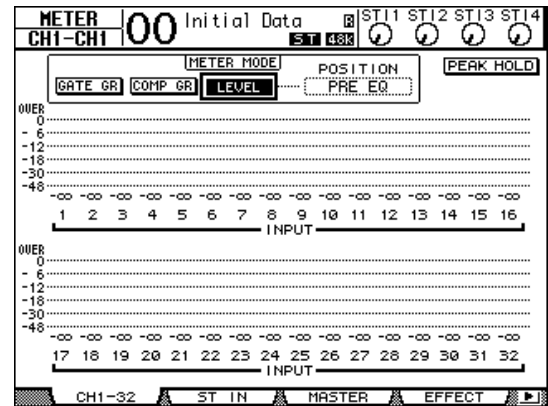
フィールドごとに、次の 3 つのボタンが選択できます。

- PRE EQ EQ 直前
- PRE FADER..... フェーダー直前
- POST FADER..... フェーダー直後

3. FADER MODE セクションの [HOME] キーを繰り返し押し、次の中からメーターを確認したいチャンネルを含むページを呼び出してください。

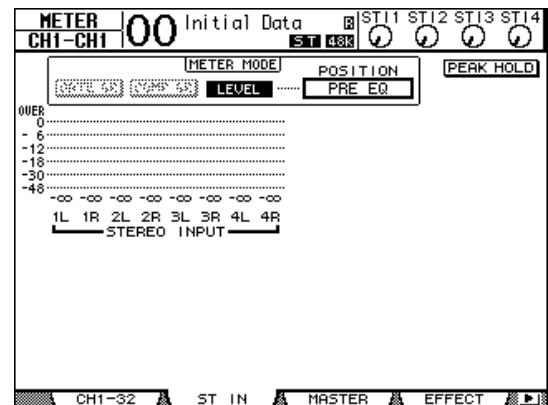
• CH1-32 ページ

インプットチャンネル 1～32 のレベルを表示します。



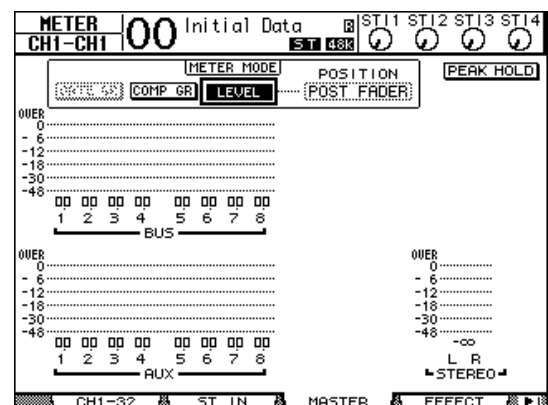
• ST IN ページ

ST IN チャンネル 1～4 のレベルを L/R 独立して表示します。



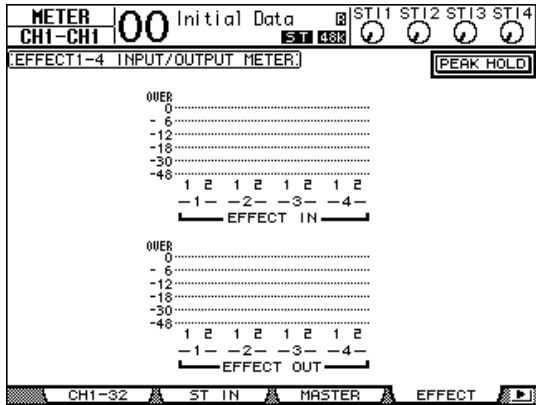
• MASTER ページ

アウトプットチャンネル(AUX アウト 1～8、バスアウト 1～8、ステレオアウト)のレベルを一括表示します。



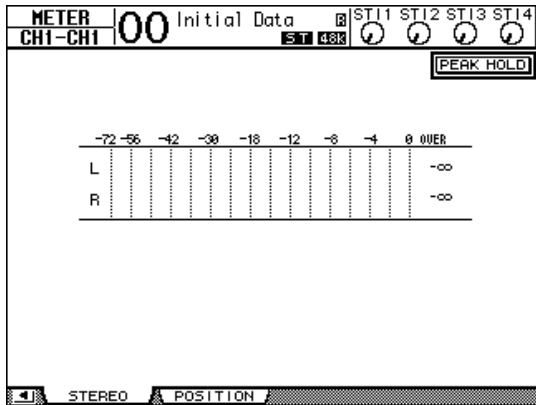
• EFFECT ページ

内蔵エフェクト 1 ~ 4 の入出力レベルを一括表示します。



• STEREO ページ

ステレオアウトの出力レベルを表示します。



CH1-32 または MASTER を選んだ場合は、METER MODE フィールドでメーターに表示する信号の種類を次の 3 つの中から選びます。

- GATE GR ゲートのゲインリダクション量 (CH1-32 のみ)
- COMP GR コンプレッサーのゲインリダクション量
- LEVEL インพุットチャンネルの入力レベル / アウトプットチャンネルの出力レベル

ヒント: 上記のページでは、必要に応じて POSITION フィールドで信号の検出位置を変更することも可能です。このフィールドは、METER 画面の POSITION ページと連動しています。

4. ピークレベルを保持させたいときは、PEAK HOLD ボタンにカーソルを合わせ、[ENTER] キーを押してください。

PEAK HOLD ボタンがオンになり、画面内のメーターでピークレベルが保持されます。ピークレベルを解除するには、PEAK HOLD ボタンを一度オフにしてください。

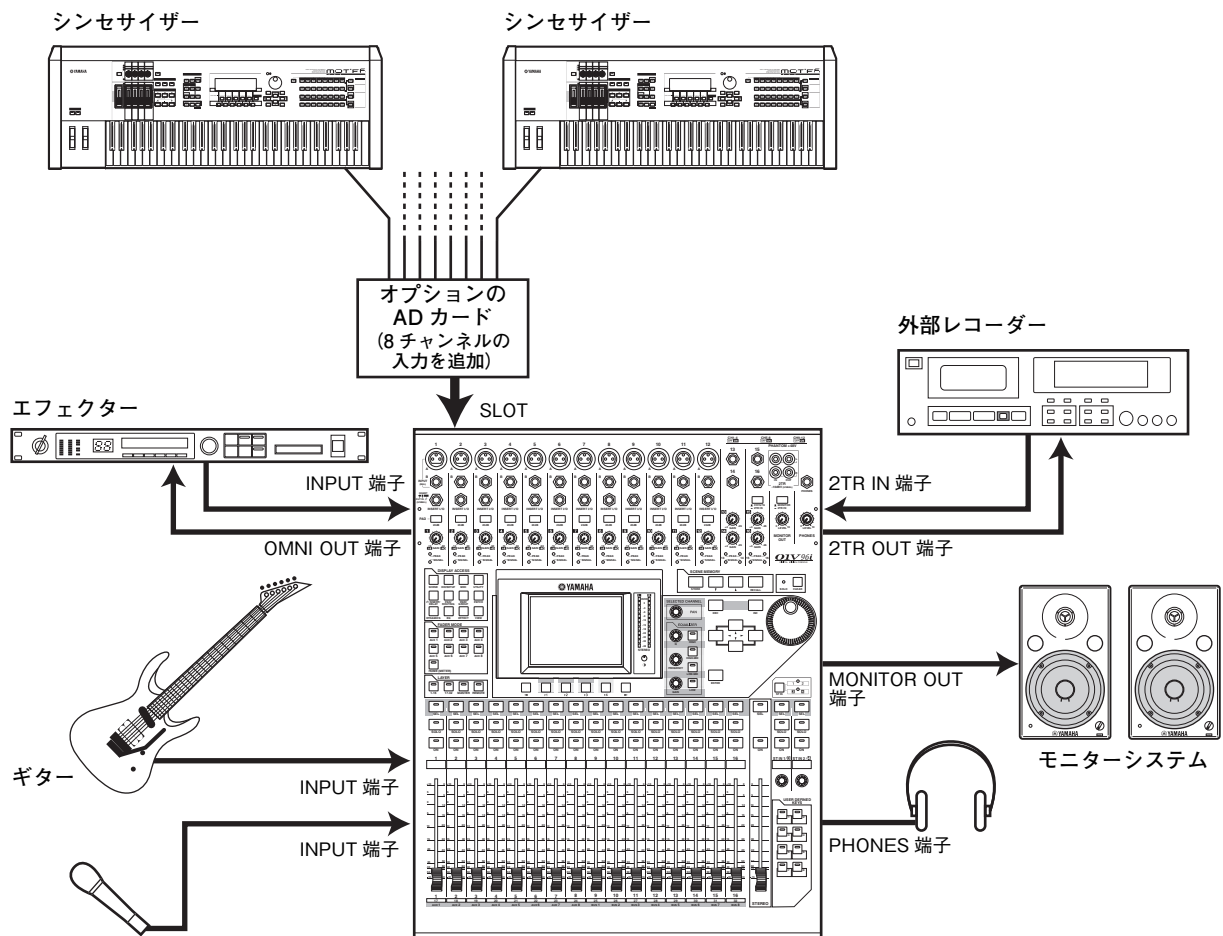
接続とセットアップ

この章では、01V96i の基本的な接続方法やセットアップ方法について説明します。

接続

01V96i と外部機器の組み合わせにはさまざまな例が考えられますが、ここでは 2 つの代表的な接続例について説明します。

■ アナログ 16 ～ 24 チャンネルのミキシングシステム

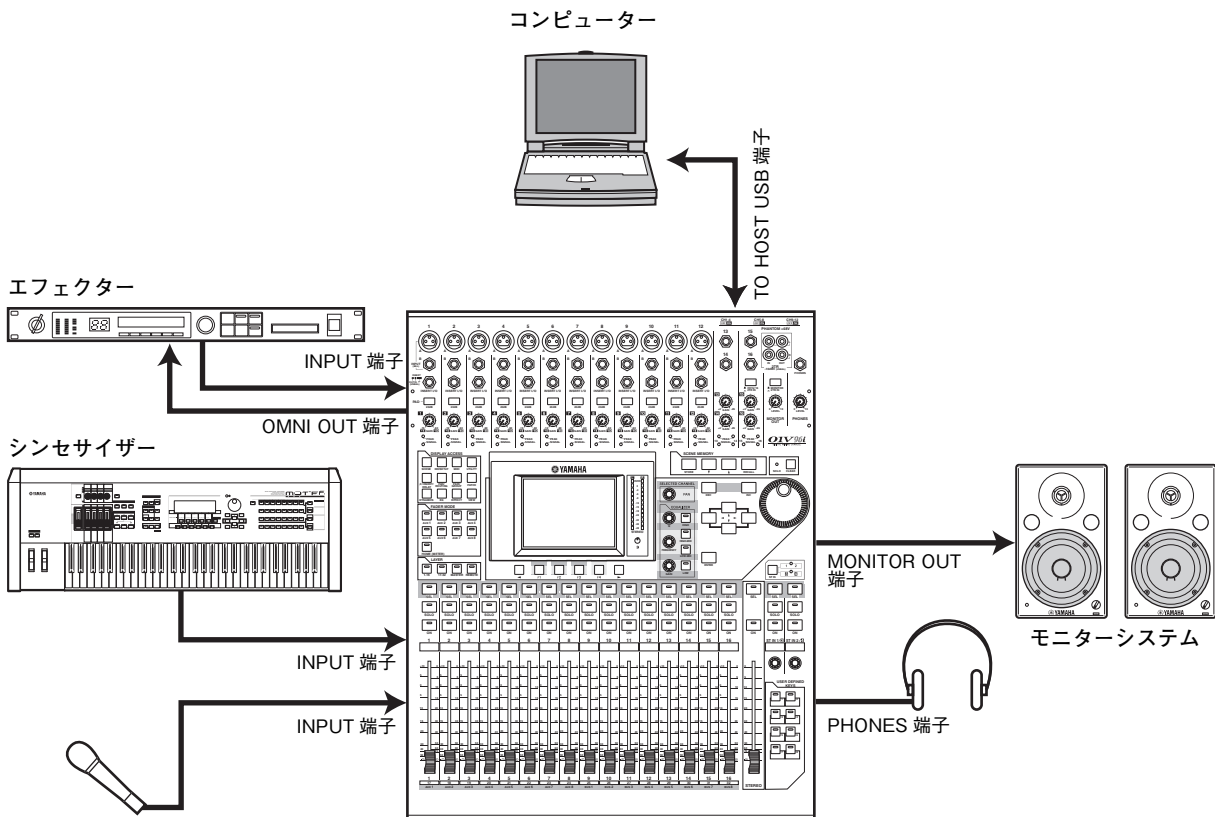


本体の INPUT 端子 1 ～ 16 を使ったアナログ 16 チャンネルのシンプルなシステムです。

スロットにオプションの AD カード (MY8-AD、MY8-AD96 など) を装着することで、最大でアナログ 24 チャンネルのミキシングが可能です。

ヒント: AD カードのゲインは、カード本体の DIP スイッチを使って切り替えることができます。
詳しくは、AD カードの説明書をご参照ください。

■ DAW(デジタルオーディオワークステーション)を使ったレコーディングシステム



コンピューターベースの DAW(デジタルオーディオワークステーション)システムと接続するシステムです。O1V96i を 16 チャンネル入出力のオーディオインターフェースとして利用できます。また、O1V96i のリモート機能を使って DAW のロケート / トランスポートの操作や各種パラメーターの変更が行なえます。

ワードクロックの接続と設定

ワードクロックについて

複数の機器をデジタル接続してデジタルオーディオ信号を送受信するには、すべての機器でオーディオ信号を処理するタイミングを一致させなければなりません。たとえ両方の機器が同じサンプリング周波数に設定されていても、オーディオ信号を処理するタイミングが同期していなければ、信号が正常に送られなかったり、耳障りなクリックノイズが生じたりする場合があります。

デジタルオーディオ信号の処理を同期させるための信号を“ワードクロック”と呼びます。通常は1台の機器から基準となるワードクロック信号を送信し、その他の機器は受信したワードクロック信号に同期させます(送信側の機器を“ワードクロックマスター”、受信側の機器を“ワードクロックスレーブ”呼びます)。

01V96i と外部機器をデジタル接続する場合は、最初にワードクロックマスターになる機器を選び、他の機器をワードクロックのスレーブに設定する必要があります。

01V96i は、44.1kHz/48kHz/88.2kHz/96kHz のいずれかの周波数で、ワードクロックマスターまたはワードクロックスレーブとして動作します。

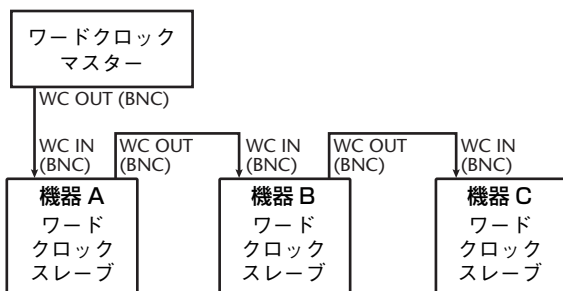
ワードクロックの接続

01V96i と外部機器との間でワードクロックを同期させるには、ワードクロック信号だけを単独で送受信する方法と、デジタルオーディオ信号に含まれるクロック情報を利用する方法があります。

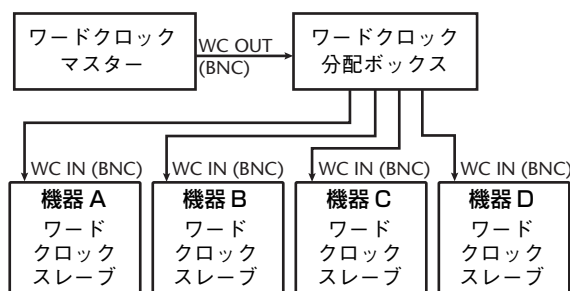
ワードクロック信号を単独で送受信するには、01V96i のリアパネルにある WORD CLOCK IN/OUT 端子を利用します。WORD CLOCK IN/OUT 端子を使った接続方法には、次の2種類があります。

・ ディジーチェーン接続

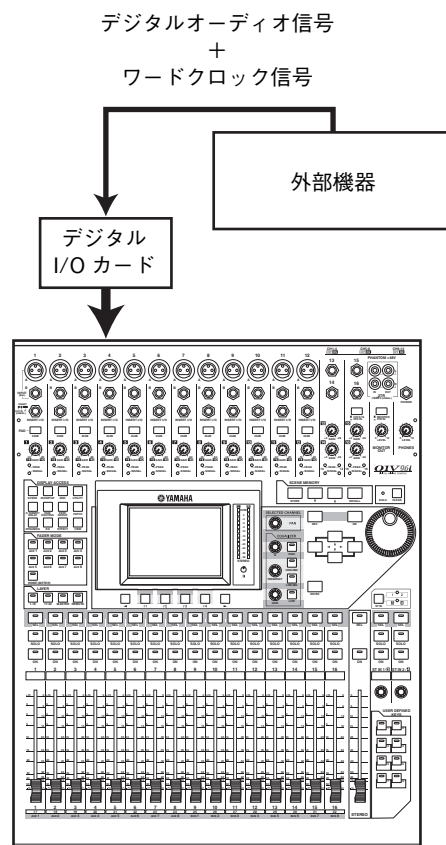
ある機器の WORD CLOCK OUT 端子を次の機器の WORD CLOCK IN 端子へと、順番に接続して信号を分配する方法です。この方法は、システムが大きい場合はおすすめできません。



- ・ ワードクロック分配ボックスをつかった接続
専用のワードクロック分配ボックスを使って、ワードクロックマスターから複数台のワードクロックスレーブへと信号を分配する方法です。



また、外部機器に WORD CLOCK IN/OUT 端子がない場合は、デジタルオーディオ信号に含まれるクロック情報を利用します。この場合は、リアパネルのスロットに装着されたデジタルI/Oカードや、2TR OUT DIGITAL 端子、2TR IN DIGITAL 端子を経由してデジタルオーディオ信号とワードクロック信号を送受信します。



接続とセットアップ

ワードクロックソースを選ぶ

01V96i に外部機器をデジタル接続する場合は、システム内のワードクロックマスターとなるソースを選択する必要があります。その方法は、次のとおりです。

ノート: ワードクロックのソースを切り替えるときに、同期が外れてノイズが発生することがあります。以下の操作は、必ずモニター機器のレベルを下げて行ってください。

1. DISPLAY ACCESS セクションの [DIO/SETUP] キーを繰り返し押し、DIO/SETUP 画面の WORD CLOCK ページを表示させます。

この画面では、スロット / 端子ごとに、入力信号の同期の状態を確認できます。

SLOT TYPE	IN	OUT	1/2	3/4	5/6	7/8	9/10	11/12	13/14	15/16
SLOT NO CARDS	0	0	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
adat	8	8	☒	☒	☒	☒				

FS 48kHz WC IN 2TRD USB

INT 44.1k INT 48k INT 88.2k INT 96k

スロット / 端子ごとの表示の意味は、次のとおりです。

- 該当する端子 / スロットのチャンネルから利用可能なワードクロック信号が入力され、01V96i の内部クロックと同期しています。
- ワードクロック信号が入力されていません。
- 該当する端子 / スロットのチャンネルから利用可能なワードクロック信号が入力されていますが、01V96i の内部クロックとは同期していません。
- 該当する端子 / スロットのチャンネルの信号がワードクロックソースとして選ばれています。
- 該当する端子 / スロットのチャンネルの信号がワードクロックソースとして選ばれていますが、ワードクロック信号が入力されていません。
- ワードクロック信号が入力されていません。また、現在の I/O カードでは利用できないチャンネルも、このマークが表示されます。

ヒント:

- ・ 現在 01V96i が動作しているサンプリング周波数は、FS フィールドで確認できます。
- ・ SLOT TYPE フィールドには、スロットに装着している I/O カード名が表示されます。
- ・ IN/OUT フィールドに表示される数値は、装着している I/O カードのインプット / アウトプットのチャンネル数を表わします。

2. カーソルキーを使ってワードクロックのソースとなる項目にカーソルを合わせ、[ENTER] キーを押します。

ワードクロックマスターとして選択可能なソースは、次のとおりです。

ただし、USB は同期状態の表示のみで、ワードクロックマスターとしては選択できません。

- ・ **SLOT**
スロットに装着されたデジタル I/O カードから入力される信号です。奇数 / 偶数の順に並んだペアのチャンネル単位で選択できます。SLOT TYPE のフィールドで、現在装着されているカードの種類を確認できます。なお、実際に選択できるチャンネルは、デジタル I/O カードの種類に応じて変化します。
- ・ **adat**
リアパネルの ADAT IN 端子から入力される信号です。奇数 / 偶数の順に並んだペアのチャンネル単位で選択できます。
- ・ **WC IN**
リアパネルの WORD CLOCK IN 端子から入力される単独のワードクロック信号を選びます。
- ・ **2TRD**
2TR IN DIGITAL 端子の信号を選びます。
- ・ **INT 44.1k/INT 48k/INT 88.2k/INT 96k**
01V96i の内蔵クロックを使用します。これらの項目を選んだときは、01V96i がワードクロックマスターとして動作します。
- ・ **USB(表示のみ)**
TO HOST USB 端子から入力される信号の同期状態を表示します。ワードクロックマスターとしては選択できません。

ノート: 01V96i と外部機器との間でハイサンプリングレート (88.2kHz/96kHz) の信号を送受信する場合は、転送方法を選択する必要があります。

ヒント: 01V96i をワードクロックスレーブとして使用しているときにワードクロック信号の供給が途絶えると、自動的にそれまで同期していたクロックに最も近い内部のクロック (INT 44.1k/INT 48k/INT 88.2k/INT 96k) で動作します。

入出力端子のパッチングについて

01V96i は、入出力端子に対して自由に信号をパッチ(割り当て)できるように設計されています。ここでは、入出力端子に割り当てられた信号を確認したり、割り当てを変更する方法について説明します。

ヒント: INPUT 端子に接続した楽器の信号が入力されていない、あるいは利用したい出力先の端子に信号が送られない、という場合は以下の方法で入出力端子のパッチングをご確認ください。

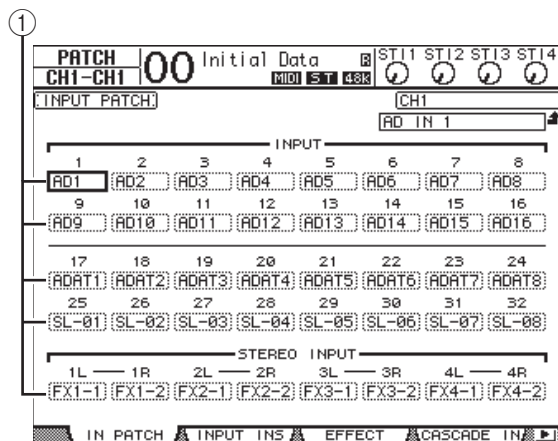
インプットチャンネルに入力信号を割り当てる

01V96i が初期状態のとき、各インプットチャンネルには次の信号が割り当てられています。

INPUT 端子 1 ~ 16	インプットチャンネル 1 ~ 16
ADAT IN 端子のチャンネル 1 ~ 8	インプットチャンネル 17 ~ 24
スロットのチャンネル 1 ~ 8	インプットチャンネル 25 ~ 32
内蔵エフェクト 1 ~ 4 のアウト 1/2	ST IN チャンネル 1 ~ 4

このパッチングを変更したり確認したりするには、次のように操作します。

1. DISPLAY ACCESS セクションの [PATCH] キーを繰り返し押し、次の画面を表示させます。



チャンネル番号の下にあるパラメーターボックス(①)に、現在そのインプットチャンネルに割り当てられている入力端子やスロットのチャンネルが表示されます。表示の意味は次のとおりです。

-	割り当てなし
AD1 ~ AD16	INPUT 端子 1 ~ 16
USB 1 ~ USB 16	TO HOST USB 端子のチャンネル 1 ~ 16

ADAT1 ~ ADAT8	ADAT IN 端子のチャンネル 1 ~ 8
SL-01 ~ SL-16	スロットのチャンネル 1 ~ 16
FX1-1/FX1-2	内蔵エフェクト 1 のアウト プット 1/2
FX2-1/FX2-2	内蔵エフェクト 2 のアウト プット 1/2
FX3-1/FX3-2	内蔵エフェクト 3 のアウト プット 1/2
FX4-1/FX4-2	内蔵エフェクト 4 のアウト プット 1/2
2TD-L/R	2TR IN DIGITAL 端子の L/R チャンネル

このパッチングを変更したり確認したりするには、次のように操作します。

2. 割り当てを変更したいチャンネルのパラメーターボックス(①)にカーソルを合わせ、パラメーターホイール(または [INC]/[DEC] キー)を使って、パッチ内容を修正します。
3. [ENTER] キーを押して、変更内容を確定します。

ヒント: パッチングを初期状態に戻したいときは、インプットパッチライブラリー-00 をリコールします。

OMNI OUT 端子に出力信号を割り当てる

01V96i が初期状態のとき、リアパネルの各種出力端子には、次の出力信号が割り当てられています。

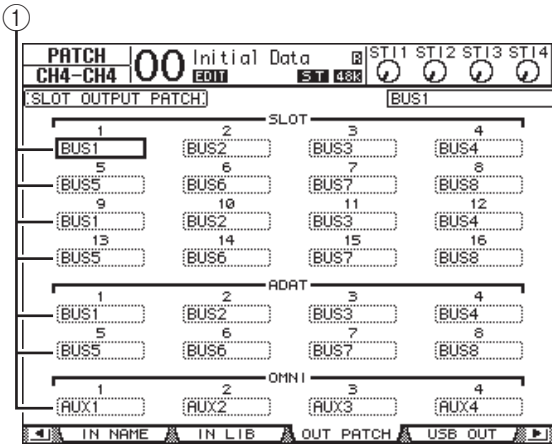
OMNI OUT 端子 1 ~ 4	AUX アウト 1 ~ 4
ADAT OUT 端子のチャンネル 1 ~ 8	バスアウト 1 ~ 8
スロットのチャンネル 1 ~ 8	バスアウト 1 ~ 8
スロットのチャンネル 9 ~ 16	バスアウト 1 ~ 8
2TR OUT DIGITAL 端子	ステレオアウト L/R

ヒント:

- STEREO OUT 端子からは、常にステレオバスの信号が出力されます。
- MONITOR OUT 端子からは、モニターソース選択スイッチの状態に応じて、モニターまたは 2TR IN 端子からの信号が出力されます。

このパッチングを変更したり確認したりするには、次のように操作します。

1. スロット /ADAT OUT 端子 /OMNI OUT 端子のパッチングを変更するには、[PATCH] キーを繰り返し押し、次の画面を表示させます。



各端子の番号の下にあるパラメーターボックス(①)に、現在その出力端子に割り当てられている信号経路が表示されます。表示の意味は次のとおりです。

-	割り当てなし
BUS1 ~ BUS8	バスアウト 1 ~ 8 の信号
AUX1 ~ AUX8	AUX アウト 1 ~ 8 の信号
ST L/R	ステレオアウトの信号
INS CH1 ~ INS CH32	インプットチャンネル 1 ~ 32 のインサートアウト
INS BUS1 ~ INS BUS8	バスアウト 1 ~ 8 のインサートアウト
INS AUX1 ~ INS AUX8	AUX アウト 1 ~ 8 のインサートアウト
INS ST-L/ST-R	ステレオアウトのインサートアウト
CAS BUS1 ~ BUS8	バスアウト 1 ~ 8 のカスケードアウト
CAS AUX1 ~ AUX8	AUX アウト 1 ~ 8 のカスケードアウト
CAS ST-L/ST-R	ステレオアウトのカスケードアウト
CASSOLOL/CASSOLOR	ソロチャンネルのカスケードアウト

2. パラメーターボックス(①)にカーソルを合わせ、パラメーターホイール(または[INC]/[DEC]キー)を使って、パッチ内容を変更します。
3. [ENTER]キーを押して、変更内容を確定します。

ヒント: パッチングを初期状態に戻したいときは、アウトプットライブラリ-00 をリコールします。

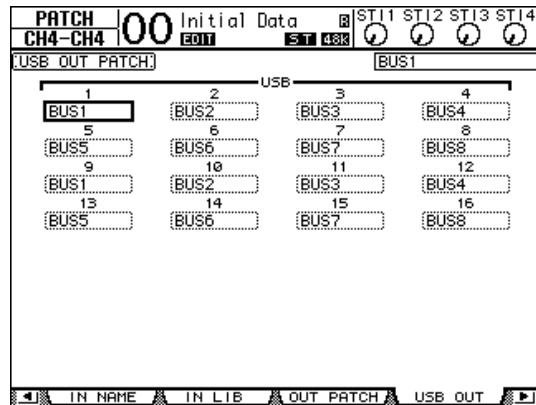
USB OUT に出力信号を割り当てる

01V96i が初期状態のとき、USB OUT には、次の出力信号が割り当てられています。

USB OUT1 ~ 8	バスアウト 1 ~ 8
USB OUT9 ~ 16	バスアウト 1 ~ 8

このパッチングを変更したり確認したりするには、次のように操作します。

1. DISPLAY ACCESS セクションの [PATCH] キーを繰り返し押し、次の画面を表示させます。



各端子の番号の下にあるパラメーターボックスに、現在その出力端子に割り当てられている信号経路が表示されます。表示の意味は次のとおりです。

-	割り当てなし
BUS1 ~ BUS8	バスアウト 1 ~ 8 の信号
AUX1 ~ AUX8	AUX アウト 1 ~ 8 の信号
ST L/R	ステレオアウトの信号
INS CH1 ~ INS CH32	インプットチャンネル 1 ~ 32 のインサートアウト
INS BUS1 ~ INS BUS8	バスアウト 1 ~ 8 のインサートアウト
INS AUX1 ~ INS AUX8	AUX アウト 1 ~ 8 のインサートアウト
INS ST-L/ST-R	ステレオアウトのインサートアウト

2. パラメーターボックスにカーソルを合わせ、パラメーターホイール(または[INC]/[DEC]キー)を使って、パッチ内容を変更します。
3. [ENTER]キーを押して、変更内容を確定します。

目的別操作

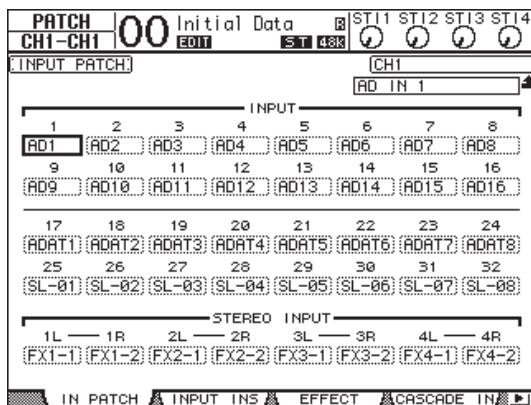
ここでは、01V96i の操作を目的別に説明します。

インプットパッチ / アウトプットパッチを設定する

01V96i は、外部入出力端子と内部のミキサーの入出力を自由に接続して使用できます。手順は以下のとおりです。

インプットパッチの設定

1. DISPLAY ACCESS セクションの [PATCH] を繰り返し押し続けて PATCH 画面の IN PATCH ページを表示させます。

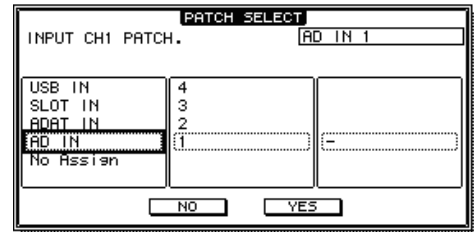


初期設定では、INPUT 端子 1～16 に接続された楽器やマイクの信号がインプットチャンネル 1～16 に送られます。また、ADAT IN 端子からの入力信号がインプットチャンネル 17～24 に、スロットからの入力信号がインプットチャンネル 25～32 に送られます。

2. パッチを変更したいインプットチャンネルのパラメーターボックスにカーソルを合わせて、パラメーターホイールや [INC]/[DEC] キーを使ってパッチを選択します。

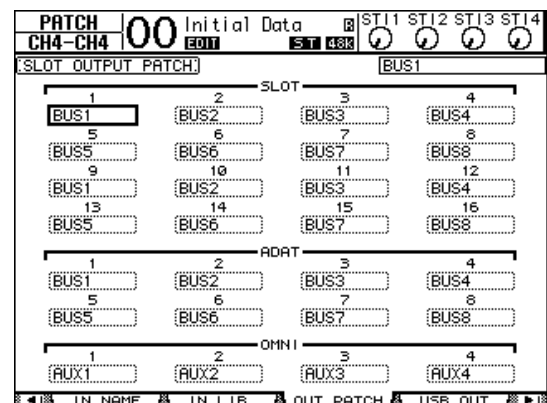
3. [ENTER] を押し続けて確定します。

ノート: インプットチャンネルのパラメーターボックスにカーソルを合わせたときに [ENTER] を押し、「PATCH SELECT」ポップアップで選択することもできます。この場合は、変更したい入力端子とチャンネル番号を選択し、[INC] を押し続けて確定します。



アウトプットパッチの設定

1. [PATCH] を繰り返し押し続けて、PATCH 画面の OUT PATCH ページを表示させます。



初期設定では、図のように設定されています。

2. インプットパッチの設定と同様に、アウトプットチャンネルのパラメーターボックスにカーソルを合わせて、パラメーターホイールや [INC]/[DEC] を使ってパッチを選択します。
3. [ENTER] を押し続けて確定します。

入力レベルを設定する

ここでは、インプットパッチが初期設定のままで、INPUT 端子に接続された楽器やマイクの信号の入力レベルを調整する手順を例に説明します。

1. INPUT 端子に接続された楽器などの音を出しながら、最大音量時に [PEAK] がかすかに点滅するように、それぞれの [PAD] と [GAIN] を調節します。

ノート: [GAIN] は、アナログ入力の感度を調節するコントロールです。ダイナミックレンジが広く、ノイズの少ない音で録音するには、クリップしない範囲で、[GAIN] を高めに設定するのがコツです。

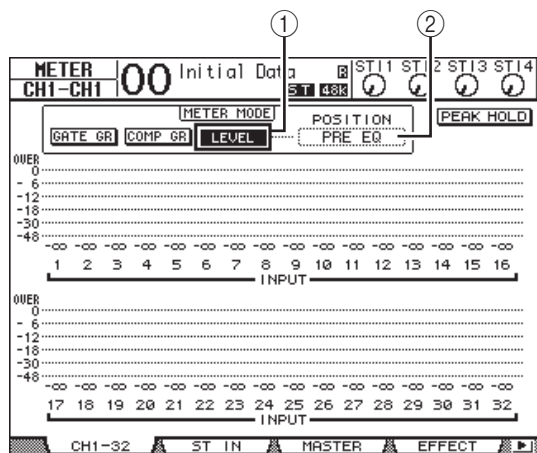
2. LAYER セクションの [1-16] を押します。

チャンネルモジュールで操作可能なレイヤーとして、インプットチャンネルレイヤー1～16が選ばれます。

ノート: レイヤーを切り替えても、以前のレイヤーでのフェーダー位置や [ON] の状態は記憶されており、もう一度そのレイヤーを呼び出したときに、元の状態に戻ります。

3. FADER MODE セクションの [HOME] → [F1] を押し、METER 画面の CH1-32 ページを表示させます。

METER 画面は、各チャンネルの入出力レベルや、コンプレッサー/ゲートのゲインリダクション量などを表示する、ミキシングや録音の開始点となる画面です。CH1-32 ページでは、インプットチャンネル1～32の入力レベルやコンプレッサー/ゲートのゲインリダクション量を確認できます。



4. 画面上部の METER MODE フィールドで、LEVEL ボタンがオン(①)になっていることを確認します。

METER MODE フィールドでは、画面内にメーター表示する信号の種類を選びます。LEVEL ボタン以外のボタンがオンになっているときは、LEVEL ボタンにカーソルを合わせて [ENTER] を押します。

5. LEVEL ボタン右側の POSITION パラメーターボックス(②)にカーソルを合わせ、パラメーターホイールまたは [INC]/[DEC] を使って“POST FADER”を選択し、[ENTER] を押します。

POSITION パラメーターボックスでは、メーター表示されるレベルの検出位置を選択します。“POST FADER”が選ばれているときには、フェーダー通過後のレベルが表示されます。

ノート: PRE EQ を選ぶと EQ 通過前の入力レベル、PRE FADER を選ぶと EQ 通過後 / フェーダー通過前の入力レベルがメーターに表示されます。

6. 該当するチャンネルの [ON] がオンになっている(点灯している)ことを確認し、フェーダーを 0dB の位置まで上げます。

7. 楽器などの音を出しながら、画面上に表示されるレベルメーターで、インプットチャンネルごとの入力レベルを確認します。

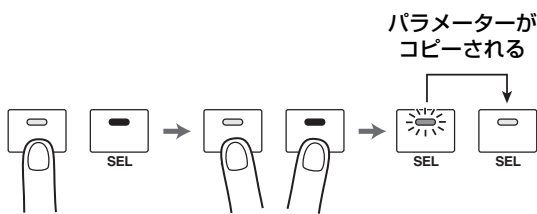
ノート: メーターが“OVER”の位置まで到達するときは、フェーダーが 0dB の位置にあることを確認してから、対応する [GAIN] を下げてください。

2つのチャンネルをペア化する

01V96i では、奇数 / 偶数の順に並んだチャンネル同士をステレオペアに設定できます。ペアに設定した2チャンネルは、インプットパッチ、フェイズ、ルーティング、パンなどを除く主要なミックスパラメーターが連動します。CD プレーヤーやシンセサイザーなどのステレオソースを入力するときは、インプットチャンネル同士をペア化しておく便利です。

1. 奇数 / 偶数の順に隣り合ったインプットチャンネル同士をステレオペア化するには、片方のチャンネルの [SEL] を押しながら、もう一方のチャンネルの [SEL] を押します。

該当する2チャンネルがペアに設定され、フェーダー、チャンネルのオン / オフなどの主要パラメーターが、最初に [SEL] を押したチャンネルからもう一方のチャンネルへとコピーされます。これ以降は、片方のチャンネルで共通化されたパラメーターを操作すると、もう一方もそれに追従します。



ヒント: ペアの設定後でも、[SEL] を使って片方のチャンネルを操作の対象として選べます (現在選ばれているチャンネルの [SEL] が点灯し、もう一方の [SEL] が点滅します)。

2. ペアを解除するには、片方の [SEL] を押しながらも一方の [SEL] を押します。

ノート: チャンネルがペア化されている場合は、必ずどちらかのフェーダーのみを操作してください。両方同時に動かそうとすると、モーターに負荷がかかり、故障の原因となります。

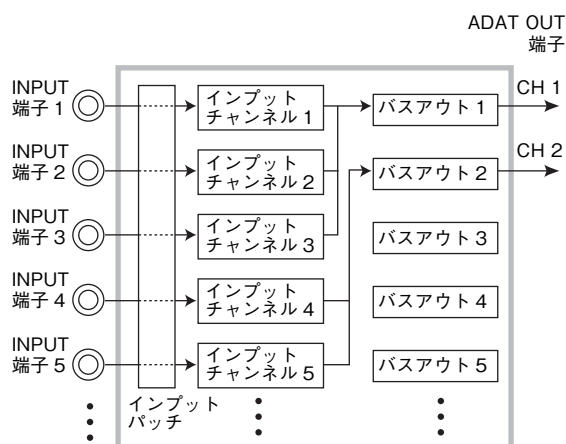
ルーティングを設定する

01V96i に入力された信号を外部に出力するには、インプットチャンネルごとに送り先を指定する必要があります。この操作を「ルーティング」と呼びます。ルーティングの設定方法には、次の2種類があります。

・バスアウト 1 ~ 8 を利用する

インプットチャンネルの信号を一度バス 1 ~ 8 に送り、バスアウト 1 ~ 8 を経由して出力端子 / 出力チャンネルへと送出する方法です。複数のインプットチャンネルの信号をミックスして出力したいときなどに、この方法を利用します。必要ならば、バスアウト 1 ~ 8 のコンプレッサーや EQ を使って信号を加工することもできます。

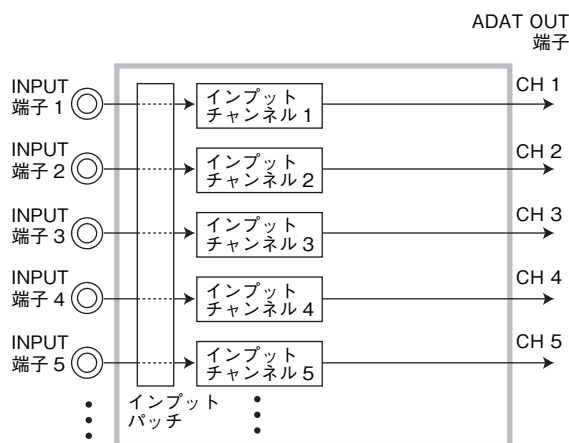
次の図は、バスアウト 1/2 を経由して、ADAT OUT 端子 1/2 に信号を出力する場合の例です。



・ダイレクト出力を利用する

インプットチャンネルごとに送り先となる出力端子や出力チャンネルを指定して、ダイレクト出力する方法です。

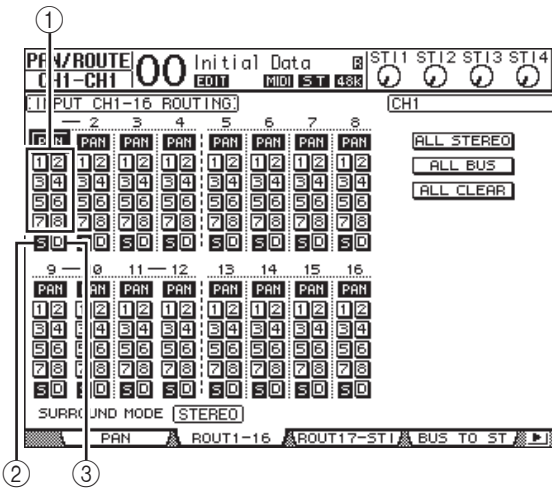
次の図は、ADAT OUT 端子 1 ~ 5 に信号をダイレクト出力する場合の例です。



ここでは、前述の2つの方法を組み合わせたルーティングの設定方法を説明します。

1. DISPLAY ACCESS セクションの [PAN/ROUTING] を繰り返し押し、PAN/ROUTE 画面の ROUT1-16 ページを呼び出します。

このページでは、チャンネルごとに送信先となるバスアウトを選択します。



各ボタンの機能は、次のとおりです。

- ① 1～8 ボタン
インプットチャンネルの信号をバス 1～8 に送ります(複数選択可)。
- ② S ボタン
インプットチャンネルの信号をステレオバスに送ります。
- ③ D ボタン
インプットチャンネルの信号を、あらかじめ指定された出力端子 / 出力チャンネルに直接送ります。

2. 楽器 / マイクを接続したインプットチャンネルの S ボタンにカーソルを合わせ、[ENTER] を押してオフに切り替えます。

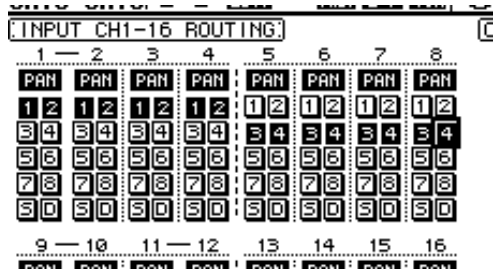
01V96i が初期状態のとき、それぞれのインプットチャンネルはステレオバスに割り当てられており、そのまま MONITOR OUT 端子 / PHONES 端子からモニターできます。

しかし、マルチトラック録音を行なう場合や、DAW のエフェクトをかけた音をモニターする場合は、入力信号をそのままモニターするのではなく、レコーダーや DAW から返される信号をモニターします。この場合は、インプットチャンネルの入力信号がステレオバスには送られなくなるように、S ボタンをオフに設定します。



3. インプットチャンネルの信号をバス 1～8 経由でレコーダーや DAW に送るには、楽器 / マイクを接続したインプットチャンネルごとに、1～8 ボタンを使って送り先となるバスアウトを選択します。

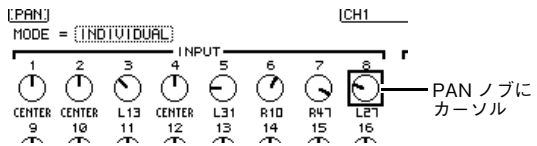
インプットチャンネル 1～4 をバス 1/2 に、インプットチャンネル 5～8 をバス 3/4 に割り当てた場合の例:



4. [PAN/ROUTING] を繰り返し押し、PAN/ROUTE 画面の PAN ページを呼び出します。

PAN ページでは、インプットチャンネルからステレオバスに送られる信号のパン、およびインプットチャンネルから奇数 / 偶数バスに送られる信号のパンを設定します。

5. 奇数 / 偶数バスに割り当てたインプットチャンネルの PAN ノブにカーソルを合わせ、パラメーターホイール(または [INC]/[DEC])を使ってパンの値を設定します。



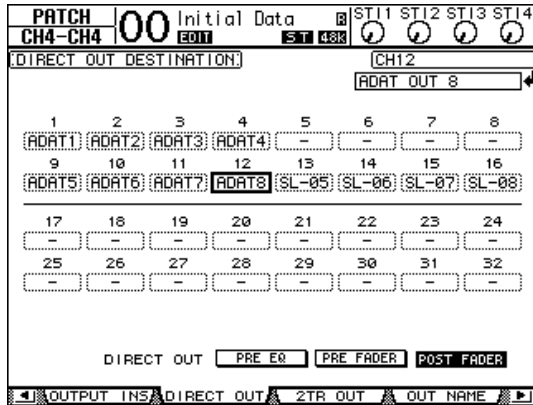
ヒント: [SEL] を使ってインプットチャンネルを指定し、SELECTED CHANNEL セクションの [PAN] を使ってパンの設定をすることもできます。

6. インプットチャンネルの信号をダイレクト出力するときには、DISPLAY ACCESS セクションの [PATCH] を繰り返し押し、PATCH 画面の DIRECT OUT ページを呼び出します。

DIRECT OUT ページでは、インプットチャンネルごとにダイレクト出力する出力端子 / 出力チャンネルを指定します。

7. ダイレクト出力したいインプットチャンネルのパラメーターボックスにカーソルを合わせ、出力端子 / 出力チャンネルを指定します。

インプットチャンネル 9 ~ 12 の入力信号を、それぞれ ADAT OUT 端子の出力チャンネル 5 ~ 8 に割り当てた場合の例:



8. [PAN/ROUTING] を繰り返し押し、PAN/ROUTE 画面の ROUT1-16 ページを呼び出します。

9. ダイレクト出力したいインプットチャンネルの D ボタンにカーソルを合わせ、[ENTER] を押します。

D ボタンをオンに設定したインプットチャンネルの信号が、手順 7 で指定した出力端子 / 出力チャンネルに直接送られます。



入力信号にイコライザーをかける

01V96i では、すべてのチャンネルに 4 バンドのフルパラメトリック EQ が搭載されています。ここでは、インプットチャンネルの EQ を使って、音質を補正する方法を説明します。

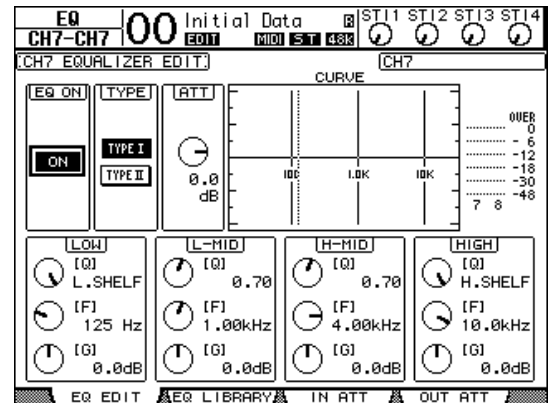
1. LAYER セクションの [1-16] を押します。

チャンネルモジュールで操作可能なレイヤーとして、インプットチャンネルレイヤー 1 ~ 16 が選ばれます。

2. [SEL] を使って、EQ を操作するインプットチャンネルを選びます。

3. [EQ] → [F1] を押し、EQ 画面の EQ EDIT ページを呼び出します。

EQ EDIT ページでは、現在選ばれているチャンネルの EQ パラメーターを操作します。



4. ディスプレイ左上の ON/OFF ボタンがオン (ON) になっていることを確認します。

ON/OFF ボタンは、EQ のオン / オフを切り替えるボタンです。オフに設定されているときは、[ENTER] を押してオンに切り替えてください。

5. 楽器などの音を出しながら、EQ のパラメーターを調節します。

EQ のパラメーターを調節するには、ディスプレイ下部にカーソルを移動し、パラメーターホイールを使って値を変更します。LOW、L-MID、H-MID、HIGH のバンドごとに、次のパラメーターを調節できます。

・ Q (キュー)

F で設定した中心周波数をブースト / カットするときのキュー (急峻度) を設定します。設定範囲は 10 ~ 0.10 で、値が大きいほどカーブの勾配が急になります。なお、LOW/HIGH バンドでは、イコライザーのタイプを切り替える用途にも使います。

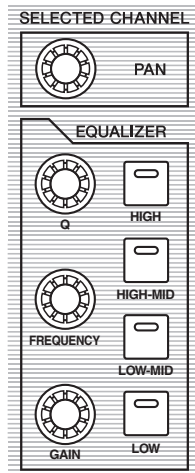
・ F(フリーケンシー)

ブースト/カットする中心周波数を設定します。可変範囲はどのバンドも 21.2Hz ~ 20kHz です。

・ G(ゲイン)

ブースト/カット量を -18.0dB ~ +18.0dB の範囲で設定します。なお、LOW バンド EQ で “HPF” が選ばれているとき、および HIGH バンド EQ で “LPF” が選ばれているときは、このノブを使ってフィルターのオン/オフを切り替えます。

また、SELECTED CHANNEL セクションのキー/コントロールを使って EQ のパラメーターを操作することもできます。この場合は、[HIGH]/[HIGH-MID]/[LOW-MID]/[LOW]の各キーで操作するバンドを選び、[Q] [FREQUENCY] [GAIN]の各コントロールでそのバンドのパラメーターを操作します。



ヒント:

- ・ LOW バンド EQ は、Q を時計方向に回しきると “L.SHELF” (ローシェルフ)、反時計周りに回しきると “HPF” (ハイパスフィルター) に切り替わります。
- ・ HIGH バンド EQ は、Q を時計方向に回しきると “H.SHELF” (ハイシェルフ)、反時計周りに回しきると “LPF” (ローパスフィルター) に切り替わります。
- ・ EQ が初期状態のとき、LOW バンドは “L.SHELF”、HIGH バンドは “H.SHELF” のタイプが選ばれています。

6. 同じ要領で、ほかのインプットチャンネルの EQ を操作します。

ヒント: ディスプレイ右上に、EQ 通過後の信号レベルが表示されます。このメーターが “OVER” の位置まで到達する場合は、画面左上の ATT. ノブを使って EQ に入力される信号のレベルを下げてください。

EQ ライブラリーを使う

EQ の設定を、EQ ライブラリーから呼び出して使うこともできます。EQ ライブラリーのナンバー 1 ~ 40 には、主要な楽器に対応した EQ の設定(プログラム)がプリセットされていますので、これをもとにして効率よく調節できます。

1. LAYER セクションの [1-16] を押します。

チャンネルモジュールで操作可能なレイヤーとして、インプットチャンネルレイヤー 1 ~ 16 が選ばれます。

2. [SEL] を使って、EQ を操作するインプットチャンネルを選びます。

3. [EQ] → [F2] を押し、EQ 画面の EQ LIBRARY ページを呼び出します。

4. パラメーターホイールをまわして中央のリストをスクロールさせ、リコールしたいプログラムを選択します。

リスト内の点線で囲まれている列が、現在選択されているプログラムを表わします。

No.	LIBRARY TITLE	
12.	E.B. Finger	8
11.	A. Dr. OverTop	8
10.	A. Dr. Tom	8
9.	A. Dr. SH	8
8.	A. Dr. SH	8
7.	A. Dr. SH	8
6.	A. Dr. BD	8

5. ライブラリーリスト左側の RECALL ボタンにカーソルを合わせ、[ENTER] を押します。

プログラムのリコールが実行されます。

6. [F1] を押して、EQ 画面の EQ EDIT ページを呼び出します。

必要に応じてパラメーターを調節します。

入力信号にコンプレッサーをかける

01V96iのインプットチャンネル1～32には、個別にコンプレッサーが搭載されています。コンプレッサーは、音を圧縮して音量のレベルを揃えたり、最大レベルを抑えて、全体の音量を上げたりするときを使うエフェクトです。ここでは、入力信号をコンプレッサーで加工する方法を説明します。

1. LAYER セクションの [1-16] キーを押します。

チャンネルモジュールで操作可能なレイヤーとして、インプットチャンネルレイヤー1～16が選ばれます。

2. [SEL] を使って操作するインプットチャンネルを選びます。

3. [DYNAMICS] → [F4] を押します。

DYNAMICS 画面の COMP LIB ページが表示されます。このページでは、コンプレッサーの設定(プログラム)をコンプレッサーライブラリーにストアしたり、すでにストアされているプログラムをリコールしたりします。コンプレッサーライブラリーのナンバー1～36には、主要な楽器に対応するプログラムがプリセットされていますので、これを利用してみましょう。

4. パラメーターホイールをまわして中央のリストをスクロールさせ、リコールしたいプログラムを選択します。

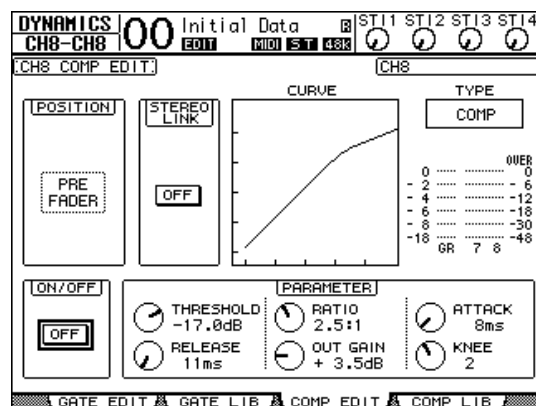
リスト内の点線で囲まれている列が、現在選択されているプログラムを表わします。

5. ライブラリーリスト左側の RECALL ボタンにカーソルを合わせ、[ENTER] を押します。

プログラムのリコールが実行されます。

6. [F3] を押します。

DYNAMICS 画面の COMP EDIT ページが表示されます。このページでは、コンプレッサーの各パラメーターを変更できます。



ヒント:

- ・ダイナミクスプロセッサーには、COMP(コンプレッサー)、EXPAND(エクスパンダー)、COMP.(S)(コンバンダーソフト)、COMP.(H)(コンバンダーハード)という4種類のタイプがあり、それぞれパラメーターの内容が異なります(タイプごとのパラメーターについては、リファレンスマニュアルをご参照ください)。
- ・COMP EDIT ページで、コンプレッサーのタイプを切り替えることはできません。このため、特定のタイプを利用したいときは、コンプレッサーライブラリーからそのタイプを使ったプログラムをリコールし、必要に応じてパラメーターを変更してください。

7. [ENTER] キーを押し、ディスプレイ左下の ON/OFF ボタンをオン(ON)に切り替えます。

ON/OFF ボタンは、コンプレッサーのオン/オフを切り替えるボタンです。インプットチャンネルのコンプレッサーが有効になります。

8. 楽器などの音を出しながら、必要に応じてコンプレッサーのパラメーターを調節します。

パラメーターを調節するには、ディスプレイ右下の PARAMETER フィールドに並んだノブにカーソルを合わせ、パラメーターホイール(または [INC]/[DEC] キー)を操作します。

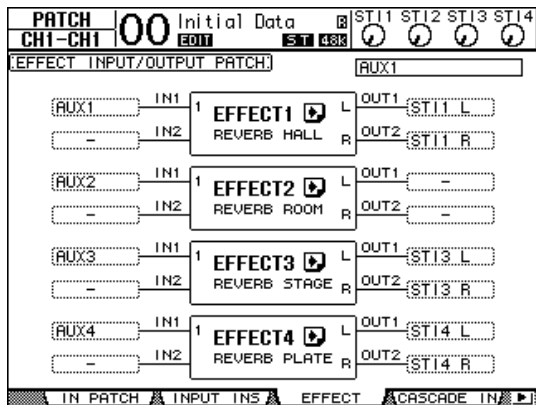
なお、インプットチャンネル1～32には、コンプレッサーとは独立して利用できるゲートが搭載されています。ゲートを利用したいときは、コンプレッサーと同じ要領で [DYNAMICS] → [F2] を押してゲートライブラリーを呼び出し、[DYNAMICS] → [F1] を押して GATE EDIT ページでパラメーターを調節してください。

内蔵エフェクトを使う

01V96i では、4 系統の内蔵エフェクトが用意されており、AUX センド / リターン経由で、または任意のチャンネルにインサートして利用できます。ここでは、内蔵エフェクト 1 を AUX センド 1 経由で使用し、各チャンネルの信号にリバーブをかける手順を説明します。

1. DISPLAY ACCESS セクションの

[PATCH] を繰り返し押し、PATCH 画面の EFFECT ページを呼び出します。



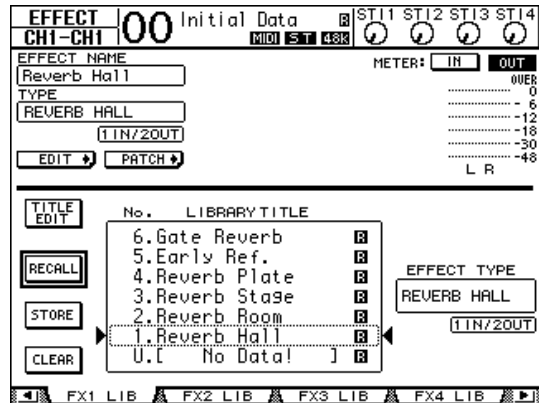
このページでは、4 系統の内蔵エフェクトの入出力に、01V96i 内部の信号経路をパッチします。01V96i が初期状態のとき、上図のように内蔵エフェクト 1 の入力に AUX センド 1、内蔵エフェクト 1 の出力には ST IN チャンネル 1 の L/R がパッチされています。

ヒント: 内蔵エフェクト 1 の設定が上記と異なる場合は、パラメーターホイール(または [INC] / [DEC]) と [ENTER] を使って、設定を変更してください。

2. トップパネル上の ST IN セクションで、ST IN チャンネル 1 に対応する [ON] がオンになっていることを確認します。

3. DISPLAY ACCESS セクションの

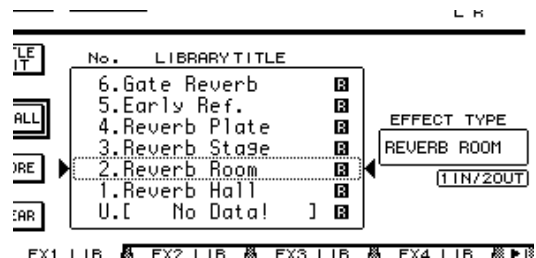
[EFFECT] を繰り返し押し、EFFECT 画面の FX1 LIB ページを呼び出します。



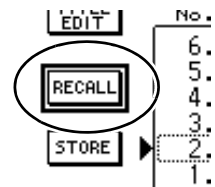
EFFECT 画面の FX1 LIB ページでは、内蔵エフェクト 1 で使用するエフェクトプログラムをエフェクトライブラリーからリコールしたり、内蔵エフェクト 1 の現在の設定をエフェクトライブラリーにストアできます。画面下部の中央にあるリストの中から、ストア / リコールするプログラムを選択します。リスト内にある点線の枠は、現在操作の対象として選ばれているプログラムを示しています。

4. パラメーターホイールを回して、リストの中から“2.Reverb Room”を選択します。

ここではルームリバーブを例とします。



5. リスト左側の RECALL ボタンにカーソルを合わせて [ENTER] キーを押します。内蔵エフェクト 1 に、エフェクトプログラム“Reverb Room”が読み込まれます。



6. [EFFECT] を繰り返し押し、EFFECT 画面の FX1 EDIT ページを呼び出します。

必要に応じてパラメーターを調節してください。

7. LAYER セクションの [1-16] キーを押します。

チャンネルモジュールで操作可能なレイヤーとして、インプットチャンネルレイヤー 1 ~ 16 が選ばれます。

8. FADER MODE セクションの [AUX 1] を押して、キーを点灯させます。

[AUX1]～[AUX8]キーが点灯しているとき、フェーダー1～16はAUX 1～8へのセンドレベルを操作するのに使用します。

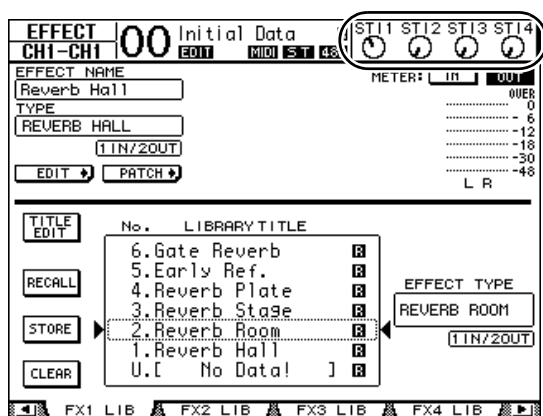
この例では、インプットチャンネル1～16からAUXアウト1(内蔵エフェクト1の入力)に送られる信号のセンドレベルを調節します。

ヒント: フェーダー1～16の機能を通常のレベル操作に戻すには、FADER MODE セクションの[HOME]を押します。

9. 楽器などの音を出しながら、フェーダー1～16を使って各インプットチャンネルからエフェクト1に送られる信号のセンドレベルを調節します。

10. エフェクトのリターンレベルを調節するには、トップパネル上にある ST IN セクションの左側のレベルコントロールを調節します。

レベルコントロールの現在の値は、画面右上で確認できます。



USB 端子を使って DAW ソフトウェアに録音する

ここでは、01V96i に入力した信号を、USB 経由でコンピューターの DAW ソフトウェア(以降 DAW)に録音する場合の手順を説明します。

ノート: コンピューターに、ドライバーソフトウェア Yamaha Steinberg USB Driver をあらかじめインストールしておく必要があります。

Yamaha Steinberg USB Driver は、下記のウェブサイトからダウンロードできます。インストールの方法は、ダウンロードしたファイルに収録されているインストールガイドをご参照ください。

<http://proaudio.yamaha.co.jp/>

USB 端子を使ってコンピューターの DAW に録音するには、次の 2 つの方法があります。

バスアウト 1～8 を録音する

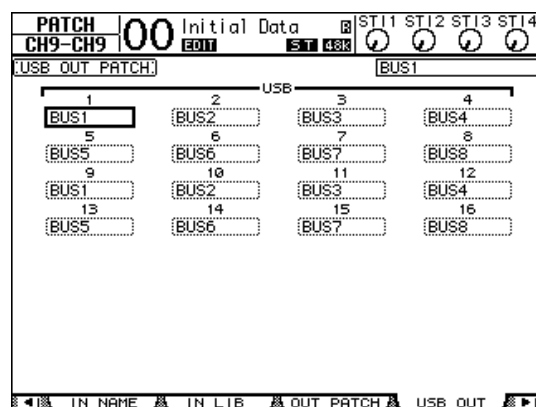
インプットチャンネルの信号を一度バス 1～8 に送り、バスアウト 1～8 を経由して USB OUT へと送出する方法です。複数のインプットチャンネルの信号をミックスしてステレオ録音したいときなどに、この方法を利用します。必要ならば、バスアウト 1～8 のコンプレッサーや EQ を使って信号を加工することもできます。

バスアウト 1/2 を USB 経由で DAW のステレオトラックに録音する手順は次のとおりです。

ヒント: あらかじめ録音したいインプットチャンネルをバスアウト 1/2 へアサインしておく必要があります。バスアウトへのアサインについては、「ルーティングを設定する」(→ P.33)をご参照ください。

1. コンピューターと 01V96i を USB ケーブルで接続しておきます。

2. DISPLAY ACCESS セクションの [PATCH] を繰り返し押して PATCH 画面の USB OUT ページを表示させます。



3. USB1 に BUS1、USB2 に BUS2 が設定されていることを確認します。

設定が上記と異なる場合は、パラメーターホイール(または [INC]/[DEC])と [ENTER] を使って、設定を変更してください。

4. DAW を起動して、Yamaha Steinberg USB Driver を使用する設定にします。

付属の Cubase AI をお使いの場合は、下記の項目を設定してください。

- メニューの「デバイス」→「デバイス設定」の VST オーディオシステムをクリックして、ASIO ドライバーに「Yamaha Steinberg USB ASIO」(Windows)/「Yamaha 01V96i」(Mac) を選びます。
- メニューの「デバイス」→「VST コネクション」の入力タブで [バスを追加] →「構成」を Stereo、「数」を 1 にする → [OK] をクリックして、ステレオインプットを新規に作成します。作成した「Stereo In」のデバイスポートに「01V96i 1/2」(Windows)/「01V96i 1」と「01V96i 2」(Mac) を設定します。

そのほかの DAW の設定については、DAW の取扱説明書などをご参照ください。

5. DAW 上でステレオトラックを用意します。

6. ステレオトラックの入力ポートとして、01V96i 1/2 を選択します。

Cubase AI の場合は、手順 4 で作成した入力ポートの名前(初期設定では「Stereo In」)を選択します。

7. 録音したいトラックを録音可能状態にして、録音を開始します。

8. 録音が終わったら停止します。

ダイレクト出力を録音する

インプットチャンネルごとに DAW へダイレクト録音する方法です。複数のインプットチャンネルの信号を個別のトラックに録音したいときに、この方法を利用します。ライブ録音を、あとでミックスしたいときなどに便利です。ここでは、インプットチャンネル 1 ~ 16 を、DAW のトラック 1 ~ 16 にダイレクト録音する手順を説明します。

1. DISPLAY ACCESS セクションの [PATCH] を繰り返し押し、PATCH 画面の DIRECT OUT ページを呼び出します。

2. ダイレクト出力したいインプットチャンネルのパラメーターボックスにカーソルを合わせ、出力端子 / 出力チャンネルを指定します。

パラメーターボックスに、カーソルを合わせて、パラメーターホイール(または [INC]/[DEC])を使ってパッチを選択します。1 ~ 16 に USB 1 ~ USB 16 を設定します。

3. DISPLAY ACCESS セクションの [PAN/ROUTING] を繰り返し押し、PAN/ROUTE 画面の ROUT1-16 ページを呼び出します。

D ボタンをオンに設定したインプットチャンネルの信号が、手順 2 で指定した USB OUT に直接送られます。



4. DAW を起動して、Yamaha Steinberg USB Driver を使用する設定にします。

付属の Cubase AI をお使いの場合は、下記の項目を設定してください。

- メニューの「デバイス」→「デバイス設定」の VST オーディオシステムをクリックして、ASIO ドライバーに「Yamaha Steinberg USB ASIO」(Windows)/「Yamaha 01V96i」(Mac) を選びます。
 - メニューの「デバイス」→「VST コネクション」の入力タブで [バスを追加] →「構成」を Mono、「数」を 16 にする → [OK] をクリックして、モノラルインプットを新規に作成します。作成した「Mono In 1 ~ 16」のデバイスポートに「01V96i 1 ~ 16」をそれぞれ設定します。
- そのほかの DAW の設定については、DAW の取扱説明書などをご参照ください。

5. DAW 上でモノラルトラックを用意します。

6. モノラルトラックの入力ポートとして、01V96i 1 ~ 16 をそれぞれ選択します。

Cubase AI の場合は、手順 4 で作成した入力ポートの名前(初期設定では、Mono In 1 ~ 16)を選択します。

7. 録音したいトラックをすべて録音可能状態にして、録音を開始します。

8. 録音が終わったら停止します。

DAW からのモニターレベルを調節する

DAW から再生される音声を、01V96i のインプットチャンネルに返し、MONITOR OUT 端子や PHONES 端子を経由してモニターします。

通常は、DAW のステレオバスの信号を、01V96i のインプットチャンネルに送ってモニターしますが、オーバーダビングなどの場合に、楽曲のミックスバランスと別のバランスでモニターしたいことがあります。この場合は、DAW の各トラックの信号を、個別にインプットチャンネルに返して、01V96i でバランスを調節できます。ここでは、DAW のトラック 1～8 の信号を 01V96i のインプットチャンネル 17～24 に送って、モニターレベルを調節する手順を説明します。

1. コンピューターと 01V96i を USB ケーブルで接続しておきます。

2. DAW を起動して、Yamaha Steinberg USB Driver を使用する設定にします。

付属の Cubase AI をお使いの場合は、下記の項目を設定してください。

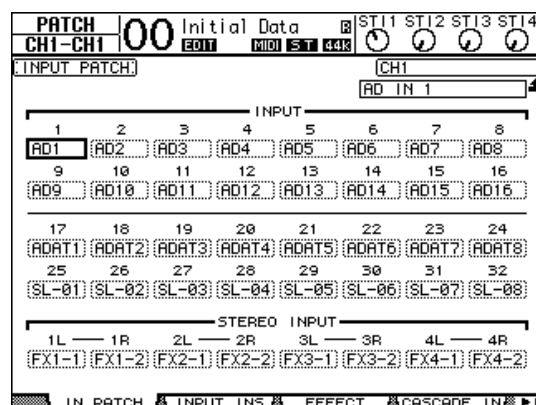
- メニューの「デバイス」→「デバイス設定」の VST オーディオシステムをクリックして、ASIO ドライバーに「Yamaha Steinberg USB ASIO」(Windows)/「Yamaha 01V96i」(Mac) を選びます。
- メニューの「デバイス」→「VST コネクション」の出カタブで「バスを追加」→「構成」を Mono、「数」を 8 にする→[OK] をクリックして、モノラルアウトプットを新規に作成します。作成した「Mono Out1～8」のデバイスポートに「01V96i 1～8」をそれぞれ設定します。

そのほかの DAW の設定については、DAW の取扱説明書などをご参照ください。

3. DAW 上のトラック 1～8 の出力ポートとして「01V96i 1～8」をそれぞれ選択します。

Cubase AI の場合は、手順 2 で作成した出力ポートの名前(初期設定では、Mono Out1～8)を選択します。

4. DISPLAY ACCESS セクションの [PATCH] を繰り返し押しして PATCH 画面の IN PATCH ページを表示させます。

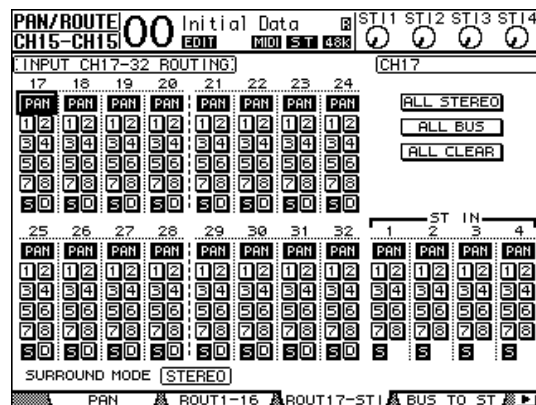


5. INPUT17～24 にカーソルを合わせて、パラメーターホイール(または [INC]/[DEC])を使って USB IN1～8 をそれぞれ設定します。

6. LAYER セクションの [17-32] を押します。

チャンネルモジュールで操作可能なレイヤーとして、インプットチャンネルレイヤー 17～32 が選ばれます。

7. DISPLAY ACCESS セクションの [PAN/ROUTING] を繰り返し押し、PAN/ROUTE 画面の ROUT17-ST1 ページを呼び出します。

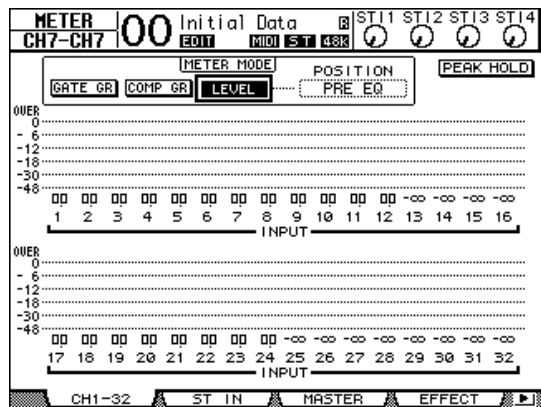


8. インプットチャンネル 17～24 で、S ボタンがオン、1～8 ボタンがオフになっていることを確認し、必要に応じて PAN ノブを使ってモニター信号のパンを設定します。

ヒント: インプットチャンネル 17～32 のパン、フェーダー、[ON] を操作しても、モニター用の信号が変化するだけで、DAW に録音される信号には影響しません。

9. DISPLAY ACCESS セクションの[HOME] →[F1]を押し、METER 画面の CH1-32 ページを表示させます。

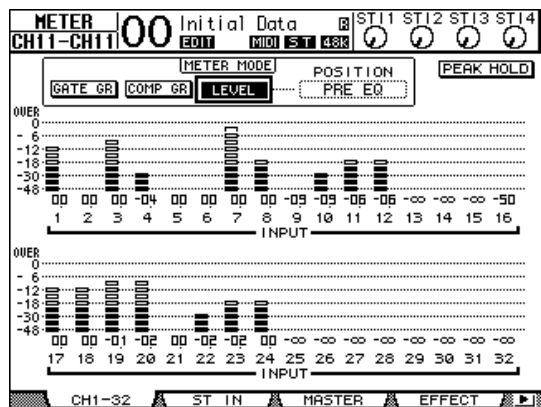
10. [ON] 1 ~ 8 がオンになっている(点灯している)ことを確認し、[STEREO]フェーダーを OdB の位置まで上げます。



11. DAW を再生しながら、適切なレベルのモニター信号が得られるように、フェーダー1 ~ 8、[MONITOR OUT]、[PHONES]を操作します。

この状態で、インプットチャンネル 17 ~ 24 からステレオバスに送られる信号を、モニターシステムやヘッドフォンでモニターできます。

ヒント: L/R のレベルメーターが OVER の位置まで到達するときは、[STEREO]フェーダーを下げてください。



シーンメモリーを使う

01V96i では、各チャンネルのミックスパラメーター、内蔵エフェクトの設定、リモートレイヤー、インプット/アウトプットパッチの設定状態に名前を付けて「シーン」として専用メモリーに保存できます。シーンメモリーには 99 種類のシーンをストアでき、画面操作やトップパネルのキーを使っていつでも任意のシーンをリコール(呼び出し)できます。ここではトップパネルのキーを使った手順を説明します。

1. 01V96i のミックスパラメーターをシーンに保存したい状態に調節します。

2. SCENE MEMORY セクションのシーン[▲]/[▼]キーを使って、保存先となるシーンナンバーを選びます。

現在選ばれているシーン以外のシーンを選ぶと画面上部の、シーンナンバーが点滅します。

なお、シーンナンバー“Ud”と“00”はリコール専用のシーンです。保存先にはすることはできません。また、書き込み保護されているシーンに対して保存はできません。

3. SCENE MEMORY セクションの [STORE] を押します。

保存するシーンに名前をつける TITLE EDIT ポップアップウィンドウが表示されます。

4. シーンの名前を入力し、OK ボタンにカーソルを合わせて [ENTER] を押します。

ポップアップウィンドウが閉じてシーンが保存されます。

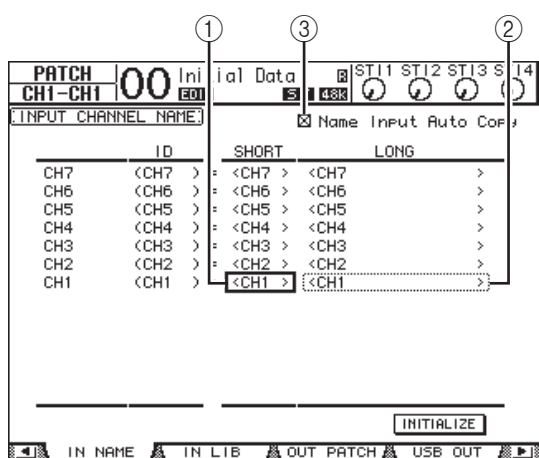
5. シーンをリコール(呼び出し)するには、シーン[▲]/[▼]キーを使って、リコールしたいシーンナンバーを選び、SCENE MEMORY セクションの [RECALL] を押します。

チャンネルの名前を変更する

初期状態でインプットチャンネル(インプットチャンネル 1～32、ST IN チャンネル 1～4)やアウトプットチャンネル(AUX アウト 1～8、バスアウト 1～8、ステレオアウト)に付けられている名前は、必要に応じて変更できます。

インプットチャンネルの名前を変更する

1. DISPLAY ACCESS セクションの [PATCH] を繰り返し押し、PATCH 画面の IN NAME ページを呼び出します。



画面左から右に向かってチャンネルごとの ID、省略表記、フルネームが表示されます。画面中央のパラメーターボックス(①)では省略表記、右側のパラメーターボックス(②)ではフルネームを変更できます。

2. いずれかのパラメーターボックスにカーソルを合わせ、パラメーターホイールまたは [INC] / [DEC] を使って名前を変更したい端子を選択します。

3. [ENTER] を押します。

名前を入力する TITLE EDIT ポップアップウィンドウが表示されます。



4. 名前を入力し、OK ボタンにカーソルを合わせて [ENTER] を押します。

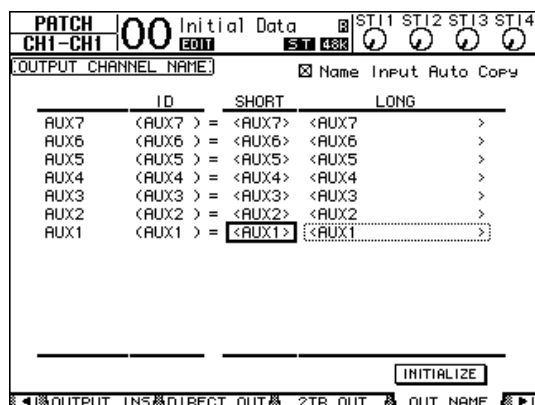
新しい名前が有効になります。

ヒント: 変更した名前は、インプットパッチライブラリーに保存されます。

なお、画面右上の Name Input Auto Copy チェックボックス(③)をオンにすると、LONG パラメーターボックスに名前を入力したときに、その先頭の 4 文字が自動的に SHORT 側にコピーされます。逆に SHORT パラメーターボックスに名前を入力したときは、入力された文字が LONG 側の先頭位置にコピーされます。また、INITIALIZE ボタンにカーソルを合わせて [ENTER] を押すと、各端子の名前を初期状態に戻せます。

アウトプットチャンネルの名前を変更する

アウトプットチャンネルに付けられている名前を変更するには、DISPLAY ACCESS セクションの [PATCH] を繰り返し押し、PATCH 画面の OUT NAME ページを呼び出します。

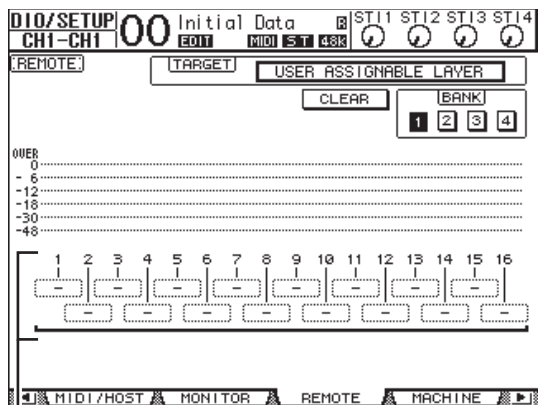


名前の変更方法や Name Input Auto Copy チェックボックス / INITIALIZE ボタンの動作は、IN NAME ページと同じです。

チャンネルを組み合わせてレイヤーを作る(ユーザーアサインブルレイヤー)

リモートレイヤーのターゲットを“USER ASSIGNABLE”に変更すると、ステレオアウトを除く 01V96i 内部のチャンネルを自由に組み合わせてユーザー独自のレイヤーを作成できます。これをユーザーアサインブルレイヤーと呼びます。

1. DISPLAY ACCESS セクションの [DIO/SETUP] を繰り返し押して、DIO/SETUP 画面の REMOTE ページを表示させます。
2. TARGET パラメーターボックスの値を “USER ASSIGNABLE” に切り替え、[ENTER] を押します。
ターゲットの変更を確認するポップアップウィンドウが表示されます。
3. YES ボタンにカーソルを合わせ、[ENTER] を押します。
画面が次のように変わります。



①

4. 1 ~ 16 のパラメーターボックス(①)を使って、割り当てるチャンネルを選択します。
BANK フィールドのボタンを使ってバンク 1 ~ 4 を切り替えれば、16 チャンネル分の設定を 4 つまで記憶できます。また、割り当てるチャンネルを選ぶ前に [ENTER] を押すと、USER CH SELECT ウィンドウで割り当てるチャンネルを選ぶこともできます。

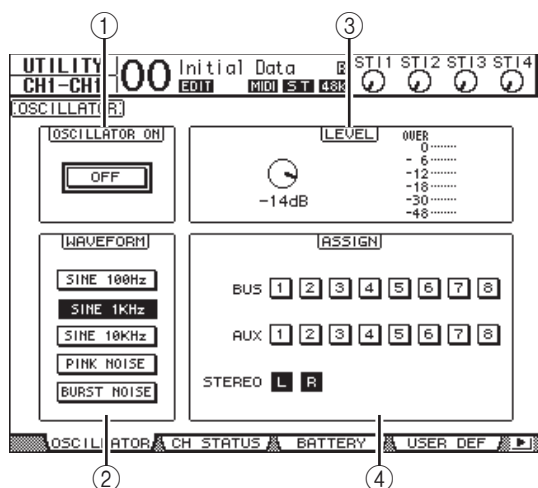
ヒント: CLEAR ボタンにカーソルを合わせて [ENTER] キーを押すと、そのバンクを初期設定の状態に戻せます。

5. LAYER セクションの [REMOTE] を使ってユーザーアサインブルレイヤーを割り当てたリモートレイヤーを呼び出します。
フェーダー、[ON] キーを使って、手順 4 で割り当てたチャンネルを操作できます。

オシレーターを使う

01V96iにはサウンドチェック用のオシレーターが内蔵されています。オシレーターの利用方法は次のとおりです。

1. DISPLAY ACCESS セクションの [UTILITY] を繰り返し押し、UTILITY 画面の OSCILLATOR ページを表示させます。



各項目の内容は次のとおりです。

- ① **OSCILLATOR フィールド**
オシレーターのオン/オフを切り替えます。
 - ② **WAVEFORM フィールド**
オシレーターの波形を選択します。
 - ③ **LEVEL フィールド**
オシレーターの信号レベルを設定します。
 - ④ **ASSIGN フィールド**
オシレーターの送り先を選択します。
2. **ASSIGN フィールドでオシレーターの送り先となるチャンネルのボタンにカーソルを合わせ、[ENTER]を押します(複数選択可)。**
 3. **WAVEFORM フィールドの中から利用したい波形に相当するボタンを選択し、[ENTER]を押します。**
各ボタンに対応する波形は次のとおりです。
 - SINE 100Hz..... 100Hz のサイン波
 - SINE 1kHz..... 1kHz のサイン波
 - SINE 10kHz..... 10kHz のサイン波
 - PINK NOISE..... ピンクノイズ
 - BURST NOISE..... バーストノイズ (4 秒間隔で再生される 200 ミリ秒のピンクノイズ)

4. **LEVEL フィールドのノブにカーソルを合わせ、パラメーターホイールを使ってオシレーターの信号レベルを絞りきります。**

ノート: サイン波やピンクノイズは、聴感上より実際の音圧が高い信号です。大音量で再生するとスピーカーなどの再生装置に悪影響を与える場合がありますので、オシレーターを利用するときは必ず信号レベルを絞りきった状態から徐々にレベルを上げてください。

5. **OSCILLATOR フィールドの ON/OFF ボタンにカーソルを合わせ、[ENTER]または [INC]/[DEC]を押してボタンをオンにします。**

この状態で、ASSIGN フィールドで選択したチャンネルにオシレーターの信号が送られます。

6. **LEVEL フィールドのノブにカーソルを合わせ、パラメーターホイールを使ってオシレーターの信号レベルを上げます。**

現在の信号レベルは LEVEL フィールドのメーターで確認できます。

ユーザー定義キーを使う

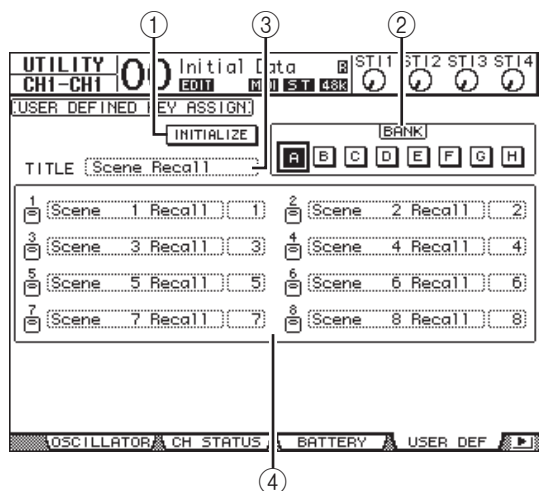
USER DEFINED KEYS セクションにある[1]～[8]は、自由に機能を選択できるユーザー定義キーです。

それぞれのキーには、160種類以上の機能の中から任意の機能を割り当てることができます。たとえば、通常は画面内でなければできない操作を割り当てておけば、ショートカットキーとして利用できます。

各キーに割り当てられた機能は、8つのキーをまとめた“バンク”単位で本体内に記憶されます。01V96iでは8つのバンク(バンクA～H)が利用できます。バンクを切り替えれば、瞬時にキーの割り当てを変更できます。

ユーザー定義キーの設定方法は次のとおりです。

1. DISPLAY ACCESS セクションの [UTILITY] キーを繰り返し押し、UTILITY 画面の USER DEF ページを表示させます。



各項目の内容は次のとおりです。

- ① **INITIALIZE ボタン**
すべてのバンクの内容を初期状態に戻します。
- ② **BANK フィールド**
A～H ボタンを使って利用したいバンクを選択します。
- ③ **TITLE フィールド**
BANK フィールドで選択したバンクの名前を表示します。このフィールドにカーソルを合わせて [ENTER] を押し、名前を入力する TITLE EDIT ポップアップウィンドウが表示されます。
- ④ **1～8 キーフィールド**
USER DEFINED KEYS セクションの [1]～[8] キーに機能を割り当てます。

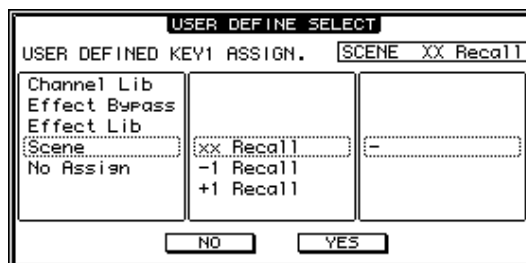
2. **BANK フィールド内の利用したいバンクにカーソルを合わせて [ENTER] キーを押します。**

該当するバンクが選択され、そのバンクで各キーに割り当てられている機能が 1～8 キーフィールドに表示されます。

ヒント: シーン/ライブラリーのリコール操作や MIDI メッセージの送信など、番号を指定して実行するタイプの機能が割り当てられているキーは、番号を指定するためのパラメーターボックスが右側に表示されます。

3. **1～8 キーフィールドの中から機能を割り当てたいキーのパラメーターボックスにカーソルを合わせ、[ENTER] を押します。**

選択したキーに機能を割り当てる“USER DEFINE SELECT”ポップアップウィンドウが表示されます。



4. **左側のリストにカーソルを合わせ、パラメーターホイールまたは [INC] / [DEC] を使って割り当てたい機能を選びます。**

点線の枠で囲まれている機能が現在選択されています。割り当て可能な機能についてはリファレンスマニュアルをご参照ください。

5. **同じ要領で中央 / 右側のリストを設定します。**
ポップアップウィンドウの中央 / 右側に表示される内容は手順 4 で選んだ機能に応じて変化します。

6. **ポップアップウィンドウを閉じるには、YES ボタンにカーソルを合わせて [ENTER] を押します。**

ポップアップウィンドウが閉じると、選択したユーザー定義キーに機能が割り当てられます。なお、CANCEL ボタンにカーソルを合わせて [ENTER] を押した場合は、設定内容が破棄されます。

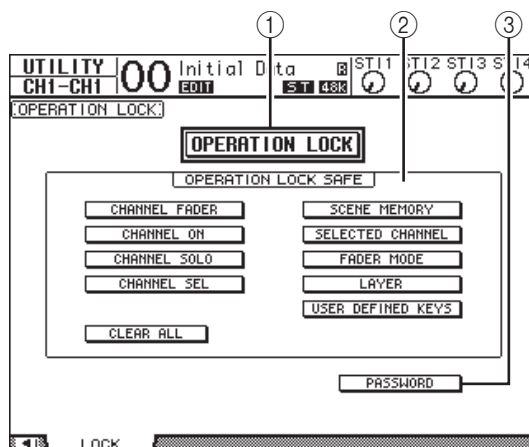
7. **番号を指定する機能(シーン/ライブラリーのリコール操作など)を割り当てた場合は、右側に表示されるパラメーターボックスにカーソルを合わせ、番号を選択します。**

ヒント: 本体の設定内容は、ソフトウェア Studio Manager を使ってコンピューターのハードディスク上に保存できます。重要なデータは、必ずバックアップを取ることを強くおすすめします。Studio Manager は、下記のウェブサイトからダウンロードできます。
<http://proaudio.yamaha.co.jp/>

オペレーションロックを使う

01V96i では、不用意に設定内容を変更されないように、パスワードを設定してパネル操作による変更を制限できます。この機能を“オペレーションロック”と呼びます。

これを行なうには、[UTILITY]を繰り返し押して、UTILITY 画面の LOCK ページを表示させます。



各項目の内容は、次のとおりです。

① OPERATION LOCK ボタン

オペレーションロックの設定 / 解除を行ないます。ボタンをオンにすると、パスワードを入力する PASSWORD ポップアップウィンドウが表示されます。



このポップアップウィンドウでは、チャンネル 1 ~ 10 (10 は 0 として使います) の [SEL] を使って 4 文字のパスワードを入力できます。(ただし、入力内容は * で表示されます)。OK ボタンにカーソルを合わせ、[ENTER] を押すと、オペレーションロックがオンになります。工場出荷時のパスワードは“1234”になっています。

オペレーションロックを解除するには、[ENTER] 押しします。もう一度表示される PASSWORD ポップアップウィンドウに、パスワード入力時と同じ操作を行なえば、解除が実行されます。

ノート: パスワードを忘れると、オペレーションロックが解除できなくなります。設定したパスワードは必ずメモを取るなどしてください。

② OPERATION LOCK SAFE フィールド

オペレーションロックの対象から除外するパネル上の操作子を選択します。CLEAR ALL ボタンにカーソルを合わせて [ENTER] を押し、一括してボタンを解除できます。

③ PASSWORD ボタン

現在設定されているパスワードを変更します。ボタンにカーソルを合わせて [ENTER] を押し、パスワードの設定 / 変更を行なう SET PASSWORD ポップアップウィンドウが表示されます。



PASSWORD フィールドには現在のパスワード、NEW PASSWORD フィールドには新しいパスワードを入力します。工場出荷時のパスワードは“1234”になっています。NEW PASSWORD フィールドの下にある REENTRY フィールドにも、もう一度新しいパスワードを入力します。OK ボタンにカーソルを合わせ、[ENTER] を押しとパスワードが変更されます。

ヒント: CLEAR ボタンにカーソルを合わせて [ENTER] を押しと、入力されているパスワードをすべて消去できます。設定したパスワードを忘れてしまった場合は、01V96i を工場出荷時の状態に戻すことで、パスワードを初期化できます。

工場出荷時の状態に戻す

必要ならば、内部に記録されている設定を消去して、01V96i を工場出荷時の状態に戻したり、オペレーションロックのパスワードを初期状態にリセットできます。その方法は次のとおりです。

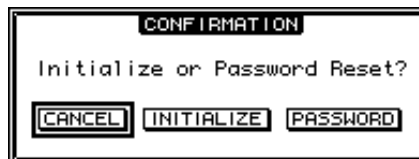
ノート:

- ・ 01V96i を工場出荷時の状態に戻すと、お客様自身が保存したシーンやライブラリーのデータはすべて消去されます。この操作は慎重に行ってください。
- ・ 01V96i 内部に必要なデータがある場合は、ソフトウェア Studio Manager を使って、必ずバックアップを取ってください。

1. 01V96i の電源がオフになっていることを確認します。

2. SCENE MEMORY セクションの [STORE] を押しながら、POWER ON/OFF をオンにします。

しばらくすると、ディスプレイに次のポップアップウィンドウが表示されます。



3. 工場出荷時の状態に戻すには、INITIALIZE ボタンにカーソルを合わせて [ENTER] を押しします。

キャンセルしたいときは CANCEL ボタンにカーソルを合わせて [ENTER] を押しします。

内部データの書き替えが終ると、01V96i が工場出荷時の状態で起動します。

4. オペレーションロックのパスワードを初期状態に戻すには、手順 2 の状態で PASSWORD ボタンにカーソルを合わせて [ENTER] を押しします。

パスワードが“1234”にリセットされます。

手順 2 の画面で何も操作せずにいると、ポップアップウィンドウが自動的に閉じて、01V96i が通常モードで起動します。

困ったときは

電源が入らない、パネルのLEDやLCDディスプレイが点灯しない	<ul style="list-style-type: none"> ○LCDのコントラストやパネルの輝度が適切に設定されていますか？ ○POWERスイッチがオンになっていますか？ ○それでも電源が入らない場合は、巻末に記載されているヤマハ修理ご相談センターにご相談ください。
音が入力されない	<ul style="list-style-type: none"> ○オプションI/Oカードは正しく装着されていますか？ (→ P.18) ○外部機器からの信号は入力されていますか？ ○入力ポートがインプット系チャンネルにパッチされていますか？ (→ P.29) ○GAINが適切なレベルに設定されていますか？ (→ P.32) ○EQのアッテネーターは上がっていますか？ (→ P.35) ○インサートが正しく設定されていないのに、オンになっていませんか？ ○インプット系チャンネルの[ON]キーのインジケータは点灯していますか？ ○インプット系チャンネルのフェーダーは上がっていますか？
音が出ない	<ul style="list-style-type: none"> ○オプションI/Oカードは正しく装着されていますか？ (→ P.18) ○STEREOチャンネルの[ON]キーのインジケータは点灯していますか？ ○アウトプット系チャンネルに出力ポートがパッチされていますか？ (→ P.31)
ヘッドフォンやMONITOR OUT端子から音が出ない	<ul style="list-style-type: none"> ○[PHONES]ノブや[LEVEL]ノブが適当な音量になっていますか？
音が小さい	<ul style="list-style-type: none"> ○GAINが適切なレベルに設定されていますか？ (→ P.32) ○インプット系チャンネルのフェーダーは上がっていますか？ ○EQのゲインを極端に下げた設定になっていませんか？ (→ P.35) ○GATE/COMPのスレッシュホールドやレシオが極端な設定になっていませんか？ (→ P.37) ○EQのアッテネーターは上がっていますか？ (→ P.35) ○アウトプット系チャンネルのフェーダーは上がっていますか？ ○METERファンクションの各画面でレベルを確認してみてください。(→ P.23)
音が歪む	<ul style="list-style-type: none"> ○ワードクロックは正しく設定されていますか？ (→ P.27) ○GAINが適切なレベルに設定されていますか？ (→ P.32) ○インプット系チャンネルのフェーダーが上がりすぎていませんか？ ○STEREOチャンネルのフェーダーが上がりすぎていませんか？ ○EQやCOMPのゲインを極端に上げた設定になっていませんか？ (→ P.35～37)
アウトプット系チャンネルにパッチしていないのに音が出る	<ul style="list-style-type: none"> ○インプット系チャンネルをダイレクトアウトに設定していませんか？ (→ P.33) ○アウトプット系チャンネルにインサートアウトを設定していませんか？
フェーダーを操作しても思うようにレベル調整ができない	<ul style="list-style-type: none"> ○LAYERセクションで選択しているチャンネルは正しいですか？
MONITOR OUTやPHONES端子から特定のチャンネルの音しか聞こえない	<ul style="list-style-type: none"> ○[CUE]キーがオンになっていませんか？
外部に接続したレコーダーなどの機器にノイズが入る	<ul style="list-style-type: none"> ○ワードクロックは正しく設定されていますか？ (→ P.27) ○非同期の信号が入力されていませんか？ ○オシレーターがオンになっていませんか？ (→ P.45)
高域が落ちる	<ul style="list-style-type: none"> ○エンファシスががかかっていませんか？ 入力信号の状態とエンファシス情報が一致しない場合に発生します。 ○EQがかかっていませんか？ (→ P.35)
入力信号が入っているが、モニター出力がない	<ul style="list-style-type: none"> ○DIMMERがかかっていませんか？ ○モニターしたい信号のルーティングは適切ですか？
特にEQブーストをかけたときなど、ヘッドルームにゆとりがない	<ul style="list-style-type: none"> ○EQのアッテネーター機能を使用して、レベルを抑えてください。(→ P.35)
信号に遅延がある	<ul style="list-style-type: none"> ○各チャンネルのディレイが正しく設定されているかどうか確認してください。
シーンメモリーや各種ライブラリーデータが保存できない	<ul style="list-style-type: none"> ○読み込み専用のシーン/ライブラリーやプロテクトがかかったシーンに保存しようとしていませんか？ (→ P.42)

MIDI データの送受信ができない	<ul style="list-style-type: none">○ MIDI PORT が正しく選択されていますか？○ 送信側と受信側の MODE やチャンネルが正しく選択されていますか？○ プログラムチェンジに対応するイベントが設定されていますか？
シーンをリコールしても、一部のチャンネル / パラメーターが更新されない	<ul style="list-style-type: none">○ そのチャンネル / パラメーターにリコールセーブが設定されていませんか？
シーンをリコールすると、フェーダーが止まるまでに時間がかかる	<ul style="list-style-type: none">○ フェードタイムが設定されていませんか？
特定の周波数の信号レベルが低い	<ul style="list-style-type: none">○ EQ のゲインが極端に下がっていませんか？○ GEQ や EFFECT などを経由すると他の信号より遅れます。これらの信号を信号経路が異なる信号とミックスすると、コムフィルター効果によって特定の周波数のレベルが下がる現象が発生します。
01V96i Editor から 01V96i 本体をコントロールできない	<ul style="list-style-type: none">○ ウェブサイトにある 01V96i Editor インストールガイドをご参照ください。
DAW ソフトウェアから、01V96i が認識されない	<ul style="list-style-type: none">○ Yamaha Steinberg USB Driver をダウンロードしてインストールしてありますか？○ DAW ソフトウェアを起動する前に 01V96i をコンピューターに接続して、本体の電源を入れておいてください。○ DAW ソフトウェアのドライバー設定やデバイス設定を確認してください。
DAW ソフトウェアに信号が録音されない	<ul style="list-style-type: none">○ DAW ソフトウェアの入力ポートは適切ですか？○ Cubase をお使いの場合、VST コネクションの設定は適切ですか？○ 録音したい信号が、USB1 ~ 16 のいずれかにルーティングされていますか？

エラーメッセージ

メッセージ	概要
メモリーのバックアップ関連	
Check Sum Error!	終了時と起動時でチェックサムが合っていません。 電池の残量不足などで、メモリーのバックアップに問題があります。
Low Battery!	バックアップ用の電池が消耗しています。電池を交換してください。
Low Battery ! Replace Battery !	電池が残り少ないので、電池を交換してください。
Low Battery ! Factory Preset ? Replace Battery !	電池が残り少ないので、電池を交換してください。
Battery is Exhausted ! Replace Battery !	電池が残っていません。電池を交換してください。
通信関連	
MIDI port is not selected!	MIDI PORT未設定でバルクダンプをしようとしたときに表示されます。
Port busy. Try again.	MIDIバルクダンプ実行中にPORT busyが発生しました。 もう一度実行しなおしてください。
TX buffer full.Try again.	MIDIバルクダンプ実行中にTX buffer full が発生しました。 もう一度実行しなおしてください。
Work Memory full!	MIDI BULK DUMP用にメモリーを確保できませんでした。
MIDI Framing Error	MIDI ポートから受信したメッセージのフレーミングエラーです。 適切な機器が接続されているか確認してください。
MIDI Overrun Error	MIDI ポートから受信したメッセージのオーバーランエラーです。 適切な機器が接続されているか確認してください。
MIDI Parity Error	MIDI ポートから受信したメッセージのパリティエラーです。 適切な機器が接続されているか確認してください。
MIDI RxBuf. Full	MIDI ポートの受信バッファがあふれました。 原因: 受信データが多すぎる、またはシステムに負荷が長時間かかるような状態。
MIDI TxBuf. Full	MIDI ポートの送信バッファがあふれました。 原因: 送信データが多すぎる、またはシステムに負荷が長時間かかるような状態。
SLOT1 Framing Error	SLOT1のシリアルポートから受信したメッセージのフレーミングエラーです。 MY CARD のシリアルブリッジの設定を確認してください。
SLOT1 Overrun Error	SLOT1のシリアルポートから受信したメッセージのオーバーランエラーです。 MY CARD のシリアルブリッジの設定を確認してください。
SLOT1 Parity Error	SLOT1のシリアルポートから受信したメッセージのパリティエラーです。 MY CARD のシリアルブリッジの設定を確認してください。
SLOT1 RxBuf. Full	SLOT1のシリアルポートの受信バッファがあふれました。 原因: 受信データが多すぎる、またはシステムに負荷が長時間かかるような状態。
SLOT1 TxBuf. Full	SLOT1のシリアルポートの送信バッファがあふれました。 原因: 送信データが多すぎる、またはシステムに負荷が長時間かかるような状態。
USB RxBuf. Full	USB ポートの受信バッファがあふれました。 原因: 受信データが多すぎる、またはシステムに負荷が長時間かかるような状態。
USB TxBuf. Full	USB ポートの送信バッファがあふれました。 原因: 通信しているPCのアプリケーションが不正終了した、など。 ケーブルの抜き差し、アプリの再起動などを行ってください。

メッセージ	概要
DIO 関連	
WRONG WORD CLOCK!	WORD CLOCK が正しくありません。 原因: CLOCK SOURCE に設定した機器が起動していない、01V96iが同期できないCLOCK SOURCE が選択されている、など。
Sync Error!(SLOT)	MY SLOT の入力信号と同期がとれません。 接続された機器のクロックソースを確認してください。
Sync Error!(2TRD)	2TR Digital の入力信号と同期がとれません。 接続された機器のクロックソースを確認してください。
Sync Error!(ADAT IN)	ADAT IN の入力信号と同期がとれません。 接続された機器のクロックソースを確認してください。
メモリーの STORE/RECALL 関連	
Y56K Couldn't Store #xx : SLOT(1).	Y56K/Y96KのScene #xxのStoreができません。 原因: SCENE97以降のSCENEを選択している、など。
Y56K Couldn't Recall #xx : SLOT(1).	Y56K/Y96KのScene #xxのRecallができませんでした。 原因: Y56K/Y96KにあらかじめSCENEがSTOREされていなかった、SCENE97以降のSCENEを選択している、など。
Channel Library #xx Can't Recall!	異なったチャンネルモジュールから作成したチャンネルライブラリーをリコールしたときに出るメッセージです。たとえば、AUX Channel から作ったライブラリーを INPUT Channel にリコールしたときなどに表示されます。
Nothing to Undo!	UNDO BUFFER にデータがないため UNDO できません。 電源起動後、STOREやRECALLを実行する前に、UNDO BUFFER (#U)をリコールしたときに表示されます。
Nothing to Paste.	COPY BUFFERが空です。CHANNEL COPY を実行する前に、CHANNEL PASTE を実行したときに表示されます。
Can't Paste to a Different Channel Type.	チャンネルモジュールが異なっているので PASTE できません。たとえば、INPUT Channel 1 をコピーし、AUX1 にペーストしようとしたときなどに表示されます。
For Effect 1,2 Only.	このエフェクトタイプは、EFFECT 1,2 でしか使用できません。 HQ.PITCH と FREEZE を EFFECT 3,4 に Recall したときに表示されます。
AUX Pair Status Conflicted!	保存されていた CH Library と AUX の PAIR の設定が異なっていたときに表示されます。Library のリコールは実行されましたが、AUX の PAIR の設定は再現されていません。
Surround Mode Conflicted!	Ch libraryとSurround Mode の設定が異なっていたときに表示されます。Library のリコールは実行されましたが、AUX の PAIR の設定は再現されていません。
Output Has No Gate!	GATE LIBRARYをOUTPUT側にRECALLしようとしたときに表示されます。
Stereo In Has No Gate!	GATE LIBRARYをStereo In側にRECALLしようとしたときに表示されます。
Stereo In Has No Comp!	COMP LIBRARYをStereo In側にRECALLしようとしたときに表示されます。
#xx of Scene is Read Only! #xx of Channel Library is Read Only! #xx of Gate Library is Read Only! #xx of Comp Library is Read Only! #xx of EQ Library is Read Only! #xx of Effects Library is Read Only! #xx of Input Patch Library is Read Only! #xx of Output Patch Library is Read Only!	READ ONLY のメモリーに対して STORE や TITLE EDIT などを実行しようとしたときに表示されます。
#xx of Scene is Protected!	プロテクトされたSceneに対して、STORE や TITLE EDIT などを実行しようとしたときに表示されます。

メッセージ	概要
#xx of Scene is Empty! #xx of Channel Library is Empty! #xx of Gate Library is Empty! #xx of Comp Library is Empty! #xx of EQ Library is Empty! #xx of Effects Library is Empty! #xx of Input Patch Library is Empty! #xx of Output Patch Library is Empty!	データが保存されていない番号のScene, LibraryをRecallしようとしたときに表示されます。
パネル操作	
Not assigned.	機能がアサインされていない USER DEFINED KEY を操作したときに表示されます。
This Key doesn't Work on Current Layer.	ターゲットの設定を「ProTools」「Nuendo」「Cubase」「generalDAW」にしているRemote Layerになっているときに機能しないキーを操作したときに表示されます。
Fader calibration data error! Channel xx,yy,...	Channel xx,yy,...のフェーダーキャリブレーションのデータエラーです。 フェーダーキャリブレーションを行なってください。 改善しないようでしたら、サービス拠点にご相談ください。
パッチ関連	
Currently Patched from Direct Out!	DIRECT OUT使用中にDIRECT OUTに設定されている出力ポートのOUTPUT PATCHを変更しようとする则表示されます。
This Routing is Ineffective!	無効なDirect Out Patchが設定されているため、音が出ません。 88.2kHz, 96kHzで動作しているとき、Double Channelの偶数チャンネルに相当する出力ポートにパッチされたDIRECT OUTをONにしたときに表示されます。

リファレンスマニュアルの目次

このリファレンスマニュアルの使い方	1	EQ リンク / コンプレッサーリンクを利用する	62																																																																																																																																																																																																																								
取扱説明書 (冊子) の目次	3	内蔵エフェクト	64																																																																																																																																																																																																																								
機能ツリー図	4	内蔵エフェクトについて	64																																																																																																																																																																																																																								
各部の名称	6	内蔵エフェクトを AUX センド経由で利用する	64																																																																																																																																																																																																																								
トップパネル	6	内蔵エフェクトを特定のチャンネルに挿入する	65																																																																																																																																																																																																																								
リアパネル	10	内蔵エフェクトをエディットする	66																																																																																																																																																																																																																								
アナログ / デジタル入出力	12	Add-On Effects	67																																																																																																																																																																																																																								
アナログ入出力の仕様	12	プラグインエフェクトについて	67	デジタル入出力の仕様	13	シーンメモリー	68	I/O カードからの入力信号のサンプリングレートを変換する	14	シーンメモリーについて	68	デジタル入力信号の情報をモニターする	14	シーンに含まれるパラメーター	68	デジタル出力信号のディザ処理	15	シーンナンバーについて	68	ハイサンプリングレートの設定	16	シーンのストア / リコール操作	69	インプットチャンネル	17	シーンのオートアップデート機能について	70	インプットチャンネルについて	17	フェードタイムを設定する	71	画面内の操作でインプットチャンネルを設定する	18	リコールセーフ機能を使う	72	パネル上の操作子でインプットチャンネルを設定する	25	シーンを並べ替える	72	2 つのインプットチャンネルをペアにする	26	シーンのコピー & ペースト (グローバルペースト)	73	インプットチャンネルの名前を変更する	28	ライブラリー	74	バスアウト	29	ライブラリーについて	74	ステレオアウトについて	29	ライブラリーの基本操作	74	バスアウト 1 ~ 8 について	29	各種ライブラリーを使う	75	画面内の操作でステレオアウト / バスアウト 1 ~ 8 を設定する	30	リモート機能	83	パネル上の操作子でステレオアウト / バスアウト 1 ~ 8 を設定する	33	リモート機能について	83	2 つのバス / AUX センドをペアにする	33	リモートレイヤーで Pro Tools を操作する	83	出力端子からの信号を減衰させる	34	リモートレイヤーで Nuendo/Cubase を操作する	93	バスの名前を変更する	35	リモートレイヤーでその他の DAW を操作する	94	AUX アウト	36	リモートレイヤーで MIDI 機器を操作する (MIDI リモート)	94	AUX アウト 1 ~ 8 について	36	マシンコントロール機能	98	画面内の操作で AUX アウト 1 ~ 8 を設定する	36	MIDI	100	パネル上の操作子で AUX アウト 1 ~ 8 を設定する	38	01V96i の MIDI について	100	AUX センドレベルを調節する	38	MIDI のセットアップ	101	複数チャンネルの AUX センドの設定を一覧する	40	プログラムチェンジを使ってシーンを切り替える	103	ペアの AUX に送られる信号のパンを設定する	41	コントロールチェンジを使ってパラメーターを操作する	104	チャンネルフェーダーの設定値を AUX センドにコピーする	42	パラメーターチェンジを使ってパラメーターを操作する	106	インプットパッチ / アウトプットパッチ	43	内部設定を MIDI 経由で出力する (バルクダンプ機能)	107	インプットパッチの設定	43	その他の機能	109	アウトプットパッチの設定	44	01V96i のプリファレンスを変更する	109	ダイレクトアウトの設定	46	チャンネルを組み合わせてレイヤーを作る (ユーザーアサインレイヤー)	110	インサートパッチの設定	47	2 台の 01V96i をカスケード接続する	111	モニター	49	バッテリーの残量やシステムのバージョンを確認する	113	モニターについて	49	フェーダーのキャリブレーションを行なう	113	モニター / ソノの各種設定	49	索引	115	モニターを利用する	50	付録 : パラメーターリスト	121	ソノ機能を利用する	51	[USER DEFINED KEYS]	121	サラウンドパン	52	[USER DEFINED KEYS] 初期アサイン	123	サラウンドパンについて	52	インプットパッチパラメーター	123	サラウンドモードのセットアップと接続	53	インプットパッチ初期設定	125	サラウンドパンを操作する	56	アウトプットパッチパラメーター	127	グループ / リンク	59	アウトプットパッチ初期設定	129	グループ / リンクについて	59	User Defined Remote Layer レイヤー初期バンク設定	130	フェーダーグループ / ミュートグループを利用する	59	エフェクトパラメーター	134	フェーダーグループマスターを利用する	61	エフェクトとテンポの同期	148	ミュートグループマスターを利用する	62	プリセット EQ パラメーター	149			プリセット GATE パラメーター (fs=44.1 kHz)	150			プリセットコンプレッサーパラメーター (fs=44.1 kHz)	151			ダイナミクスパラメーター	153			付録 : MIDI	158			プログラムチェンジ初期シーンメモリーアサイン表	158			コントロールチェンジ初期パラメーターアサイン表	159			MIDI データフォーマット	175			MIDI Implementation Chart	巻末
デジタル入出力の仕様	13	シーンメモリー	68																																																																																																																																																																																																																								
I/O カードからの入力信号のサンプリングレートを変換する	14	シーンメモリーについて	68																																																																																																																																																																																																																								
デジタル入力信号の情報をモニターする	14	シーンに含まれるパラメーター	68																																																																																																																																																																																																																								
デジタル出力信号のディザ処理	15	シーンナンバーについて	68																																																																																																																																																																																																																								
ハイサンプリングレートの設定	16	シーンのストア / リコール操作	69																																																																																																																																																																																																																								
インプットチャンネル	17	シーンのオートアップデート機能について	70																																																																																																																																																																																																																								
インプットチャンネルについて	17	フェードタイムを設定する	71																																																																																																																																																																																																																								
画面内の操作でインプットチャンネルを設定する	18	リコールセーフ機能を使う	72																																																																																																																																																																																																																								
パネル上の操作子でインプットチャンネルを設定する	25	シーンを並べ替える	72																																																																																																																																																																																																																								
2 つのインプットチャンネルをペアにする	26	シーンのコピー & ペースト (グローバルペースト)	73																																																																																																																																																																																																																								
インプットチャンネルの名前を変更する	28	ライブラリー	74																																																																																																																																																																																																																								
バスアウト	29	ライブラリーについて	74																																																																																																																																																																																																																								
ステレオアウトについて	29	ライブラリーの基本操作	74																																																																																																																																																																																																																								
バスアウト 1 ~ 8 について	29	各種ライブラリーを使う	75																																																																																																																																																																																																																								
画面内の操作でステレオアウト / バスアウト 1 ~ 8 を設定する	30	リモート機能	83																																																																																																																																																																																																																								
パネル上の操作子でステレオアウト / バスアウト 1 ~ 8 を設定する	33	リモート機能について	83																																																																																																																																																																																																																								
2 つのバス / AUX センドをペアにする	33	リモートレイヤーで Pro Tools を操作する	83																																																																																																																																																																																																																								
出力端子からの信号を減衰させる	34	リモートレイヤーで Nuendo/Cubase を操作する	93																																																																																																																																																																																																																								
バスの名前を変更する	35	リモートレイヤーでその他の DAW を操作する	94																																																																																																																																																																																																																								
AUX アウト	36	リモートレイヤーで MIDI 機器を操作する (MIDI リモート)	94																																																																																																																																																																																																																								
AUX アウト 1 ~ 8 について	36	マシンコントロール機能	98																																																																																																																																																																																																																								
画面内の操作で AUX アウト 1 ~ 8 を設定する	36	MIDI	100																																																																																																																																																																																																																								
パネル上の操作子で AUX アウト 1 ~ 8 を設定する	38	01V96i の MIDI について	100																																																																																																																																																																																																																								
AUX センドレベルを調節する	38	MIDI のセットアップ	101																																																																																																																																																																																																																								
複数チャンネルの AUX センドの設定を一覧する	40	プログラムチェンジを使ってシーンを切り替える	103																																																																																																																																																																																																																								
ペアの AUX に送られる信号のパンを設定する	41	コントロールチェンジを使ってパラメーターを操作する	104																																																																																																																																																																																																																								
チャンネルフェーダーの設定値を AUX センドにコピーする	42	パラメーターチェンジを使ってパラメーターを操作する	106																																																																																																																																																																																																																								
インプットパッチ / アウトプットパッチ	43	内部設定を MIDI 経由で出力する (バルクダンプ機能)	107																																																																																																																																																																																																																								
インプットパッチの設定	43	その他の機能	109																																																																																																																																																																																																																								
アウトプットパッチの設定	44	01V96i のプリファレンスを変更する	109																																																																																																																																																																																																																								
ダイレクトアウトの設定	46	チャンネルを組み合わせてレイヤーを作る (ユーザーアサインレイヤー)	110																																																																																																																																																																																																																								
インサートパッチの設定	47	2 台の 01V96i をカスケード接続する	111																																																																																																																																																																																																																								
モニター	49	バッテリーの残量やシステムのバージョンを確認する	113																																																																																																																																																																																																																								
モニターについて	49	フェーダーのキャリブレーションを行なう	113																																																																																																																																																																																																																								
モニター / ソノの各種設定	49	索引	115																																																																																																																																																																																																																								
モニターを利用する	50	付録 : パラメーターリスト	121																																																																																																																																																																																																																								
ソノ機能を利用する	51	[USER DEFINED KEYS]	121																																																																																																																																																																																																																								
サラウンドパン	52	[USER DEFINED KEYS] 初期アサイン	123																																																																																																																																																																																																																								
サラウンドパンについて	52	インプットパッチパラメーター	123																																																																																																																																																																																																																								
サラウンドモードのセットアップと接続	53	インプットパッチ初期設定	125																																																																																																																																																																																																																								
サラウンドパンを操作する	56	アウトプットパッチパラメーター	127																																																																																																																																																																																																																								
グループ / リンク	59	アウトプットパッチ初期設定	129																																																																																																																																																																																																																								
グループ / リンクについて	59	User Defined Remote Layer レイヤー初期バンク設定	130																																																																																																																																																																																																																								
フェーダーグループ / ミュートグループを利用する	59	エフェクトパラメーター	134																																																																																																																																																																																																																								
フェーダーグループマスターを利用する	61	エフェクトとテンポの同期	148																																																																																																																																																																																																																								
ミュートグループマスターを利用する	62	プリセット EQ パラメーター	149																																																																																																																																																																																																																								
		プリセット GATE パラメーター (fs=44.1 kHz)	150																																																																																																																																																																																																																								
		プリセットコンプレッサーパラメーター (fs=44.1 kHz)	151																																																																																																																																																																																																																								
		ダイナミクスパラメーター	153																																																																																																																																																																																																																								
		付録 : MIDI	158																																																																																																																																																																																																																								
		プログラムチェンジ初期シーンメモリーアサイン表	158																																																																																																																																																																																																																								
		コントロールチェンジ初期パラメーターアサイン表	159																																																																																																																																																																																																																								
		MIDI データフォーマット	175																																																																																																																																																																																																																								
		MIDI Implementation Chart	巻末																																																																																																																																																																																																																								

仕様

一般仕様

シーンメモリー数		99
サンプリング周波数	内部クロック	44.1 kHz, 48 kHz, 88.2 kHz, 96 kHz
	外部クロック	USB audio Normal Rate 44.1 kHz ±0.1% 48 kHz ±0.1% Double Rate 88.2 kHz ±0.1% 96 kHz ±0.1%
		The others Normal rate: 44.1 kHz-10% to 48 kHz+6% Double rate: 88.2 kHz-10% to 96 kHz+6%
シグナルディレイ	fs=48 kHz	Less than 1.6 ms CH INPUT to STEREO OUT
	fs=96 kHz	Less than 0.8 ms CH INPUT to STEREO OUT
フェーダー		100 mm motorized × 17
フェーダー解像度		+10 ~ -138, -∞ dB input faders
		0 ~ -138, -∞ dB master faders, stereo fader
全高調波歪率*1 (CH INPUT to STEREO OUT) (Input Gain=Min.)	fs=48 kHz	Less than 0.05% 20 Hz ~ 20 kHz @ +14 dB into 600 Ω Less than 0.01% 1 kHz @ +24 dB into 600 Ω
	fs=96 kHz	Less than 0.05% 20 Hz ~ 40 kHz @ +14 dB into 600 Ω Less than 0.01% 1 kHz @ +24 dB into 600 Ω
周波数範囲 (CH INPUT to STEREO OUT)	fs=48 kHz	20 Hz~20 kHz, 0.5, -1.5 dB @ +4 dB into 600 Ω
	fs=96 kHz	20 Hz~40 kHz, 0.5, -1.5 dB @ +4 dB into 600 Ω
ダイナミックレンジ (maximum level to noise level)		110 dB typ. DA Converter (STEREO OUT)
		105 dB typ. AD+DA (to STEREO OUT) @ fs=48 kHz
		105 dB typ. AD+DA (to STEREO OUT) @ fs=96 kHz
ハム&ノイズ*2 (20 Hz~20 kHz) Rs=150 Ω		-128 dB Equivalent Input Noise
		-86 dB residual output noise. STEREO OUT (STEREO OUT off)
	Input Gain=Max. Input Pad =0 dB	-86 dB (90 dB S/N) STEREO OUT (STEREO fader at nominal level and all CH INPUT faders at minimum level)
	Input Pad =0 dB Input Sensitivity =-60 dB	-64 dB (68 dB S/N) STEREO OUT (STEREO fader at nominal level and one CH INPUT fader at nominal level)
最大電圧ゲイン		74 dB CH INPUT (CH1~12) to STEREO OUT/OMNI (BUS) OUT
		40 dB CH INPUT (CH13~16) to STEREO OUT
		74 dB CH INPUT (CH1~12) to OMNI (AUX) OUT (via pre input fader)
		74 dB CH INPUT (CH1~12) to MONITOR OUT (via STEREO BUS)
クロストーク (@ 1 kHz) Input Gain=Min.		80 dB adjacent input channels (CH1~12)
		80 dB adjacent input channels (CH13~16)
		80 dB input to output
AD Input (1~12)	Phantom switch	+48 V DC (each 4ch)
	Pad switch	0/20 dB attenuation
	Gain control	44 dB (-60 ~ -16), detented
	Peak indicator	LED (red) turns on when post HA level reaches 3 dB below clipping at digital domain
	Signal indicator	LED (green) turns on when post HA level reaches 20 dB below nominal at digital domain
	AD converter	24-bit linear, 128-times oversampling (fs=44.1, 48 kHz), 64-times oversampling (fs=88.2, 96 kHz)

AD Input (13~16)	Gain control	30 dB (-26 ~ +4), detented	
	Peak indicator	LED (red) turns on when post HA level reaches 3 dB below clipping at digital domain	
	Signal indicator	LED (green) turns on when post HA level reaches 20 dB below nominal at digital domain	
	AD converter	24-bit linear, 128-times oversampling (fs=44.1, 48 kHz), 64-times oversampling (fs=88.2, 96 kHz)	
	Input selector	CH15/16/2TR IN for CH15/16	
Digital Input (2TR IN DIGITAL, ADAT input)			
Option Input (SLOT)	Available cards	Optional digital interface cards (MY16, MY8, MY4 series)	
Input Channel CH1~32	Input patch	—	
	Phase	Normal/reverse	
	Gate-type ^{*3}	On/off	Key in: 12 ch Group (1~12, 13~24, 25~32)/AUX1~8
		On/off	
	Comp-type ^{*4}	On/off	Key in: self /Stereo Link
		Pre EQ/pre fader/post fader	
	Attenuator	-96.0 ~ +12.0 dB (0.1 dB step)	
	EQ	4-band PEQ (TYPE1) ^{*5}	
		On/off	
	Delay	0~43400 samples	
	On/off	—	
	Fader	100 mm motorized (INPUT/AUX1~8)	
	Aux send	On/off	AUX1~8; pre fader/post fader
		On/off	
	Solo	On/off	Pre fader/after pan
		Pre fader/after pan	
	Pan	127 positions (Left= 1~63, Center, Right= 1~63)	
	Surround pan	127 × 127 positions [[Left= 1~63, Center, Right= 1~63]], [[Front= 1~63, Center, Rear= 1~63]]	
	LFE level	-∞, -96 dB ~ +10 dB (256 step)	
	Routing	STEREO, BUS1~8, DIRECT OUT	
Direct out	Pre EQ/pre fader/post fader		
Metering	Displayed on LCD		
	Peak hold on/off		
Stereo Input Channel CH1-4	Input patch (L/R)	—	
	Phase (L/R)	Normal/reverse	
	Attenuator (L/R)	-96.0 ~ +12.0 dB (0.1 dB step)	
	Equalizer	4band PEQ (TYPE1) ^{*5}	
		On/off	—
	Fader	100 mm motorized	INPUT/AUX1~8 send
		On/off	
	Aux send	On/off	AUX1~8; pre fader/post fader
		On/off	
	Solo	On/off	Pre fader/after pan
		Pre fader/after pan	
	Pan (L/R)	127 positions (Left= 1~63, Center, Right= 1~63)	
	Surround pan (L/R)	127 × 127 positions [[Left= 1~63, Center, Right= 1~63] x [Front= 1~63, Center, Rear= 1~63]]	
	LFE level (L/R)	-∞, -96 dB ~ +10 dB (256 step)	
	Routing	STEREO, BUS1~8, DIRECT OUT	
Metering	Displayed on LCD		
	Peak hold on/off		

OSCILLATOR	Level	0 ~ -96 dB (1 dB step)
	On/off	—
	Waveform	Sine 100 Hz, sine 1 kHz, sine 10 kHz, pink noise, burst noise
	Routing	BUS1~8, AUX1~8, STEREO L/R
STEREO OUT	DA converter	24-bit linear, 128-times oversampling (@fs=44.1, 48 kHz), 64-times oversampling (@fs=88.2, 96 kHz)
MONITOR OUT	DA converter	24-bit linear, 128-times oversampling (@fs=44.1, 48 kHz), 64-times oversampling (@fs=88.2, 96 kHz)
OMNI OUT 1~4	Output patch	STEREO, BUS1~8, AUX1~8, DIRECT OUT 1~32, INSERT OUT (CH1~32, BUS1~8, AUX1~8, STEREO), CASCADE OUT (BUS1~8, AUX 1~8, STEREO, SOLO)
	DA converter	24-bit linear, 128-times oversampling (@fs=44.1, 48 kHz), 64-times oversampling (@fs=88.2, 96 kHz)
2TR OUT DIGITAL	Dither	On/off Word length 16, 20, 24-bit
	Output patch	STEREO, BUS1~8, AUX 1~8, DIRECT OUT 1~32, INSERT OUT (CH 1~32, BUS 1~8, AUX 1~8, STEREO), CASCADE OUT (BUS 1~8, AUX 1~8, STEREO, SOLO)
ADAT Output	Dither	On/off Word length 16, 20, 24-bit
	Output patch	STEREO, BUS1~8, AUX 1~8, DIRECT OUT 1~32, INSERT OUT (CH 1~32, BUS 1~8, AUX 1~8, STEREO), CASCADE OUT (BUS 1~8, AUX 1~8, STEREO, SOLO)
Option Output (SLOT)	Available card	Optional digital interface card (MY16, MY8, MY4 series)
	Dither	On/off Word length 16/20/24-bit
	Output patch	STEREO, BUS1~8, AUX 1~8, DIRECT OUT 1~32, INSERT OUT (CH 1~32, BUS 1~8, AUX 1~8, STEREO), CASCADE OUT (BUS 1~8, AUX 1~8, STEREO, SOLO)
STEREO	Comp-type*4	On/off
		Pre EQ/pre fader/post fader
	Attenuator	-96.0 ~ +12.0 dB (0.1 dB step)
	EQ	4-band PEQ*5
		On/off
	On/off	—
	Fader	100 mm motorized
	Balance	127 positions (Left=1~63, Center, Right=1~63)
Delay	0~29100 samples	
Metering	Displayed on LCD	
	Peak hold on/off	
	12-elements x2 LED meters	
BUS1~8	Comp-type*4	On/off
		Pre EQ/pre fader/post fader
	Attenuator	-96.0 ~ +12.0 dB (0.1 dB step)
	EQ	4-band PEQ*5
		On/off
	On/off	—
	Fader	100 mm motorized
	Delay	0~29100 samples
	Bus to stereo	Level (-∞, -130 dB ~ 0 dB)
		On/off
		Pan: 127 positions (Left=1~63, Center, Right=1~63)
Metering	Displayed on LCD	
	Peak hold on/off	

AUX1~8	Comp-type*4	On/off
		Pre EQ/pre fader/post fader
	Attenuator	-96.0 ~ +12.0 dB (0.1 dB step)
	EQ	4-band PEQ*5
		On/off
	On/off	—
	Fader	100 mm motorized
	Delay	0~29100 samples
Metering	Displayed on LCD	
	Peak hold on/off	
INTERNAL EFFECTS (EFFECT 1~4)	Number of effects	4@44.1kHz, 48kHz
		2@88.2kHz, 96kHz
	Bypass	On/off
	In/out	2-in, 2-out
	Effect-in from	AUX1~8/INSERT OUT
Effect-out to	Input patch	
電源仕様	100 V, 50/60 Hz 90 W	
寸法	(H x D x W)	148 x 548 x 436 mm
質量 (同梱品を除く)	14 kg	
動作温度範囲	0~35°C	
保管温度範囲	-20 ~ 60°C	
付属品	AC Cable CD-ROM (リファレンスマニュアル) DVD-ROM (DAW ソフトウェア) 取扱説明書	
別売オプション	mini-YGDAI カード ラックマウントキット:RK1	

*1. @80kHz, 6dB/octave のローパスフィルターで測定

*2. @12.7kHz, 6dB/octave のローパスフィルターで測定 (@20kHz, -∞ dB/octave フィルターに相当)

*3. 59 ページの「Gate パラメーター」をご参照ください。

*4. 59 ページの「Comp パラメーター」をご参照ください。

*5. 59 ページの「EQ パラメーター」をご参照ください。

EQ パラメーター

	LOW/HPF	L-MID	H-MID	HIGH /LPF
Q	0.1~10.0 (41 points) low shelving HPF	0.1~10.0 (41 points)		0.1~10.0 (41 points) high shelving LPF
F	21.2 Hz.20.0 kHz (1/12 oct step)			
G	±18 dB (0.1 dB step) HPF: on/off	±18 dB (0.1 dB step)		±18 dB (0.1 dB step) LPF: on/off

Gateパラメーター

Gate	Threshold	-54 dB ~ 0 dB (0.1 dB step)
	Range	-70 dB ~ 0 dB (1 dB step)
	Attack	0 ms~120 ms (1 ms step)
	Hold	0.02 ms~1.96 s (216 points) @ 48 kHz
		0.02 ms~2.13 s (216 points) @ 44.1 kHz
		0.01 ms~981 ms (216 points) @ 96 kHz
		0.01 ms~1.06 s (216 points) @ 88.2 kHz
	Decay	5 ms~42.3 s (160 points) @ 48 kHz
		6 ms~46.0 s (160 points) @ 44.1 kHz
		3 ms~21.1 s (160 points) @ 96 kHz
		3 ms~23.0 s (160 points) @ 88.2 kHz
	Ducking	Threshold
Range		-70 dB ~ 0 dB (1 dB step)
Attack		0 ms~120 ms (1 ms step)
Hold		0.02 ms~1.96 s (216 points) @ 48 kHz
		0.02 ms~2.13 s (216 points) @ 44.1 kHz
		0.01 ms~981 ms (216 points) @ 96 kHz
		0.01 ms~1.06 s (216 points) @ 88.2 kHz
Decay		5 ms~42.3 s (160 points) @ 48 kHz
		6 ms~46.0 s (160 points) @ 44.1 kHz
		3 ms~21.1 s (160 points) @ 96 kHz
		3 ms~23.0 s (160 points) @ 88.2 kHz

Compパラメーター

Compressor	Threshold	-54 dB ~ 0 dB (0.1 dB step)
	Ratio (x :1)	x=1, 1.1, 1.3, 1.5, 1.7, 2, 2.5, 3, 3.5, 4, 5, 6, 8, 10, 20, ∞ (16 points)
	Out gain	0 dB ~ +18 dB (0.1 dB step)
	Knee	Hard, 1, 2, 3, 4, 5 (6 step)
	Attack	0 ms~120 ms (1 ms step)
	Release	5 ms~42.3 s (160 points) @ 48 kHz
		6 ms~46.0 s (160 points) @ 44.1 kHz
		3 ms~21.1 s (160 points) @ 96 kHz
3 ms~23.0 s (160 points) @ 88.2 kHz		

Expander	Threshold	-54 dB ~ 0 dB (0.1 dB step)
	Ratio (x :1)	x=1, 1.1, 1.3, 1.5, 1.7, 2, 2.5, 3, 3.5, 4, 5, 6, 8, 10, 20, ∞ (16 points)
	Out gain	0 dB ~ +18 dB (0.1 dB step)
	Knee	Hard, 1, 2, 3, 4, 5 (6 points)
	Attack	0 ms~120 ms (1 ms step)
	Release	5 ms~42.3 s (160 points) @ 48 kHz
		6 ms~46.0 s (160 points) @ 44.1 kHz
3 ms~21.1 s (160 points) @ 96 kHz		
3 ms~23.0 s (160 points) @ 88.2 kHz		
Compander H	Threshold	-54 dB ~ 0 dB (0.1 dB step)
	Ratio (x :1)	x=1, 1.1, 1.3, 1.5, 1.7, 2, 2.5, 3, 3.5, 4, 5, 6, 8, 10, 20 (15 points)
	Out gain	-18 dB ~ 0 dB (0.1 dB step)
	Width	1 dB~90 dB (1 dB step)
	Attack	0 ms~120 ms (1 ms step)
	Release	5 ms~42.3 s (160 points) @ 48 kHz
		6 ms~46.0 s (160 points) @ 44.1 kHz
3 ms~21.1 s (160 points) @ 96 kHz		
3 ms~23.0 s (160 points) @ 88.2 kHz		
Compander S	Threshold	-54 dB ~ 0 dB (0.1 dB step)
	Ratio (x :1)	x=1, 1.1, 1.3, 1.5, 1.7, 2, 2.5, 3, 3.5, 4, 5, 6, 8, 10, 20 (15 points)
	Out gain	-18 dB ~ 0 dB (0.1 dB step)
	Width	1 dB~90 dB (1 dB step)
	Attack	0 ms~120 ms (1 ms step)
	Release	5 ms~42.3 s (160 points) @ 48 kHz
		6 ms~46.0 s (160 points) @ 44.1 kHz
3 ms~21.1 s (160 points) @ 96 kHz		
3 ms~23.0 s (160 points) @ 88.2 kHz		

ライブラリー

Effect library	Presets	56
	User memories	72
Compressor library	Presets	36
	User memories	92
Gate library	Presets	4
	User memories	124
EQ library	Presets	40
	User memories	160
Channel library	Presets	2
	User memories	127
Input patch library	Presets	1
	User memories	32
Output patch library	Presets	1
	User memories	32

アナログ入力仕様

Input	PAD	GAIN	Actual Load Impedance	For Use With Nominal	Input level			Connector
					Sensitivity* ¹	Nominal	Max. before clip	
INPUT A/B 1~12	0	-60 dB	3 k Ω	50~600 Ω Mics & 600 Ω Lines	-70 dB (0.245 mV)	-60 dB (0.775 mV)	-40 dB (7.75 mV)	A: XLR-3-31 type (Balanced) ^{*2} B: Phone jack (TRS) (Balanced) ^{*3}
		-16 dB			-6 dB (388 mV)	+4 dB (1.23 V)	+24 dB (12.28 V)	
INPUT 13~16	—	-26 dB	10 k Ω	600 Ω Lines	-36 dB (1.23 mV)	-26 dB (38.8 mV)	-6 dB (388 mV)	Phone jack (TRS) (Balanced) ^{*3}
		+4 dB			-6 dB (388 mV)	+4 dB (1.23 V)	+24 dB (12.28 V)	
CH INSERT IN 1~12	—	—	10 k Ω	600 Ω Lines	-12 dB (195 mV)	-2 dB (616 mV)	+18 dB (6.16 V)	Phone jack (TRS) (Unbalanced) ^{*4}
2TR IN [L, R]	—	—	10 k Ω	600 Ω Lines	-10 dB (316 mV)	-10 dBV (316 mV)	+10 dBV (3.16 V)	RCA pin jack (Unbalanced)

*1. 入力感度：すべてのフェーダーとレベルコントロールを最大位置にしたときに、+4 dBu(1.23 V) またはノミナル出力が得られる最小入力レベル

*2. バランス型 XLR-3-31 端子 (1=GND, 2=HOT, 3=COLD)

*3. バランス型フォーン端子 (Tip=HOT, Ring=COLD, Sleeve=GND)

*4. アンバランス型フォーン端子 (Tip=OUTPUT, Ring=INPUT, Sleeve=GND)

0dB=0.775 Vrms

2TR IN: 0dBV=1.00 Vrms

すべての AD コンバーターは、24 ビットリニア、128 倍オーバーサンプリング

CH INPUT (1-12) の XLR タイプ INPUT 端子にファンタム電源 (+48V DC) 供給。

CH1-4、5-8、9-12 の 3 つのスイッチで、それぞれインプット 1-4、5-8、9-12 のファンタム電源をオン / オフ切り替え。

アナログ出力仕様

Output	Actual Source Impedance	For Use With Nominal	Output level		Connector
			Nominal	Max. before clip	
STEREO OUT [L, R]	75 Ω	600 Ω Lines	+4 dB (1.23 V)	+24 dB (12.28 V)	XLR-3-32 type (Balanced) ^{*1}
OMNI OUT 1~4	150 Ω	10 k Ω Lines	+4 dB (1.23 V)	+24 dB (12.28 V)	Phone jack (TRS) (Balanced) ^{*2}
MONITOR OUT [L, R]	150 Ω	10 k Ω Lines	+4 dB (1.23 V)	+24 dB (12.28 V)	Phone jack (TRS) (Balanced) ^{*2}
CH INSERT OUT 1~12	600 Ω	10 k Ω Lines	-2 dB (616 mV)	+18 dB (6.16 V)	Phone jack (TRS) (Unbalanced) ^{*3}
2TR OUT [L, R]	600 Ω	10 k Ω Lines	-10 dBV (316 mV)	+10 dBV (3.16 V)	RCA Pin Jack (Unbalanced)
PHONES	100 Ω	8 Ω Phones	4 mW	25 mW	Stereo Phone Jack (TRS) (Unbalanced) ^{*4}
		40 Ω Phones	12 mW	75 mW	

*1. バランス型 XLR-3-32 端子 (1=GND, 2=HOT, 3=COLD).

*2. バランス型フォーン端子 (Tip=HOT, Ring=COLD, Sleeve=GND).

*3. アンバランス型フォーン端子 (Tip=OUTPUT, Ring=INPUT, Sleeve=GND).

*4. アンバランス型ステレオフォーン端子 (Tip=LEFT, Ring=RIGHT, Sleeve=GND).

0 dB=0.775 Vrms

2TR OUT[L,R]: 0dBV=1.00 Vrms

すべての DA コンバーターは、24 ビットリニア、128 倍オーバーサンプリング

デジタル入力仕様

Input	Format	Data length	Level	Connector
2TR IN DIGITAL	IEC 60958	24-bit	0.5 Vpp/75 Ω	RCA pin jack
ADAT IN	ADAT ^{*1}	24-bit	—	OPTICAL

*1. ALESIS のマルチチャンネル オプティカル デジタルインターフェースフォーマットです。

デジタル出力仕様

Output	Format	Data length	Level	Connector
2TR OUT DIGITAL	IEC 60958 ^{*1} Consumer use	24-bit ^{*3}	0.5V pp/75 Ω	RCA pin jack
ADAT OUT	ADAT ^{*2}	24-bit ^{*3}	—	OPTICAL

*1. 2TR OUT DIGITAL のチャンネル設定

Type: linear PCM
 Category code: Digital signal mixer
 Copy prohibit: NO
 Emphasis: NO
 Clock accuracy: Level II (1 000 ppm)
 Sampling rate: 内部設定による

*2. ALESIS のマルチチャンネル オプティカル デジタルインターフェースフォーマットです。

*3. ディザー : word length 16/20/24 bit

I/O SLOT仕様

別売のmini-YGDAIカードを装着できるスロットが1基あります。このスロットはシリアルインターフェースを装備しています。

Maker	Model	Function	Input	Output *1	Format	Resolution	Frequency	The number of Available cards	Note
Yamaha	MY8-AT	Digital I/O	8	8	ADAT	24 bit	44.1/48 kHz	1	
	MY16-AT		16	16					
	MY8-TD		8	8	TASCAM				
	MY16-TD		16	16					
	MY8-AE		8	8	AES/EBU				44.1/48/88.2/96 kHz
	MY8-AEB		16	16					
	MY16-AE								
	MY8-AE96S		8	8	HD-SDI				
	MY8-AE96			—					
	MY8-SDI-D			8	SD/HD-SDI				
	MY8-SDI-ED								
	MY4-AD	Analog In	4	—	Analog In	20 bit	44.1/48 kHz		
	MY8-AD24		8				44.1/48/88.2/96 kHz		
	MY8-AD96		8						
	MY4-DA	Analog Out	—	4	Analog Out	20 bit	44.1/48 kHz		
	MY8-DA96			8					
	MY8-ADDA96	Analog I/O	8	8	Analog In/Out	24 bit	44.1/48/88.2/96 kHz		
	MY16-CII	Network I/O	16	16	CobraNet				
MY16-ES64	EtherSound								
MY16-MD64	MADI								
MY16-mLAN	mLAN Interface	IEEE 1394			44.1/48 kHz				
MY16-EX	—	—			44.1/48/88.2/96 kHz				
Waves	Y96K	Effect Plug-In	8	8	Effect Plug-In	24 bit	44.1/48/88.2/96 kHz		
	WSG-Y16	SoundGrid	16	16	SoundGrid				
Audinate	Dante-MY16-AUD	Dante	16	16	Dante		48/96 kHz		
AVIOM	16/o-Y1	Network Out	—	16	A-Net Pro16	24 bit	44.1/48 kHz		
	6416Y2	Network I/O	16		A-Net Pro64		44.1/48/88.2/96 kHz		
AuviTran	AVY16-ES	Network I/O	16	16	EtherSound	24 bit	44.1/48/88.2/96 kHz		
	AVY16-ES100								
AudioService	MY16MADI64				MADI		44.1/48/88.2/96 kHz		
Media Numerics	RN.341.MY				RockNet		48/96 kHz		
Optocore	YG2				Optocore				
	YS2								

*1. STEREO/BUS/AUX/DIRECT OUT/INSERT OUT/CASCADE OUT(STEREO, BUS 1 ~ 8, AUX 1 ~ 8, SOLO) から選択可能。
詳細は、インターフェースカードの仕様によります。

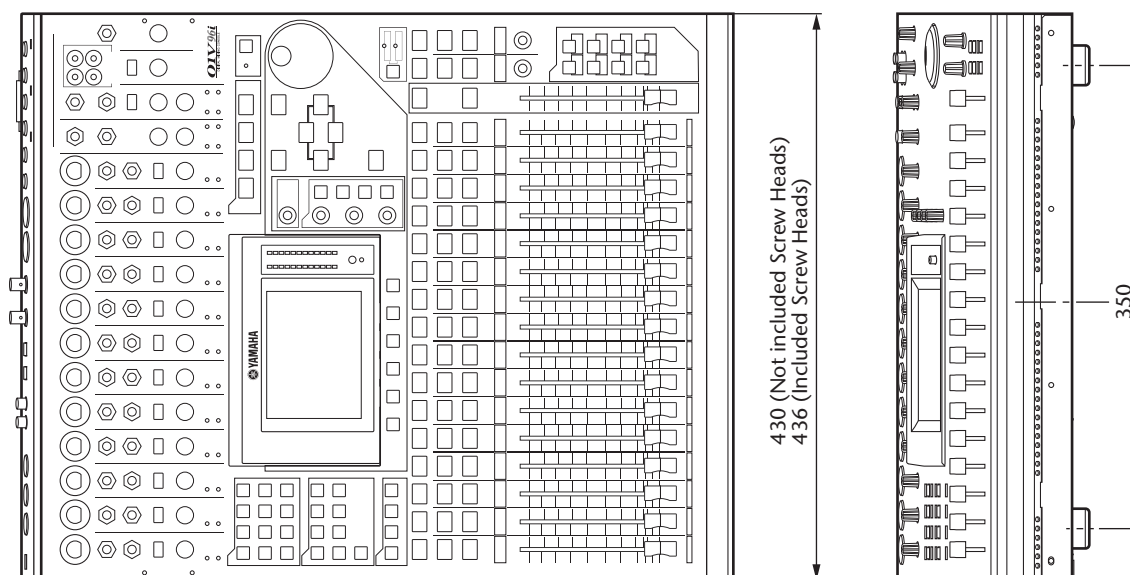
mini-YGDAI カードの最新情報については、ヤマハプロオーディオのウェブサイトをご覧ください。
<http://proaudio.yamaha.co.jp/>

MIDI/USB/WORD CLOCK I/O仕様

I/O Port		Format	Level	Connector in Console
TO HOST USB		USB 2.0	—	B type USB connector Audio: 16 in/16 out MIDI: 5 ports
MIDI	IN*1	MIDI	—	DIN Connector 5P
	OUT	MIDI	—	DIN Connector 5P
	THRU	MIDI	—	DIN Connector 5P
WORD CLOCK	IN	—	TTL/75 Ω	BNC Connector
	OUT	—	TTL/75 Ω	BNC Connector

*1. MIDI INは TIME CODE IN MTC として使えます。

寸法図



単位:mm

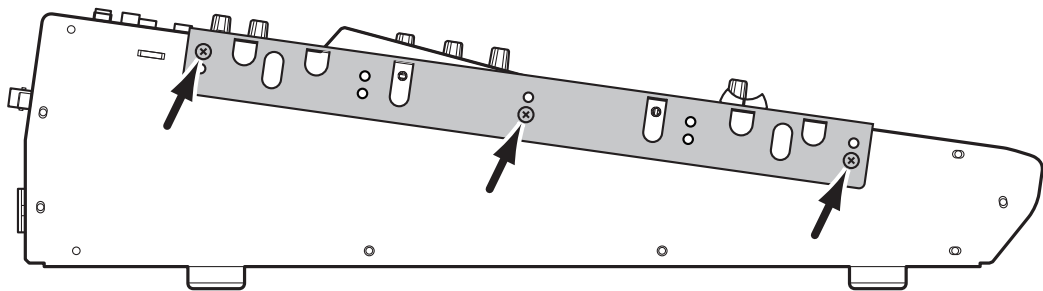
仕様、外観は改良のため予告なく変更することがあります。

別売品について

ラックマウントキットRK1

オプションのラックマウントキットRK1を使って、01V96iをラックにマウントできます。

下図の矢印の箇所をネジ止めして、ラックマウントキットを取り付けます。
(反対側の金具も同様に取り付けます)。



索引

記号

φ/INSERT/DELAY キー 12

数字

01V96i Editor 7

1～8 キー 14

1～8 キーフィールド 46

1～8 ボタン(ルーティング) 34

1-16/17-32 キー 13

2TR IN DIGITAL 端子 17

2TR IN/OUT 端子 11

2TR OUT DIGITAL 端子 17

A

AD15/16 ソース選択スイッチ 10

ADAT IN/OUT 端子 17

ASSIGN フィールド 45

ATT. ノブ 36

AUX 1～AUX 8 キー 12

AUX センド 12

B

BANK フィールド 44, 46

C

CH1-32 ページ 23

CH1-4 ON/OFF スイッチ 16

CH5-8 ON/OFF スイッチ 16

CH9-12 ON/OFF スイッチ 16

CLEAR キー 15

COMP EDIT ページ 37

COMP GR 24

COMP LIB ページ 37

COMP.(H)(コンパンダーハード) 37

COMP.(S)(コンパンダーソフト) 37

COMP(コンプレッサー) 37

D

DAW ソフトウェアに録音する 39

DEC/INC キー 15

DEL ボタン 21

DIO/SETUP キー 12

DISPLAY ACCESS(ディスプレイ
アクセス)セクション 12

DYNAMICS キー 12

D ボタン(ルーティング) 34

E

EDIT インジケーター 19

EFFECT キー 13

EFFECT ページ 24

ENTER キー 15

EQ キー 13

EQ ライブラリー 36

EXPAND(エクスペンダー) 37

F

F(フリーケンシー) 36

F1～F4 キー 13

FADER MODE(フェーダーモード)
セクション 12

FREQUENCY コントロール 14

G

G(EQ Gain) 36

GAIN コントロール 10, 14

GATE GR 24

H

H.SHELF(ハイシェルビング) 36

HIGH-MID キー 14

HIGH キー 14

HOME キー 12

HPF(ハイパスフィルター) 36

I

IN NAME ページ 43

INITIALIZE ボタン 43, 46

INPUT 端子 13～16 10

INPUT 端子 A/B 10

INPUT フィールド 23

INSERT I/O 端子 10

INS ボタン 21

L

L.SHELF(ローシェルビング) 36

LAYER(レイヤー)セクション 13

LEVEL 24

LEVEL フィールド 45

LOCK ページ 47

LONG パラメーターボックス 43

LOW-MID キー 14

LOW キー 14

M

MASTER キー 13

MASTER ページ 23

MIDI IN/THRU/OUT 端子 17

MIDI/USB セクション 17

MIDI インジケーター 19

MIDI キー 12

mini-YGDAL (Yamaha General Digital
Audio Interface)I/O カード 18

MONITOR LEVEL コントロール 11

MONITOR OUT 端子 L/R 16

N

Name Input Auto Copy チェックボックス
..... 43

O

OMNI 16

OMNI OUT 端子 1～4 16

ON キー 11, 12

OPERATION LOCK SAFE フィールド
..... 48

OPERATION LOCK ボタン 47

OSCILLATOR ページ 45

OUTPUT フィールド 23

P

PAD スイッチ 10

PAIR/GROUP キー 12

PAN/ROUTING キー 12

PAN コントロール 14

PASSWORD ボタン 48

PASSWORD ポップアップウィンドウ
..... 47

PATCH キー 12

PEAK HOLD ボタン 24

PEAK インジケーター 10

PHONES LEVEL コントロール 11

PHONES 端子 11

POSITION ページ 23

POST FADER 23

POWER ON/OFF スイッチ 18

PRE EQ 23

PRE FADER 23

Q

Q(キュー) 35

Q コントロール 14

R

RECALL キー 14

REMOTE キー 13

S

SCENE MEMORY(シーンメモリー)
セクション 14

SCENE キー 12

SELECTED CHANNEL(セレクトッド
チャンネル)セクション 14

SEL キー 11, 12

SHIFT LOCK ボタン	21	あ		せ	
SHORT パラメーターボックス	43	アウトプットパッチの設定	31	接続とセットアップ	25
SIGNAL インジケーター	10	アナログアウトプットセクション	16	た	
SLOT(スロット)セクション	18	い		タイトルの入力	21
SOLO インジケーター	15	イコライザー	35	ダイレクト出力	33
SOLO キー	11、12	インプットパッチの設定	31	タブスクロール	13
SOLO セクション	15	え		ち	
SPC ボタン	21	エフェクト	38	チャンネルフェーダー	11
ST IN キー	12	エフェクトライブラリー	38	チャンネルモジュールセクション	11
ST IN セクション	12	お		チャンネルを選択する	22
ST IN ページ	23	オシレーター	45	て	
STEREO OUT 端子 L/R	17	オプションカード	18	データエントリーセクション	15
STEREO(ステレオ)セクション	11	オペレーションロック	47	ディジーチェーン接続	27
STEREO フェーダー	11	か		ディスプレイ	13
STEREO ページ	24	カーソル(◀/▶/▲/▼)キー	15	ディスプレイの見方	19
STORE キー	14	確認のメッセージ	21	デジタルI/O セクション	17
Studio Manager	7	カバー取り付け用	9	と	
S ボタン(ルーティング)	34	画面 / ページを選択する	20	同期	27
T		画面内のユーザーインターフェース	20	同期の状態	28
TITLE EDIT ウィンドウ	21	き		ドライバー	7
TITLE フィールド	46	基本操作	19	に	
TO HOST USB 端子	17	キュー(急峻度)	35	入力信号を割り当てる	29
U		け		入力レベルを設定する	32
USB 2.0 ポート	17	ゲイン(EQ)	36	の	
USB OUT	30	こ		ノブ	20
USER DEFINE SELECT ポップアップ ウィンドウ	46	工場出荷時のパスワード	47	は	
USER DEFINED KEYS(ユーザー定義 キー)セクション	14	コントラスト調節ノブ	13	パッチング	29
USER DEFINED KEYS セクション	46	コンプレッサー	37	パラメーターホイール	15
UTILITY キー	12	さ		パラメーターボックス	20
V		サラウンドモードインジケーター	19	ひ	
VIEW キー	13	サンプリングレートインジケーター	19	ピークレベルを保持	24
W		し		ふ	
WAVEFORM フィールド	45	シーン ▲/▼キー	14	ファームウェアのアップデート	8
WORD CLOCK IN 端子	17	シーンメモリー	42	ファクトリーセット	
WORD CLOCK OUT 端子	17	出力信号を割り当てる	29	(工場出荷時の状態に戻す)	48
Y		ショートカットキー	46	ファンタム+ 48V	16
Yamaha Steinberg USB Driver	7	す		フェーダー	20
		ステレオアウト	17	フェーダーモードを選択する	22
		ステレオメーター	13	プリ EQ	23
		ステレオリンク	33	プリフェーダー	23

ほ

ポストフェーダー	23
ボタン	20

み

ミキシングシステム	25
民生フォーマット(IEC 60958)	17

も

モニターアウト/ヘッドフォンセクション	11
モニターソース選択スイッチ	11
モニターレベル	41

ゆ

ユーザーアサインブルレイヤー	44
ユーザー定義キー	46
ユーティリティソフトウェア	7

る

ルーティングの設定	33
-----------------	----

れ

レイヤーを選択する	21
レコーディングシステム	26
レベルコントロール	12
レベルメーター	23

わ

ワードクロック	27
ワードクロックスレーブ	27
ワードクロックソース	28
ワードクロック分配ボックス	27
ワードクロックマスター	27

メモ

持込修理

保証書

品名	DIGITAL MIXING CONSOLE		
品番	01V96i		
※シリアル番号			
保証期間	本体	お買上げの日から1年間	
※お買上げ日	年 月 日		
お客様	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	ご住所		
	お名前		
	電話	()	様

ご販売店様へ ※印欄は必ずご記入ください。

本書は、本書記載内容で無償修理を行なうことをお約束するものです。お買上げの日から左記期間中に故障が発生した場合は、本書をご提示の上、お買上げの販売店に修理をご依頼ください。ご依頼の際は、購入を証明する書類（レシート、売買契約書、納品書など）をあわせてご提示ください。

(詳細は下項をご覧ください)

販売店	店名	<input type="text"/>	印
	所在地	<input type="text"/>	
	電話	()	

ヤマハ株式会社 PA事業部

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10番1号

無償修理規定

- 保証期間中、正常な使用状態（取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書に従った使用状態）で故障した場合には、無償修理を致します。
- 保証期間内に故障して無償修理をお受けになる場合は、商品と本書をご持参ご提示のうえ、お買上げ販売店にご依頼ください。
- ご贈答品、ご転居後の修理についてお買上げの販売店にご依頼できない場合には、※ヤマハ修理ご相談センターにお問合わせください。
- 保証期間内でも次の場合は有料となります。
 - 本書のご提示がない場合。
 - 本書にお買上げの年月日、お客様、お買上げの販売店の記入がない場合、及び本書の字句を書き替えられた場合。
 - 使用上の誤り、他の機器から受けた障害または不当な修理や改造による故障及び損傷。
 - お買上げ後の移動、輸送、落下などによる故障及び損傷。
 - 火災、地震、風水害、落雷、その他の天災地変、公害、塩害、異常電圧などによる故障及び損傷。
 - お客様のご要望により出張修理を行なう場合の出張料金。

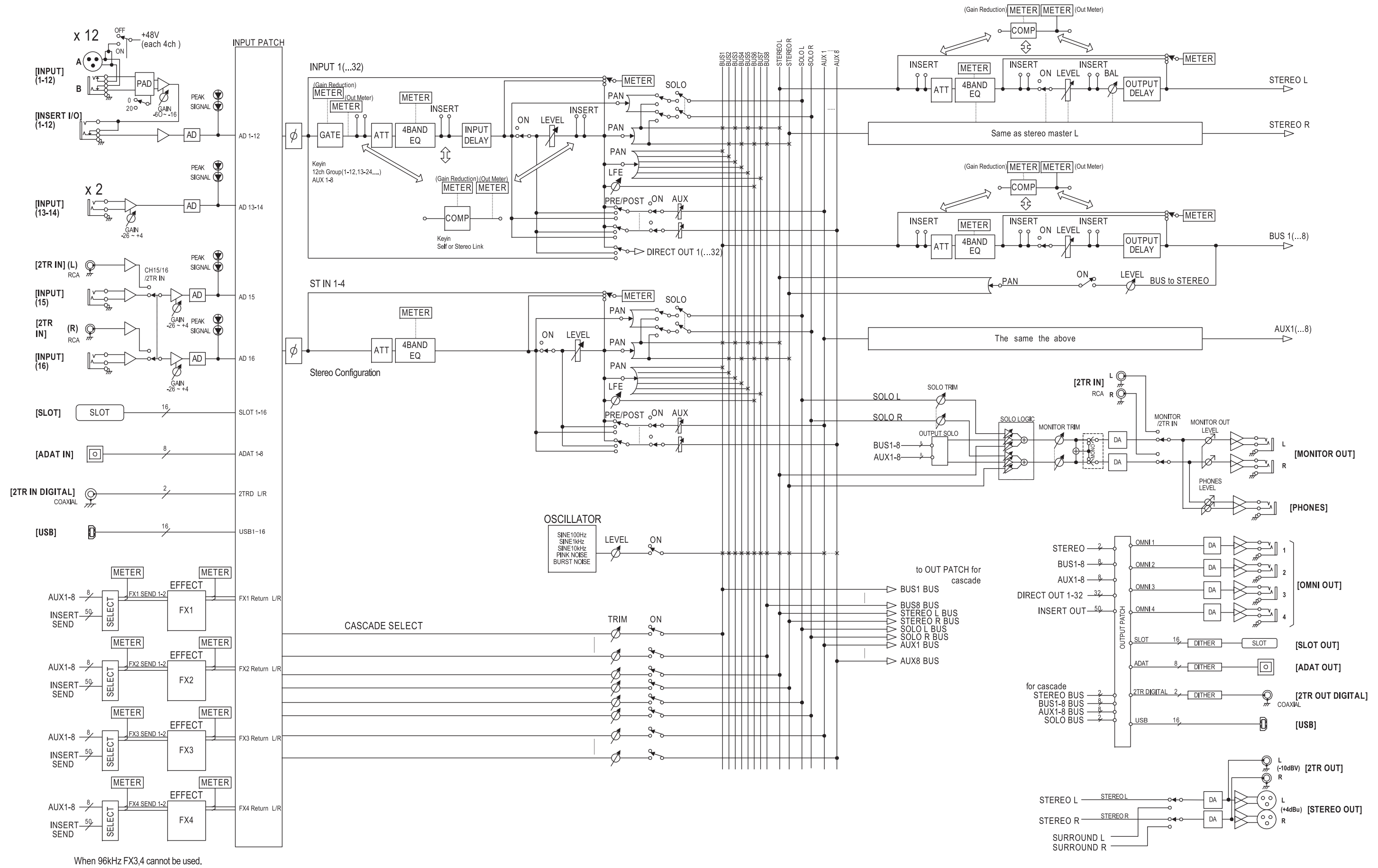
- この保証書は日本国内においてのみ有効です。
This warranty is valid only in Japan.

- この保証書は再発行致しかねますので大切に保管してください。

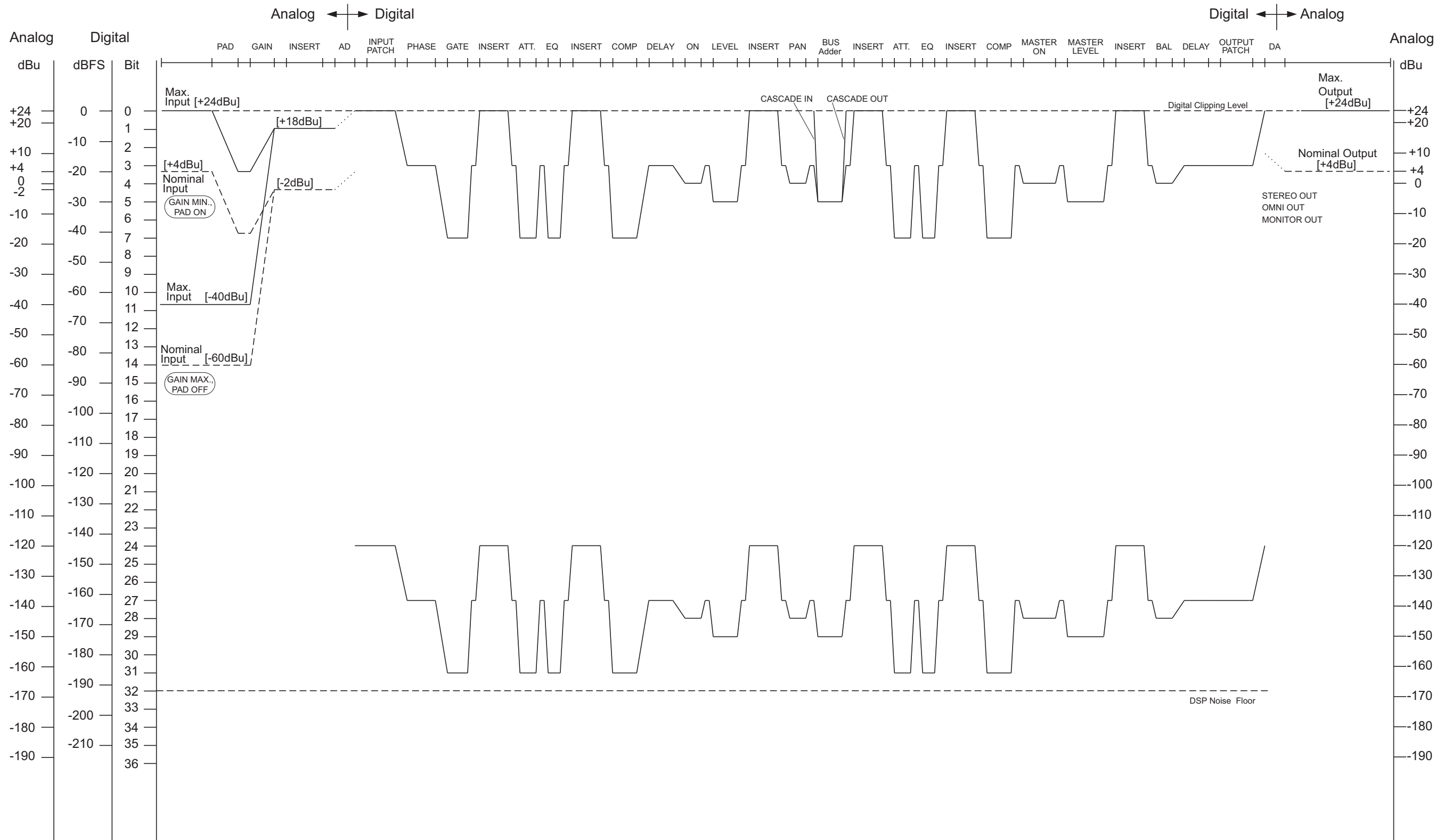
* この保証書は本書に示した期間、条件のもとにおいて無償修理をお約束するものです。したがってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、お買上げの販売店、※ヤマハ修理ご相談センターにお問合わせください。

※ ヤマハ株式会社の連絡窓口その他につきましては、本取扱説明書をご参照ください。

01V96iブロックダイアグラム



01V96iレベルダイアグラム



[0dBu = 0.775Vrms]
 [0dBFS = Full Scale]

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせの必要がございましたら、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターまでご連絡ください。

● 保証書

本書に保証書が掲載されています。販売店印、お買い上げ日などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。

● 保証期間

保証書は当社がお客様に保証期間内の無償サービスをお約束するもので、この製品の保証期間はお買い上げ日から1年間です。詳しくは保証書をご確認ください。

● 保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理させていただきます。お客様に製品を持ち込んでいただくか、サービスマンが出張修理にお伺いするのは、製品ごとに定められています。詳しくは保証書をご確認ください。

● 保証期間経過後の修理

ご要望により有料にて修理させていただきます。下記の部品などについては、使用時間や使用環境などにより劣化しやすいため、消耗に応じて部品の交換が必要となります。消耗部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターまでご連絡ください。

消耗部品の例

フェーダー、ボリューム、スイッチ、接続端子など

● 補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造終了後8年です。

● 営業窓口

PA 事業部 マーケティング部 〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町41-12 日本橋第2ビル 03-5652-3851
CA 国内マーケティンググループ

PA 事業部 マーケティング部 〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1
PA マーケティンググループ

* 名称、住所、電話番号、URL などは変更になる場合があります。

◆ 修理に関するお問い合わせ

ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル  **0570-012-808**

(全国共通番号) ※ 一般電話・公衆電話からは、市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP 電話からは TEL 053-460-4830

受付時間 月曜日～金曜日 9:00～18:00、土曜日 9:00～17:00 (祝日およびセンター指定休日を除く)

FAX 東日本(北海道、東北、関東、甲信越地域) 03-5762-2125

西日本(沖縄、九州、中国、四国、近畿、東海、北陸地域) 06-6465-0374

◆ 修理品お持込み窓口

受付時間 月曜日～金曜日 9:00～17:45 (祝日および弊社休業日を除く)

* お電話は、ヤマハ修理ご相談センターでお受けします。

北海道サービスステーション 〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内 FAX 011-512-6109

首都圏サービスセンター 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1 京浜トラックターミナル内 FAX 03-5762-2125
14号棟A-5F

名古屋サービスセンター 〒454-0832 名古屋市市中川区清船町4丁目1-11 ピアノ運送株式会社 名古屋営業所1F FAX 052-363-5903

大阪サービスセンター 〒554-0024 大阪市此花区島屋6-2-82 ユニバーサル・シティ和幸ビル 9F FAX 06-6465-0374

九州サービスステーション 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4 FAX 092-472-2137

* 名称、住所、電話番号などは変更になる場合があります。

● 修理のご依頼

本書をもう一度お読みいただき、接続や設定などをご確認のうえ、お買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターまでご連絡ください。修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

● 損害に対する責任

この製品(搭載プログラムを含む)のご使用により、お客様に生じた損害(事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失、そのほかの特別損失や逸失利益)については、当社は一切その責任を負わないものとします。また、いかなる場合でも、当社が負担する損害賠償額は、お客様がお支払になったこの商品の代価相当額をもって、その上限とします。

● お客様ご相談窓口

アフターサービス以外で、製品に関するご質問・ご相談は、お客様ご相談窓口までお問い合わせください。

● お客様ご相談窓口：ヤマハプロオーディオ製品に対するお問合せ窓口

ヤマハ・プロオーディオ・インフォメーションセンター

Tel: 03-5791-7678 Fax: 03-5488-6663

(電話受付=祝祭日を除く月～金/11:00～19:00)

ONLINE support: <http://proaudio.yamaha.co.jp/>



ヤマハマニュアルライブラリー
<http://www.yamaha.co.jp/manual/japan/>

C.S.G., Pro Audio Division
© 2011 Yamaha Corporation

110IPTO-A0
Printed in Japan

WZ74190